

## 第4章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

## 第4章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

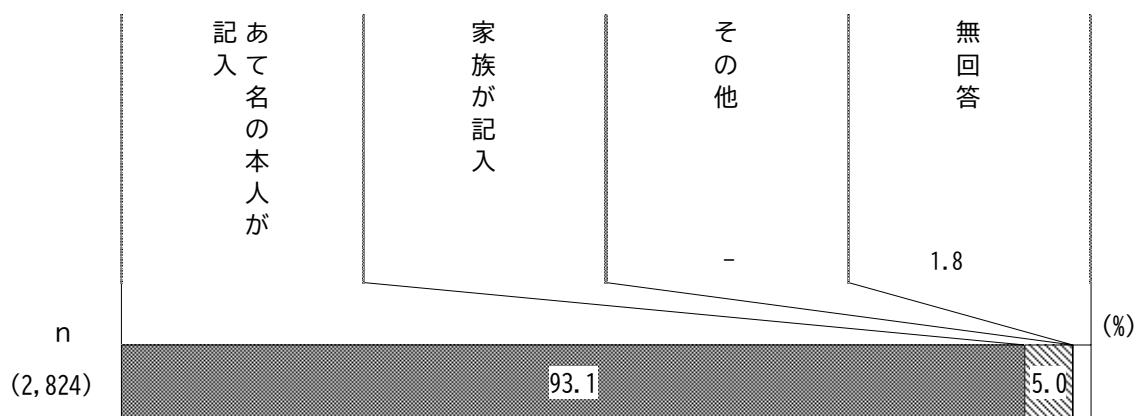
### 1. 本人や家族の状況について

#### (1) 調査票の回答者

問1 この調査票を記入されるのはどなたですか。(○は1つ)

調査票の回答者は、「あて名の本人が記入」が93.1%で最も高く、次いで「家族が記入」が5.0%となっている。

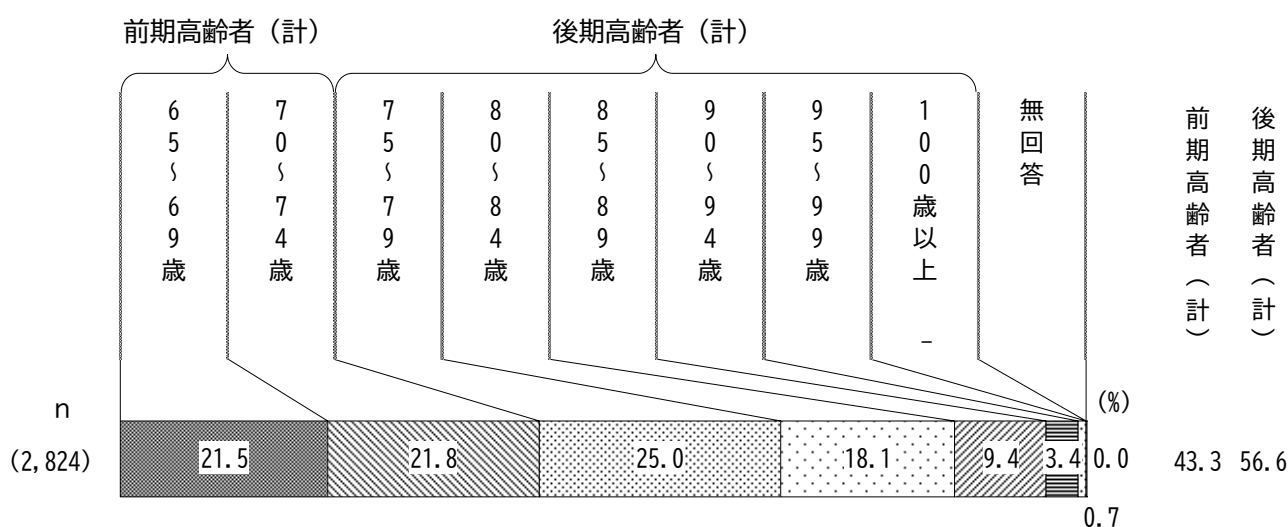
図表4-1-1 調査票の回答者



#### (2) 年齢

年齢は、「75～79歳」が25.0%で最も高く、次いで「70～74歳」が21.8%、「65～69歳」が21.5%となっている。また、全体では65歳から74歳の「前期高齢者（計）」が43.3%、75歳以上の「後期高齢者（計）」が56.6%となっている。

図表4-1-2 年齢



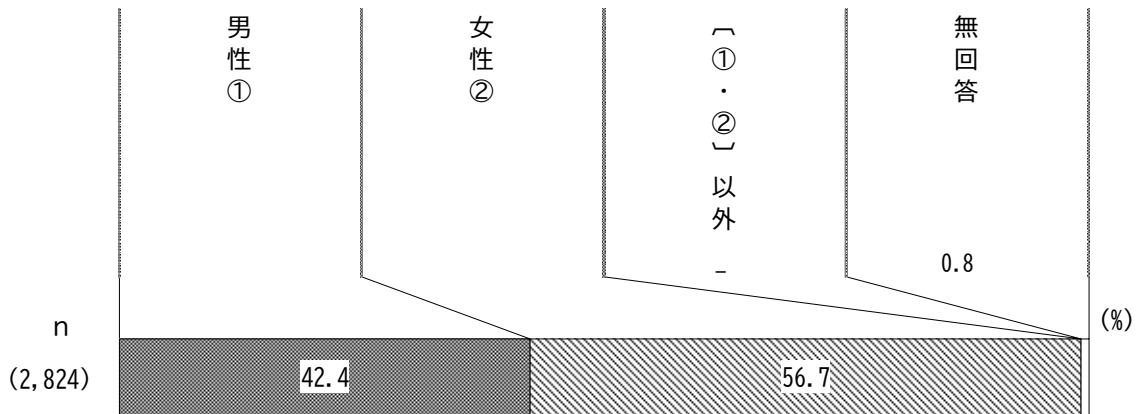
※年齢階級「95～99歳」は0.7%、「100歳以上」は該当者がいなかったため、以下の統計表では「90～94歳」と合わせて「90歳以上」として集計している。

(3) 性別

問2 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

性別は、「女性」が56.7%、「男性」が42.4%となっている。

図表4-1-3 性別

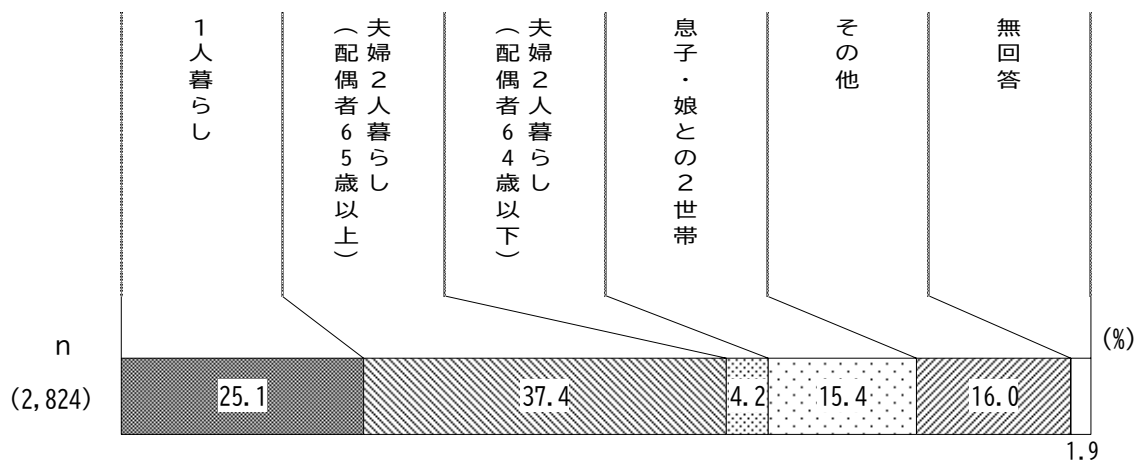


(4) 家族構成

問3 あなたの家族構成を教えてください。(○は1つ)

家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が37.4%で最も高く、次いで「1人暮らし」が25.1%、「息子・娘との2世帯」が15.4%となっている。

図表4-1-4 家族構成



家族構成を性別でみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」は男性46.5%、女性31.1%と男性が女性を15.4ポイント上回っている。また、「1人暮らし」は男性17.3%、女性31.1%と女性が男性を13.8ポイント上回っている。

年齢別にみると、男性では「65～69歳」を除く年齢で「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が最も高くなっている。女性では79歳以下の各年齢で「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が最も高く、80歳以上の各年齢では「1人暮らし」が最も高くなっている。

図表4-1-5 家族構成（性別・年齢別）

(上段:回答数、下段:%)

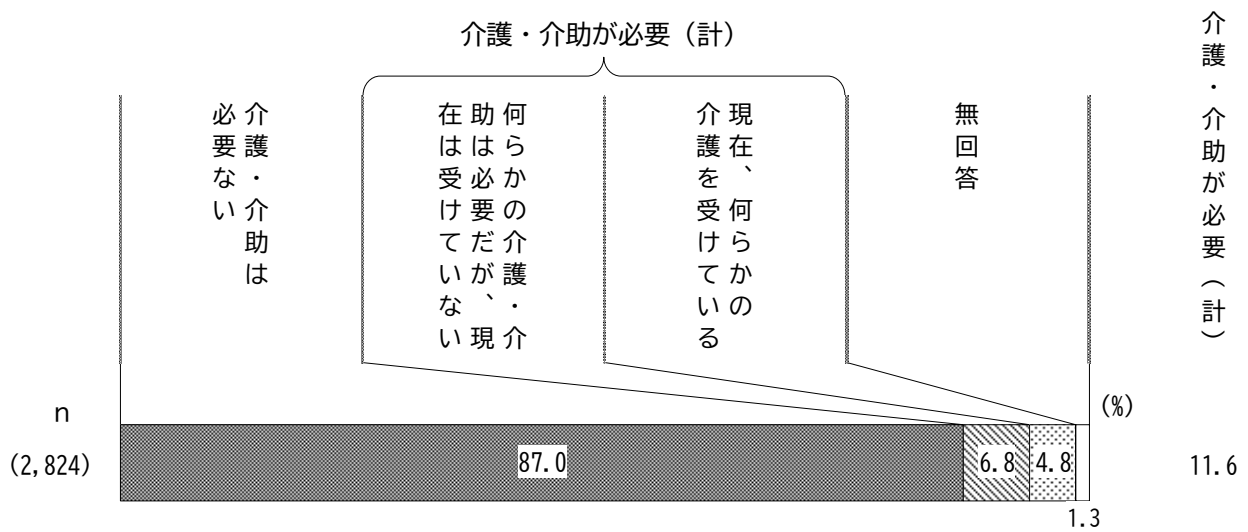
項目	調査数 (n)	1人暮らし	(夫婦2人暮らし 配偶者65歳以上)	(夫婦2人暮らし 配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答	
全体	2,824 100.0	708 25.1	1056 37.4	120 4.2	435 15.4	452 16.0	53 1.9	
性別・年齢別	男性全体	1,197 100.0	207 17.3	557 46.5	100 8.4	150 12.5	168 14.0	15 1.3
	男性 65～69歳	281 100.0	46 16.4	77 27.4	79 28.1	30 10.7	47 16.7	2 0.7
	男性 70～74歳	278 100.0	53 19.1	129 46.4	15 5.4	30 10.8	45 16.2	6 2.2
	男性 75～79歳	304 100.0	56 18.4	158 52.0	2 0.7	40 13.2	44 14.5	4 1.3
	男性 80～84歳	201 100.0	30 14.9	123 61.2	-	30 14.9	15 7.5	3 1.5
	男性 85～89歳	94 100.0	13 13.8	48 51.1	3 3.2	15 16.0	15 16.0	-
	男性 90歳以上	39 100.0	9 23.1	22 56.4	1 2.6	5 12.8	2 5.1	-
	女性全体	1,602 100.0	499 31.1	498 31.1	19 1.2	285 17.8	282 17.6	19 1.2
	女性 65～69歳	315 100.0	89 28.3	112 35.6	12 3.8	37 11.7	63 20.0	2 0.6
	女性 70～74歳	336 100.0	85 25.3	134 39.9	4 1.2	47 14.0	62 18.5	4 1.2
	女性 75～79歳	398 100.0	119 29.9	143 35.9	-	59 14.8	71 17.8	6 1.5
	女性 80～84歳	307 100.0	103 33.6	81 26.4	2 0.7	74 24.1	43 14.0	4 1.3
	女性 85～89歳	171 100.0	64 37.4	24 14.0	1 0.6	44 25.7	35 20.5	3 1.8
	女性 90歳以上	75 100.0	39 52.0	4 5.3	-	24 32.0	8 10.7	-
	無回答	25 100.0	2 8.0	1 4.0	1 4.0	-	2 8.0	19 76.0

(5) 介護・介助の状況

問4 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○は1つ)

介護・介助の状況は、「介護・介助は必要ない」が87.0%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.8%、「現在、何らかの介護を受けている」が4.8%となっている。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」を合わせた「介護・介助が必要(計)」は11.6%となっている。

図表4-1-6 介護・介助の状況



介護・介助の状況を性別で見ると、男女で大きな差は見られない。

年齢別にみると、男女ともに「介護・介助が必要（計）」は年齢が上がるほど高くなっており、「90歳以上」では男性が35.9%、女性が44.0%となっている。

図表4-1-7 介護・介助の状況（性別・年齢別）

（上段：回答数、下段：％）

項目	調査数 (n)	介護・介助は必要ない	て必要ないが、現在は介助は	何らかの介助は必要ない	受けていない	現在、何らかの介護を	無回答	（介護・介助が必要）
全体	2,824	2458	193	136	37			329
	100.0	87.0	6.8	4.8	1.3			11.6
性別・年齢別	男性全体	1,197	1061	67	63	6		130
		100.0	88.6	5.6	5.3	0.5		10.9
	男性 65～69歳	281	274	5	2	-		7
		100.0	97.5	1.8	0.7	-		2.5
	男性 70～74歳	278	266	5	6	1		11
		100.0	95.7	1.8	2.2	0.4		4.0
	男性 75～79歳	304	272	13	17	2		30
		100.0	89.5	4.3	5.6	0.7		9.9
	男性 80～84歳	201	160	22	17	2		39
		100.0	79.6	10.9	8.5	1.0		19.4
	男性 85～89歳	94	65	12	17	-		29
		100.0	69.1	12.8	18.1	-		30.9
	男性 90歳以上	39	24	10	4	1		14
		100.0	61.5	25.6	10.3	2.6		35.9
女性全体	1,602	1393	125	72	12		197	
	100.0	87.0	7.8	4.5	0.7		12.3	
女性 65～69歳	315	309	4	1	1		5	
	100.0	98.1	1.3	0.3	0.3		1.6	
女性 70～74歳	336	325	8	2	1		10	
	100.0	96.7	2.4	0.6	0.3		3.0	
女性 75～79歳	398	359	26	9	4		35	
	100.0	90.2	6.5	2.3	1.0		8.8	
女性 80～84歳	307	251	32	19	5		51	
	100.0	81.8	10.4	6.2	1.6		16.6	
女性 85～89歳	171	107	39	24	1		63	
	100.0	62.6	22.8	14.0	0.6		36.8	
女性 90歳以上	75	42	16	17	-		33	
	100.0	56.0	21.3	22.7	-		44.0	

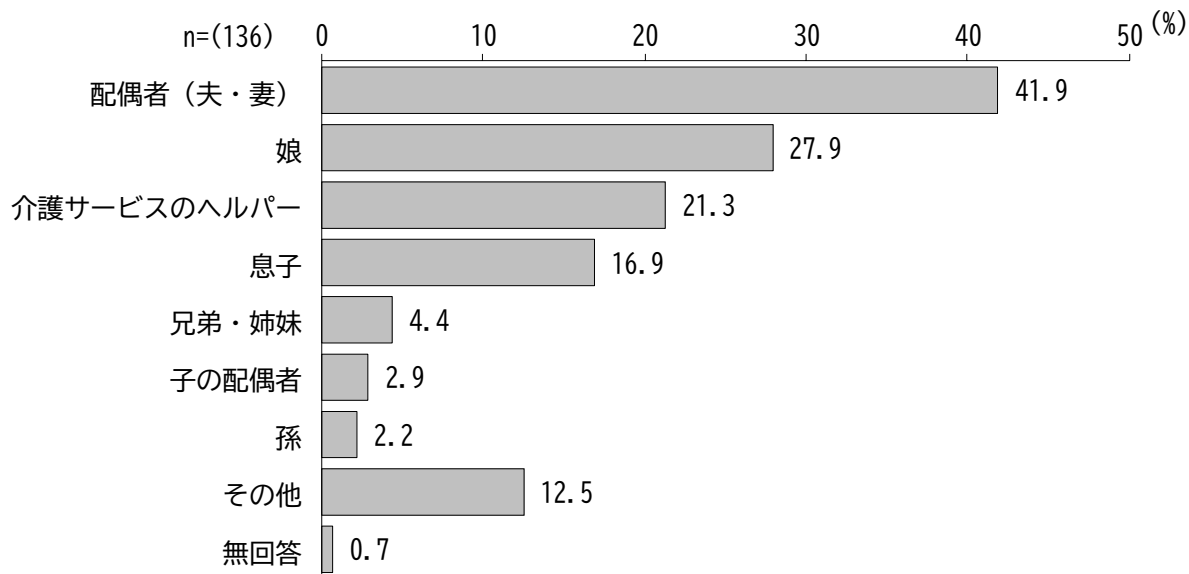
(6) 主な介護者の続柄

【問4において「3」と回答した方におたずねします。】

問4-1 主にどなたの介護・介助を受けていますか。(〇はいくつでも)

主な介護者の続柄は、「配偶者(夫・妻)」が41.9%で最も高く、次いで「娘」が27.9%、「介護サービスのヘルパー」が21.3%となっている。

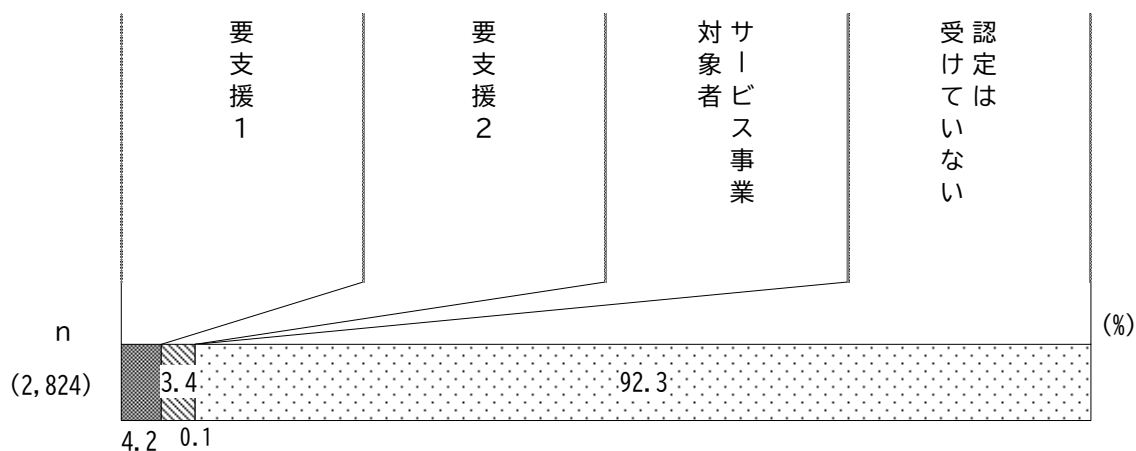
図表4-1-8 主な介護者の続柄(複数回答)



(7) 要支援認定等の状況

要支援認定等の状況は、「要支援1」が4.2%、「要支援2」が3.4%、「サービス事業対象者」が0.1%となっている。また、「認定は受けていない」が92.3%となっている。

図表4-1-9 要支援認定等の状況

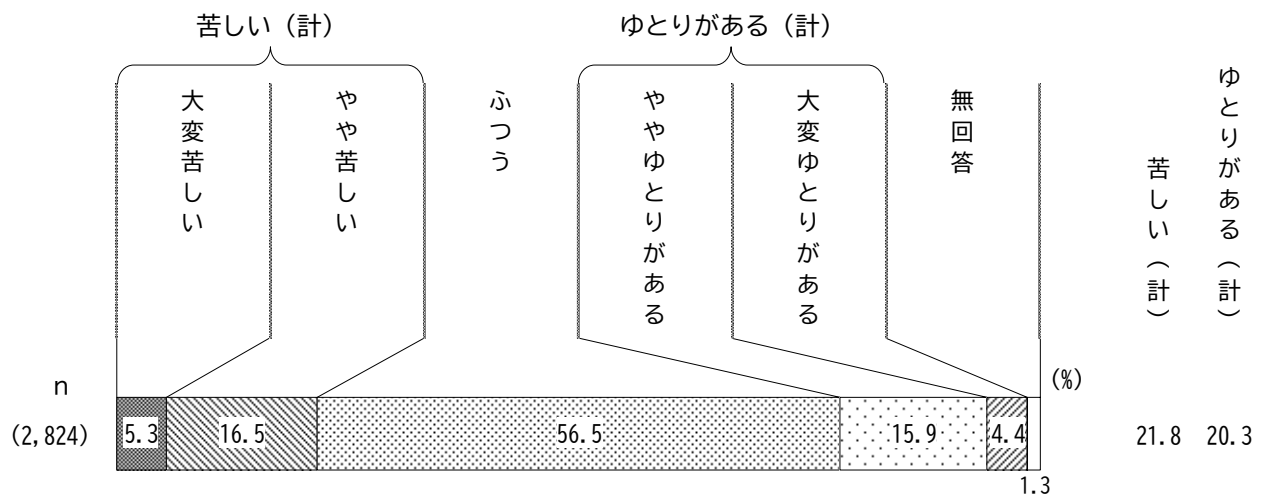


(8) 経済的に見た暮らしの状況

問5 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○は1つ)

経済的に見た暮らしの状況は、「ふつう」が56.5%で最も高く、次いで「やや苦しい」が16.5%、「ややゆとりがある」が15.9%となっている。「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた《苦しい(計)》は21.8%、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた《ゆとりがある(計)》は20.3%となっている。

図表4-1-10 経済的に見た暮らしの状況

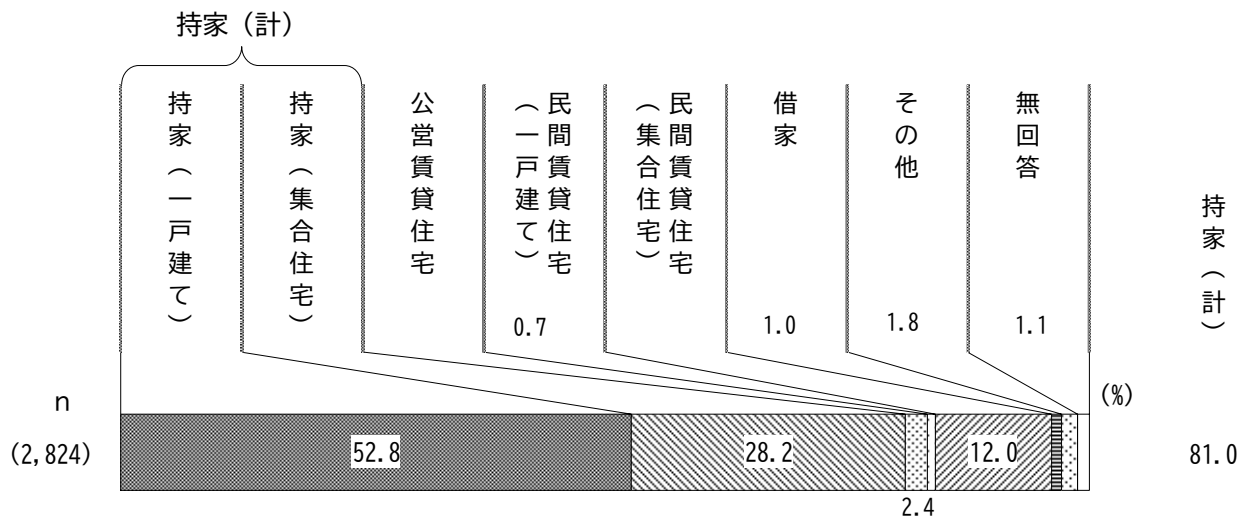


(9) 住まいの種類

問6 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(○は1つ)

住まいの種類は、「持家(一戸建て)」が52.8%で最も高く、次いで「持家(集合住宅)」が28.2%、「民間賃貸住宅(集合住宅)」が12.0%となっている。「持家(一戸建て)」「持家(集合住宅)」を合わせた《持家(計)》は81.0%となっている。

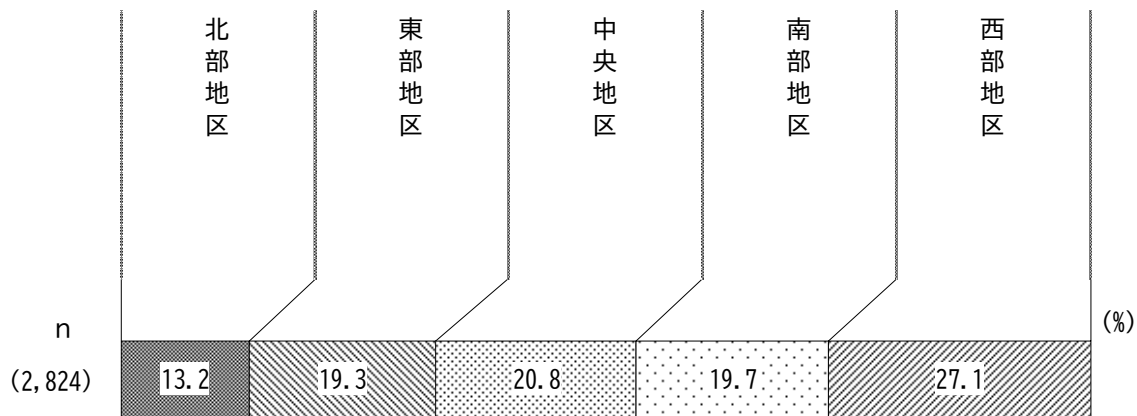
図表4-1-11 住まいの種類



(10) 居住地区

居住地区は、「西部地区」が27.1%で最も高く、次いで「中央地区」が20.8%、「南部地区」が19.7%となっている。

図表4-1-12 居住地区



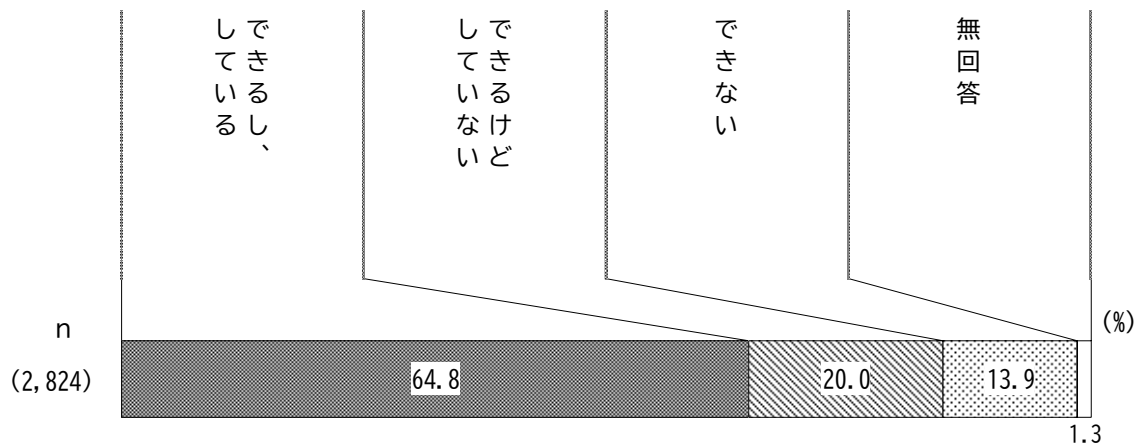
## 2. からだを動かすことについて

### (1) 階段の上り下り

問7 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○は1つ)

階段の上り下りは、「できるし、している」が64.8%、「できるけどしていない」が20.0%、「できない」が13.9%となっている。

図表4-2-1 階段の上り下り

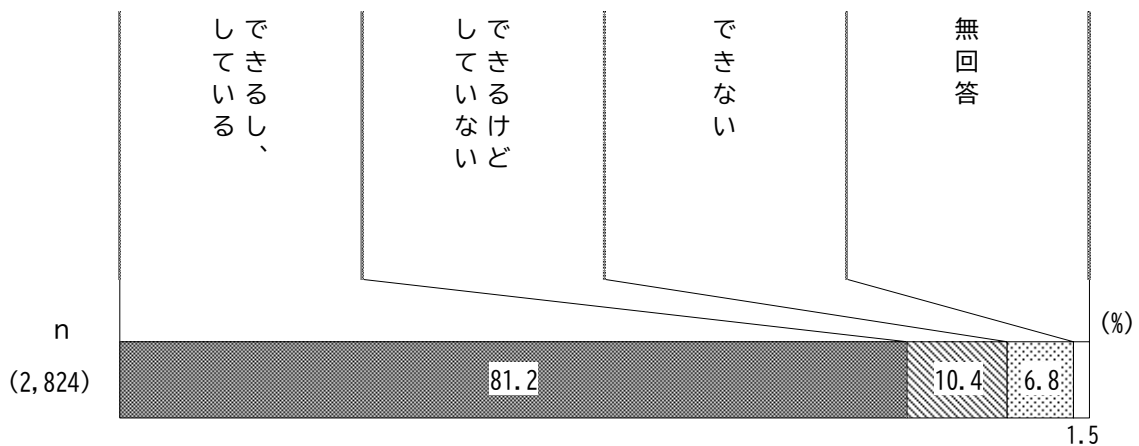


### (2) 立ち上がり

問8 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○は1つ)

立ち上がりは、「できるし、している」が81.2%、次いで「できるけどしていない」が10.4%、「できない」が6.8%となっている。

図表4-2-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がる

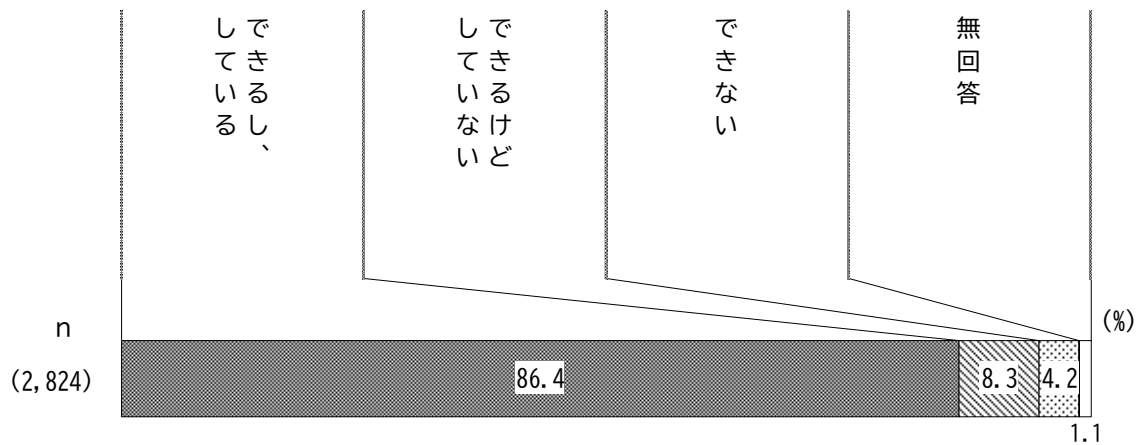


(3) 15分位の歩行

問9 15分位続けて歩いていますか。(○は1つ)

15分位の歩行は、「できるし、している」が86.4%、「できるけどしていない」が8.3%、「できない」が4.2%となっている。

図表4-2-3 15分位の歩行

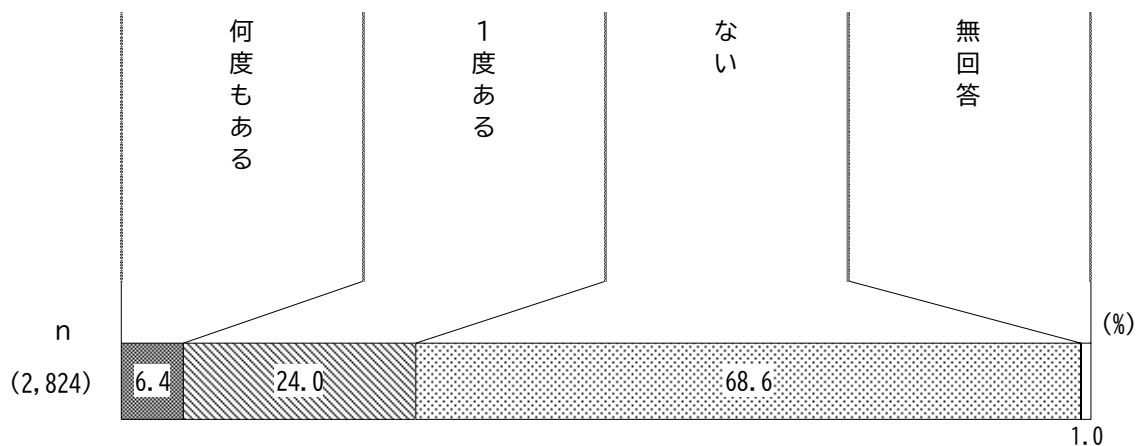


(4) 過去1年間の転倒経験

問10 過去1年間に転んだ経験がありますか。(○は1つ)

過去1年間の転倒経験は、「ない」が68.6%、「1度ある」が24.0%、「何度もある」が6.4%となっている。

図表4-2-4 過去1年間の転倒経験

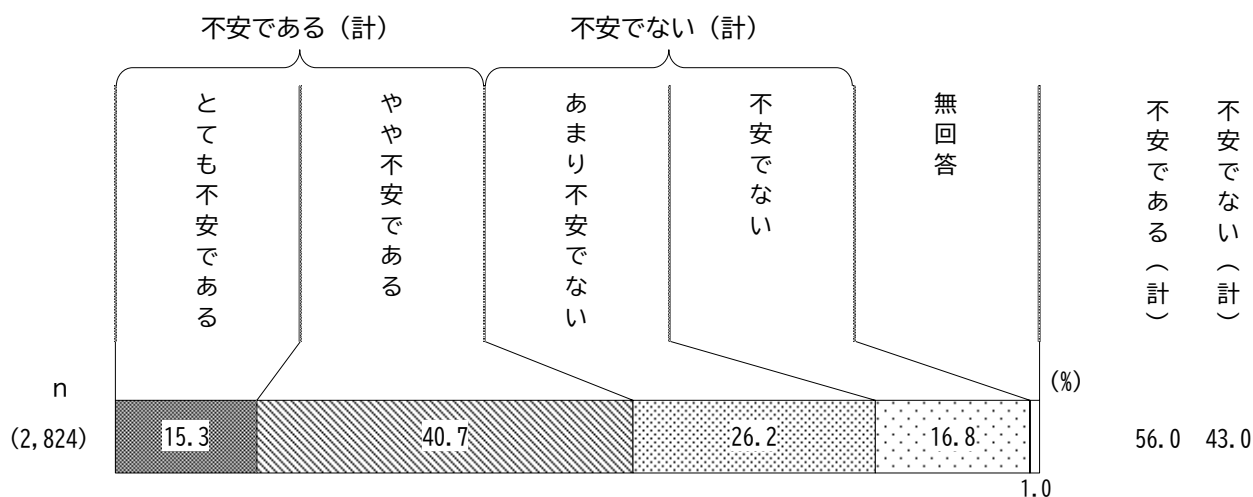


(5) 転倒に対する不安

問11 転倒に対する不安は大きいですか。(○は1つ)

転倒に対する不安は、「やや不安である」が40.7%で最も高く、次いで「あまり不安でない」が26.2%、「不安でない」が16.8%となっている。「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた《不安である(計)》は56.0%、「あまり不安でない」と「不安でない」を合わせた《不安でない(計)》は43.0%となっている。

図表4-2-5 転倒に対する不安

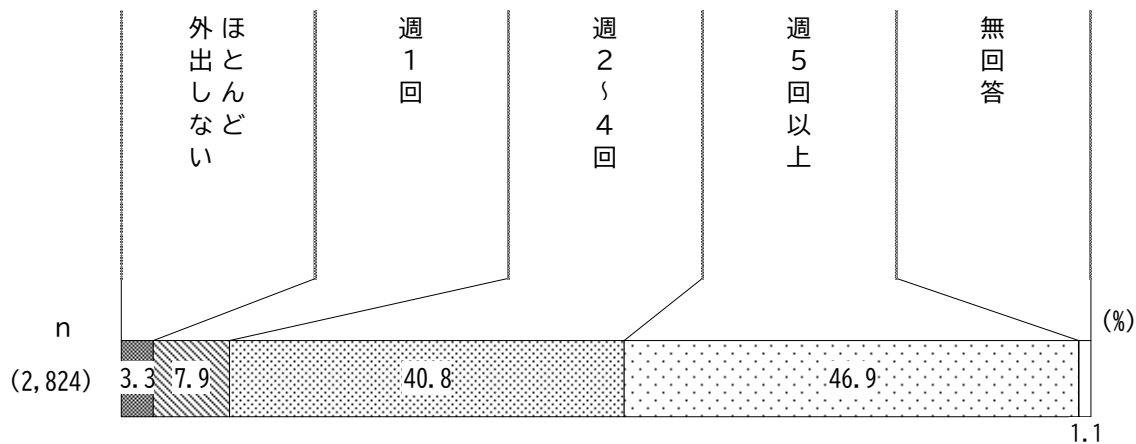


(6) 外出の状況

問12 週に1回以上は外出していますか。(○は1つ)

外出の状況は、「週5回以上」が46.9%で最も高く、次いで「週2~4回」が40.8%、「週1回」が7.9%となっている。

図表4-2-6 外出の状況

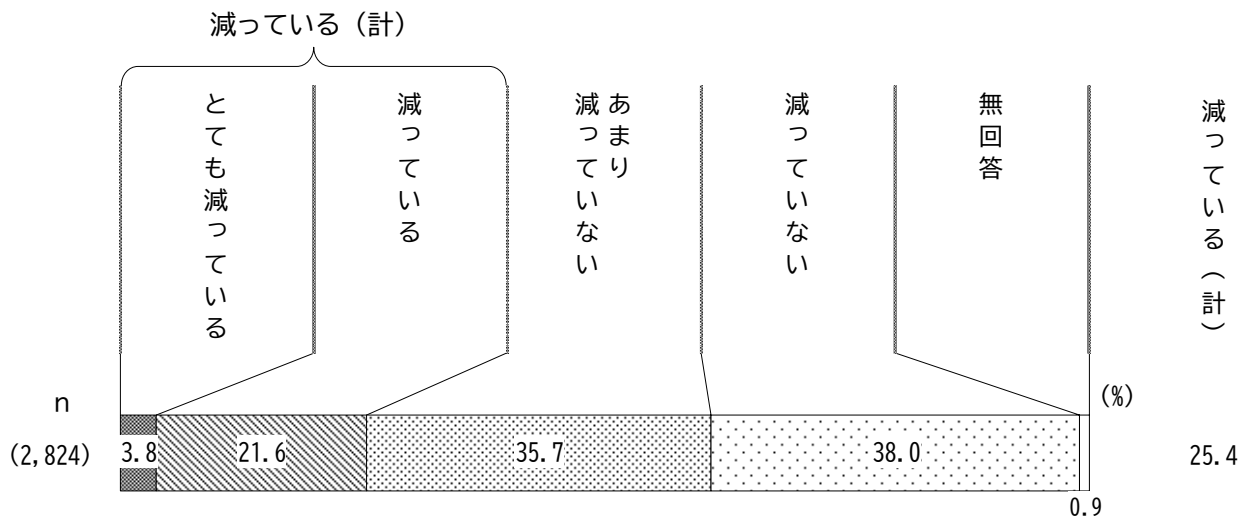


(7) 外出回数の昨年との比較

問13 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(○は1つ)

昨年と比べての外出回数は、「減っていない」が38.0%で最も高く、次いで「あまり減っていない」が35.7%、「減っている」が21.6%となっている。「とても減っている」と「減っている」を合わせた「減っている(計)」は25.4%となっている。

図表4-2-7 外出回数の昨年との比較

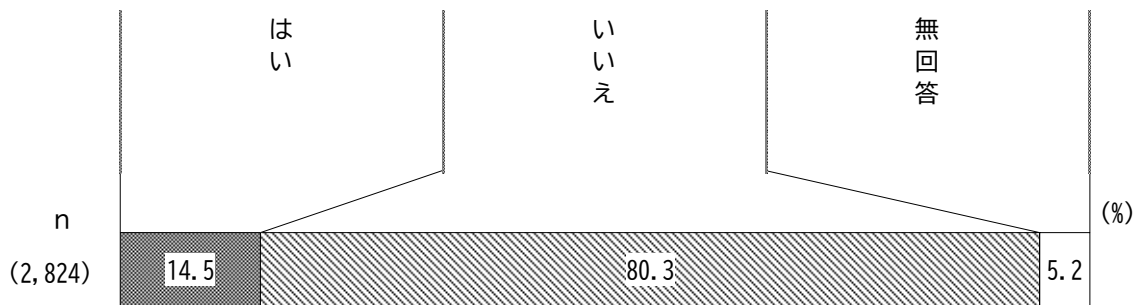


(8) 外出の控えの有無

問14 外出を控えていますか。(○は1つ)

外出の控えの有無は、「いいえ」が80.3%、「はい」が14.5%となっている。

図表4-2-8 外出の控えの有無



外出の控えの有無を性別で見ると、「外出を控えている（はい）」は男性11.2%、女性17.0%と女性が男性を6.0ポイント上回っている。

年齢別にみると、男女ともに「外出を控えている（はい）」は年齢が上がるほど高くなる傾向があり、「90歳以上」は男性が33.3%、女性が46.7%となっている。

図表4-2-9 外出の控えの有無（性別・年齢別）

(上段:回答数、下段:%)

項目		調査数 (n)	はい	いいえ	無回答
全体		2,824 100.0	409 14.5	2267 80.3	148 5.2
性別・年齢別	男性全体	1,197 100.0	134 11.2	997 83.3	66 5.5
	男性 65～69歳	281 100.0	15 5.3	249 88.6	17 6.0
	男性 70～74歳	278 100.0	21 7.6	245 88.1	12 4.3
	男性 75～79歳	304 100.0	31 10.2	257 84.5	16 5.3
	男性 80～84歳	201 100.0	37 18.4	148 73.6	16 8.0
	男性 85～89歳	94 100.0	17 18.1	74 78.7	3 3.2
	男性 90歳以上	39 100.0	13 33.3	24 61.5	2 5.1
	女性全体	1,602 100.0	272 17.0	1252 78.2	78 4.9
	女性 65～69歳	315 100.0	25 7.9	282 89.5	8 2.5
	女性 70～74歳	336 100.0	25 7.4	292 86.9	19 5.7
	女性 75～79歳	398 100.0	52 13.1	327 82.2	19 4.8
	女性 80～84歳	307 100.0	73 23.8	219 71.3	15 4.9
	女性 85～89歳	171 100.0	62 36.3	96 56.1	13 7.6
	女性 90歳以上	75 100.0	35 46.7	36 48.0	4 5.3
	無回答	25 100.0	3 12.0	18 72.0	4 16.0

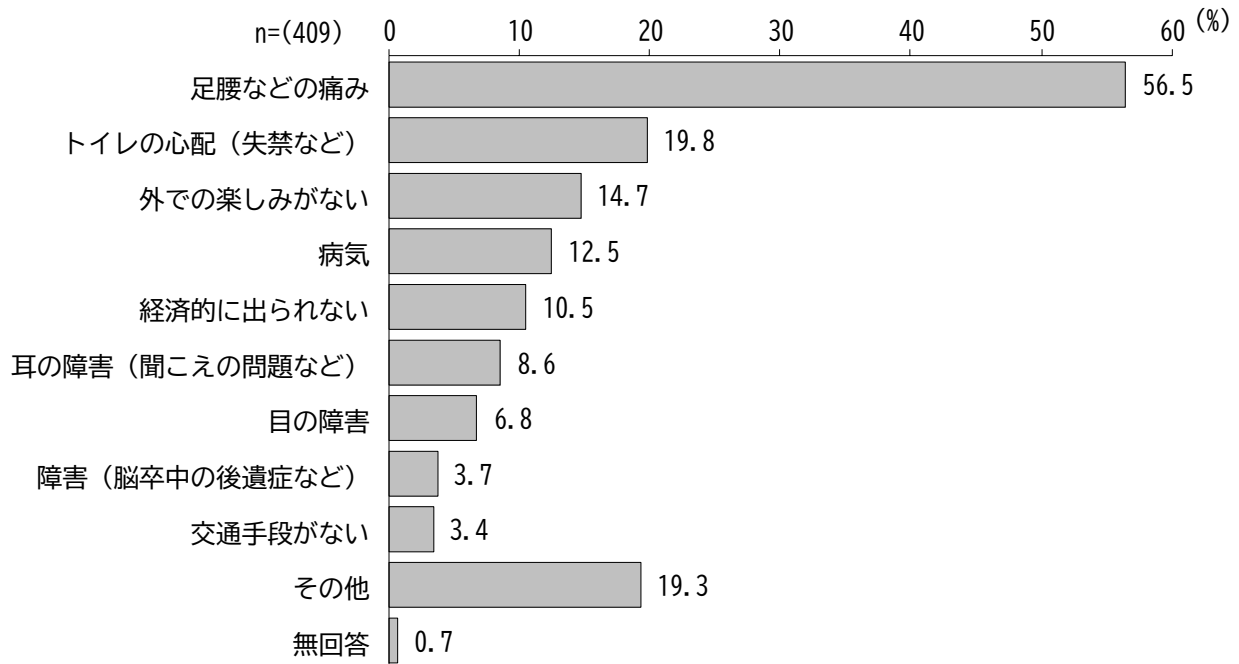
(9) 外出を控えている理由

【問14において「1. はい」と回答した方におたずねします。】

問14-1 外出を控えている理由は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」が56.5%で最も高く、次いで「トイレの心配（失禁など）」が19.8%、「外での楽しみがない」が14.7%となっている。

図表4-2-10 外出を控えている理由（複数回答）



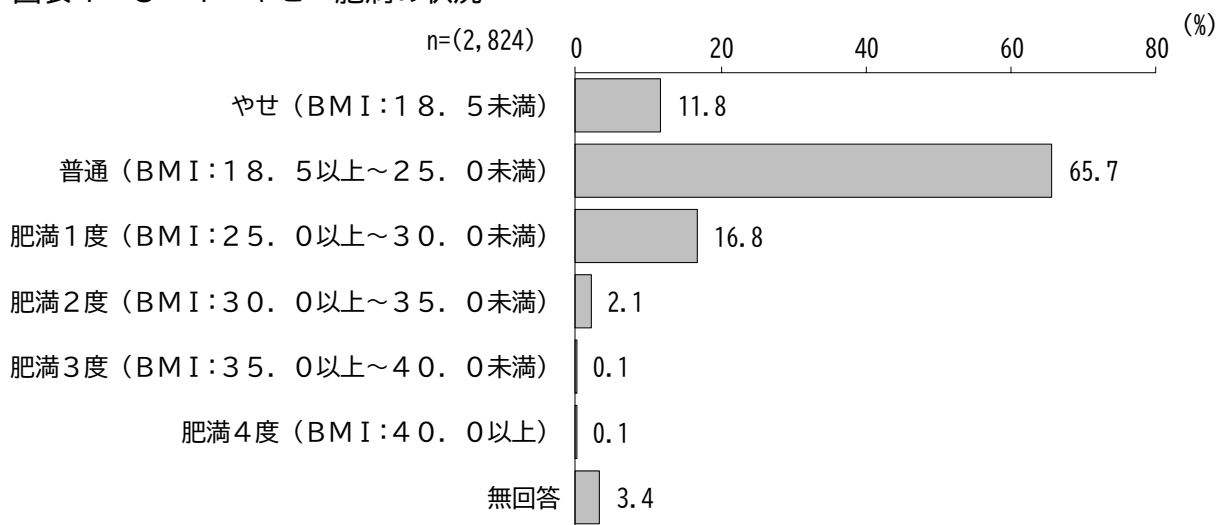
### 3. 食べることについて

#### (1) やせ・肥満の状況

問15 身長・体重（数字を記入してください。）

やせ・肥満の状況は、「普通（BMI：18.5以上～25.0未満）」が65.7%で最も高く、次いで「肥満1度（BMI：25.0以上～30.0未満）」が16.8%、「やせ（BMI：18.5未満）」が11.8%となっている。

図表4-3-1 やせ・肥満の状況



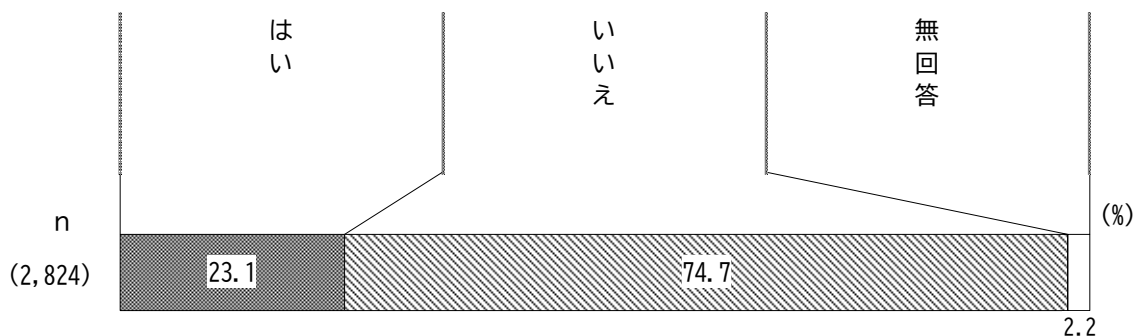
※BMI = [体重 (kg)] ÷ [身長 (m) の2乗]

#### (2) 固いものの食べにくさ

問16 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(○は1つ)

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかは、「いいえ」が74.7%、「はい」が23.1%となっている。

図表4-3-2 半年前に比べて固いものの食べにくくなったか

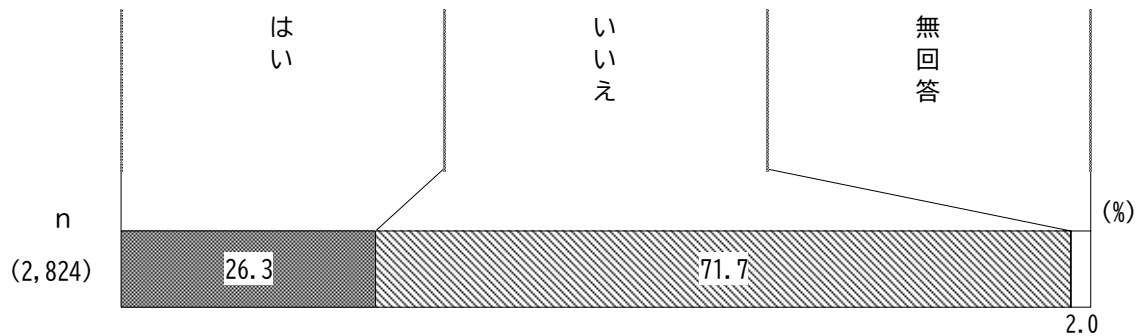


(3) むせること

問17 お茶や汁物等でむせることがありますか。(○は1つ)

むせることは、「いいえ」が71.7%、「はい」が26.3%となっている。

図表4-3-3 むせること

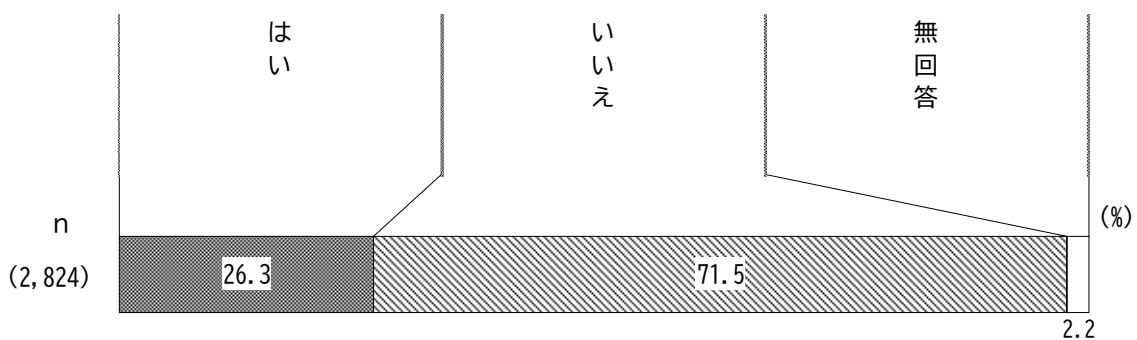


(4) 口の渇き

問18 口の渇きが気になりますか。(○は1つ)

口の渇きは、「いいえ」が71.5%、「はい」が26.3%となっている。

図表4-3-4 口の渇き

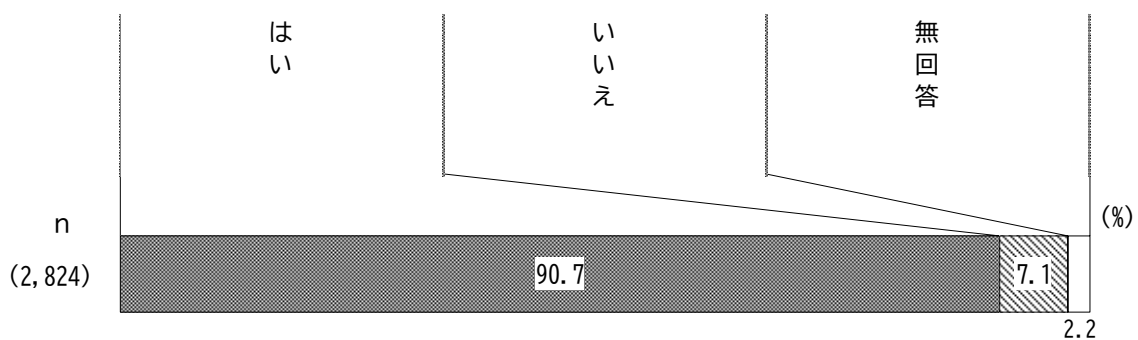


(5) 毎日の歯磨き

問19 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。(○は1つ)

毎日の歯磨きは、「はい」が90.7%、「いいえ」が7.1%となっている。

図表4-3-5 毎日の歯磨き

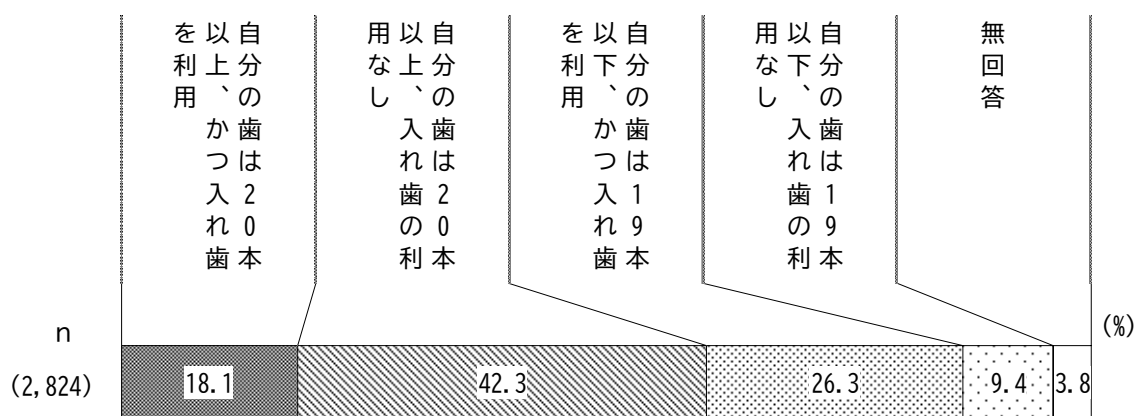


(6) 歯の数と入れ歯の利用状況

問20 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(○は1つ)

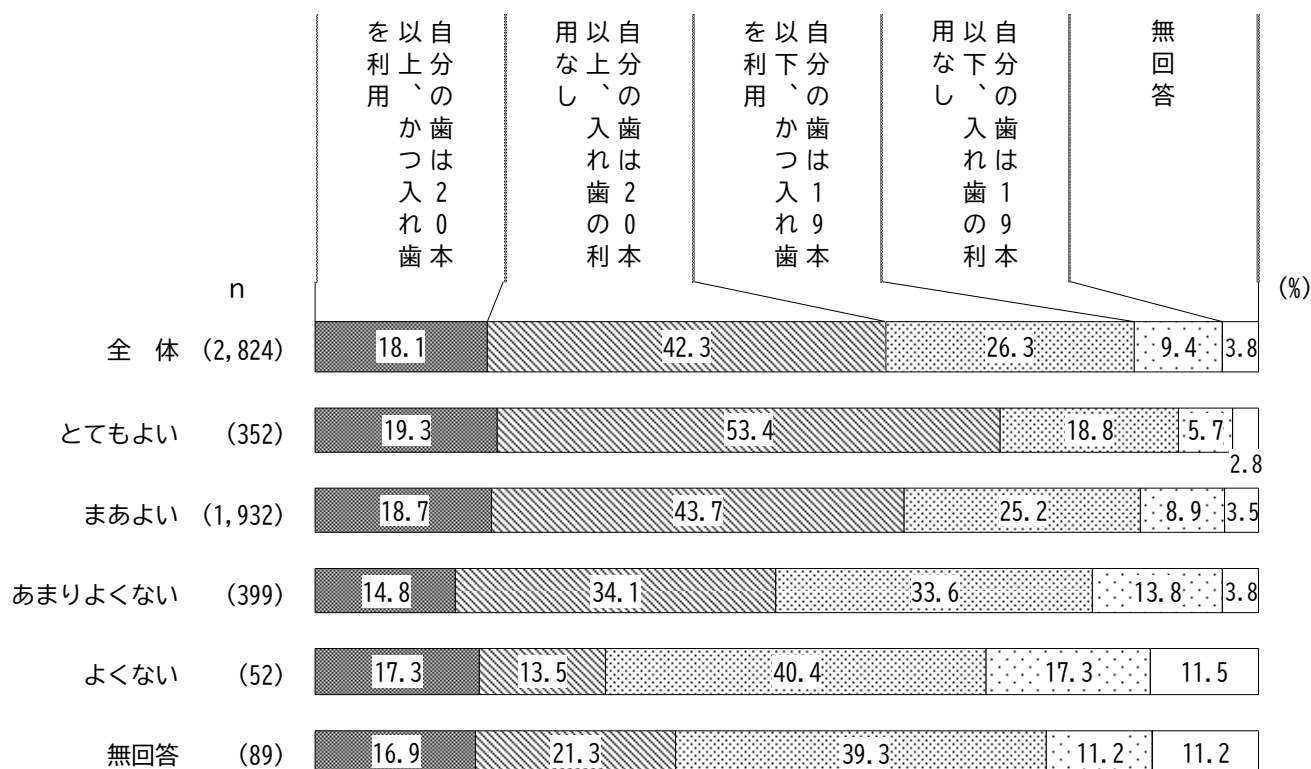
歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が42.3%で最も高く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が26.3%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が18.1%となっている。

図表4-3-6 歯の数と入れ歯の利用状況



健康状態別にみると、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」は健康状態がよいほど高くなり、「とてもよい」で53.4%となっている。一方、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」は健康状態がよくないほど高くなっており、「よくない」で「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」は40.4%、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」は17.3%となっている。

図表4-3-7 歯の数と入れ歯の利用状況（健康状態別）

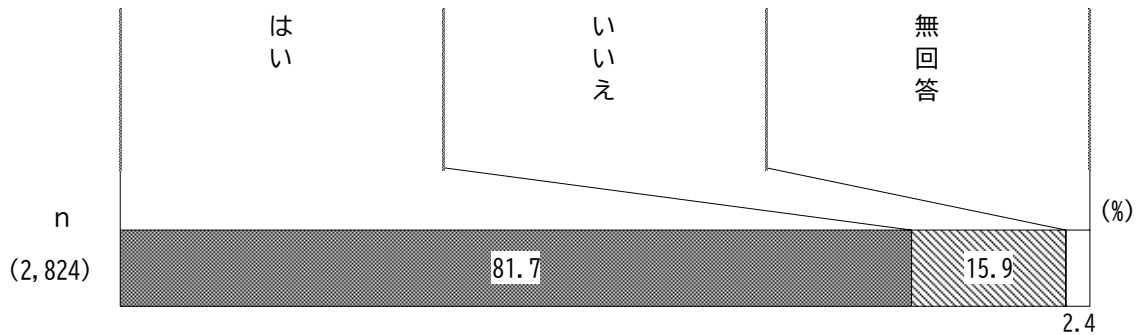


(7) 噛み合わせ

問21 噛み合わせは良いですか。(○は1つ)

噛み合わせが良いかは、「はい」が81.7%、「いいえ」が15.9%となっている。

図表4-3-8 噛み合わせ

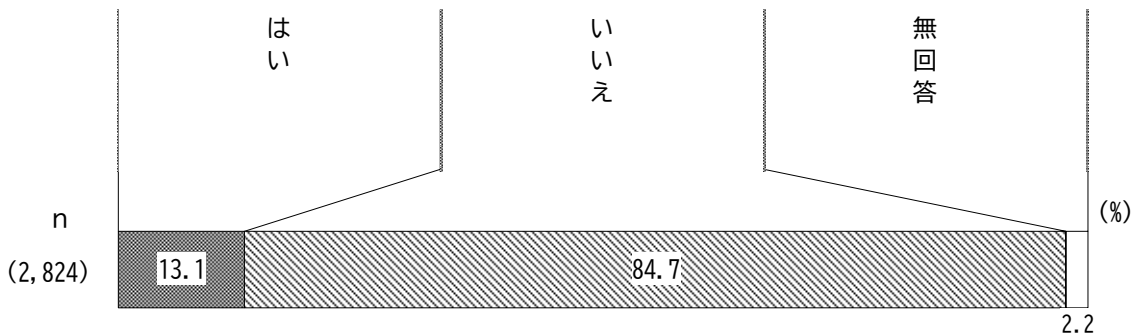


(8) 6か月間での体重減少

問22 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(○は1つ)

6か月間での体重減少は、「いいえ」が84.7%、「はい」が13.1%となっている。

図表4-3-9 6か月間での体重の減少

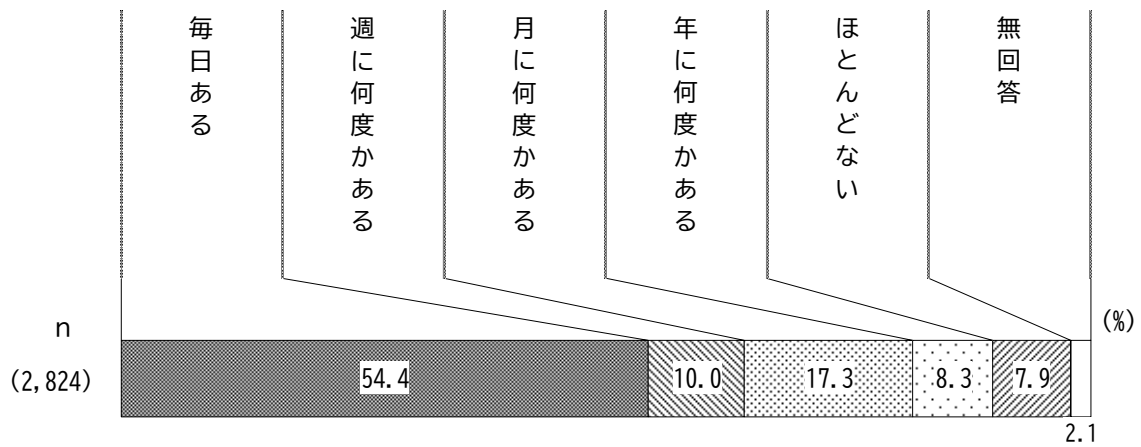


(9) 誰かと食事を共にする機会

問23 どなたかと食事をともにする機会がありますか。(○は1つ)

誰かと食事を共にする機会は、「毎日ある」が54.4%で最も高く、次いで「月に何度かある」が17.3%、「週に何度かある」が10.0%となっている。

図表4-3-10 誰かと食事を共にする機会



#### 第4章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

誰かと食事を共にする機会を家族構成別にみると、「毎日ある」は「1人暮らし」を除く家族構成でそれぞれ最も高くなっており、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」と「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」では7割以上となっている。一方、「1人暮らし」では「月に何度かある」が39.3%と最も高くなってきている。

健康状態別にみると、「毎日ある」は健康状態が良いほど高くなる傾向にあり、「とてもよい」で63.1%と最も高くなってきている。一方、「ほとんどない」は健康状態が悪いほど高くなる傾向にあり、「よくない」で17.3%となっている。

図表4-3-11 食事を共にする機会（家族構成別・健康状態別）

(上段:回答数、下段:%)

項目		調査数 (n)	毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答
全体		2,824 100.0	1537 54.4	283 10.0	489 17.3	235 8.3	222 7.9	58 2.1
家族構成	1人暮らし	708 100.0	31 4.4	117 16.5	278 39.3	130 18.4	136 19.2	16 2.3
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	1,056 100.0	807 76.4	68 6.4	91 8.6	46 4.4	27 2.6	17 1.6
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	120 100.0	85 70.8	13 10.8	12 10.0	3 2.5	5 4.2	2 1.7
	息子・娘との2世帯	435 100.0	270 62.1	43 9.9	65 14.9	29 6.7	21 4.8	7 1.6
	その他	452 100.0	309 68.4	40 8.8	38 8.4	22 4.9	30 6.6	13 2.9
健康状態	とてもよい	352 100.0	222 63.1	37 10.5	63 17.9	15 4.3	11 3.1	4 1.1
	まあよい	1,932 100.0	1077 55.7	198 10.2	329 17.0	171 8.9	122 6.3	35 1.8
	あまりよくない	399 100.0	183 45.9	32 8.0	71 17.8	39 9.8	67 16.8	7 1.8
	よくない	52 100.0	25 48.1	8 15.4	6 11.5	2 3.8	9 17.3	2 3.8

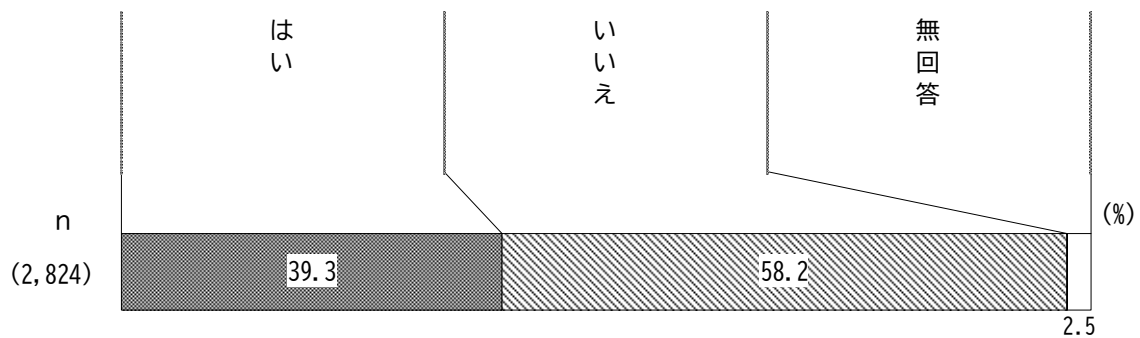
## 4. 毎日の生活について

### (1) 物忘れの状況

問24 物忘れが多いと感じますか。(〇は1つ)

物忘れが多いと感じるかは、「いいえ」が58.2%、「はい」が39.3%となっている。

図表4-4-1 物忘れの状況

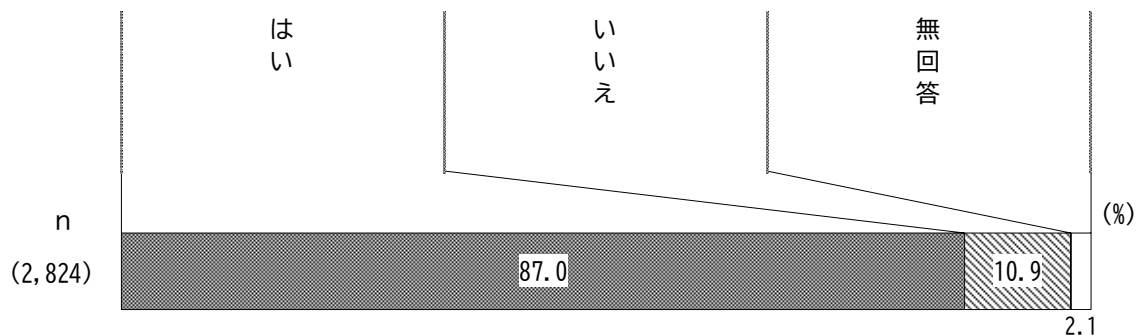


### (2) 電話をかけること

問25 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(〇は1つ)

自分で電話番号を調べて電話をかけることをするかは、「はい」が87.0%、「いいえ」が10.9%となっている。

図表4-4-2 電話をかけること

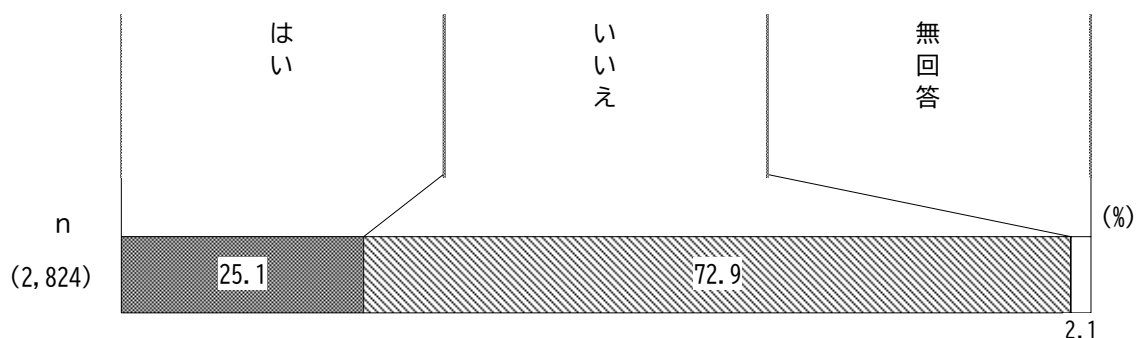


### (3) 今日の月日がわからない時があるか

問26 今日が何月何日かわからない時がありますか。(〇は1つ)

今日の月日がわからない時があるかは、「いいえ」が72.9%、「はい」が25.1%となっている。

図表4-4-3 今日の月日がわからない時があるか

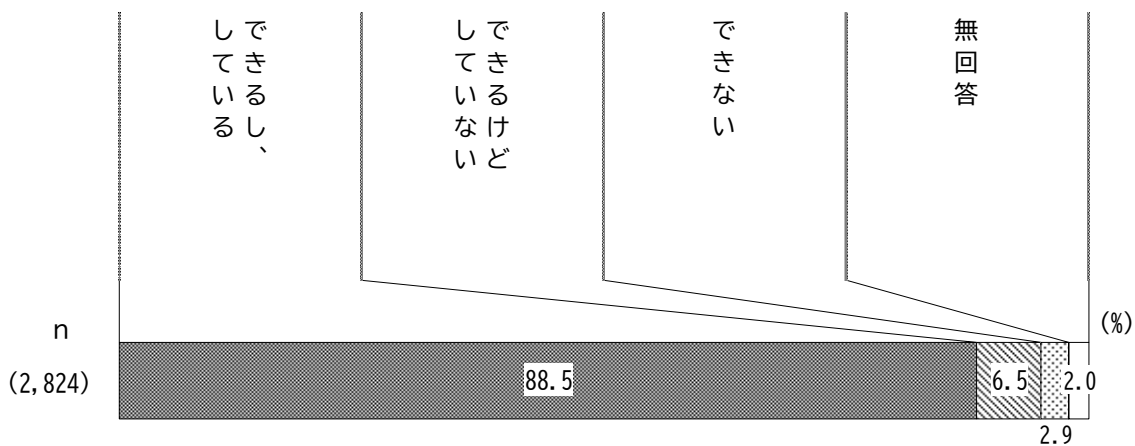


(4) バス・電車等を使っての1人での外出

問27 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可) (○は1つ)

バス・電車等を使っての1人での外出は、「できるし、している」が88.5%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が6.5%、「できない」が2.9%となっている。

図表4-4-4 バス・電車等を使っての1人での外出

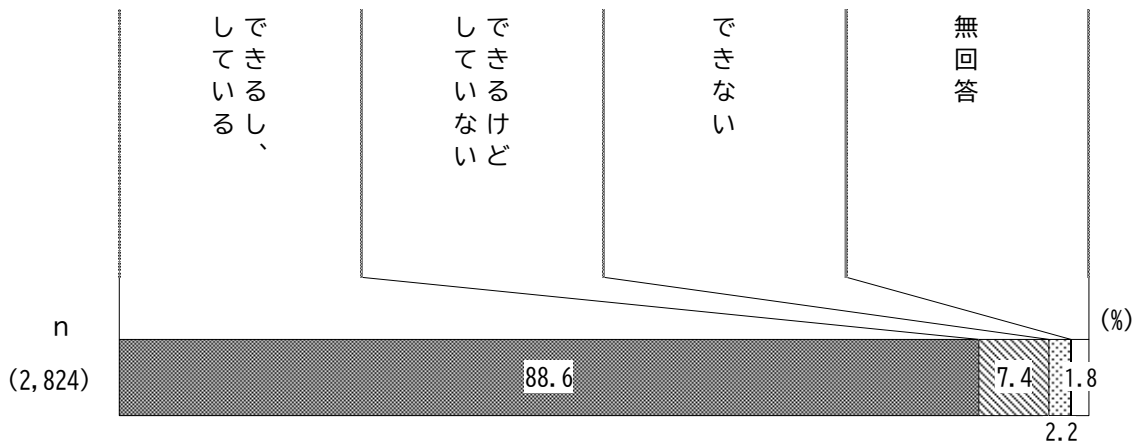


(5) 食品・日用品の買物

問28 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(○は1つ)

食品・日用品の買物は、「できるし、している」が88.6%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が7.4%、「できない」が2.2%となっている。

図表4-4-5 食品・日用品の買物

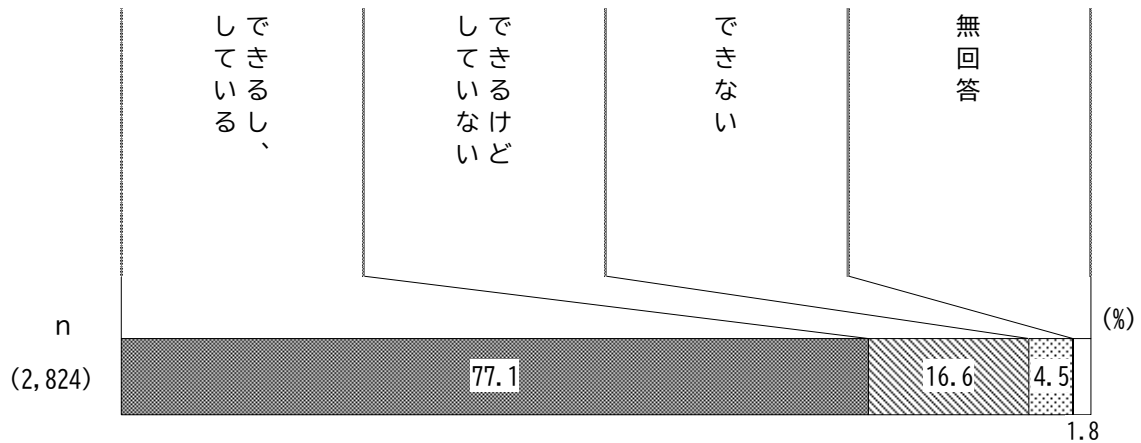


(6) 食事の用意

問29 自分で食事の用意をしていますか。(○は1つ)

食事の用意は、「できるし、している」が77.1%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が16.6%、「できない」が4.5%となっている。

図表4-4-6 食事の用意

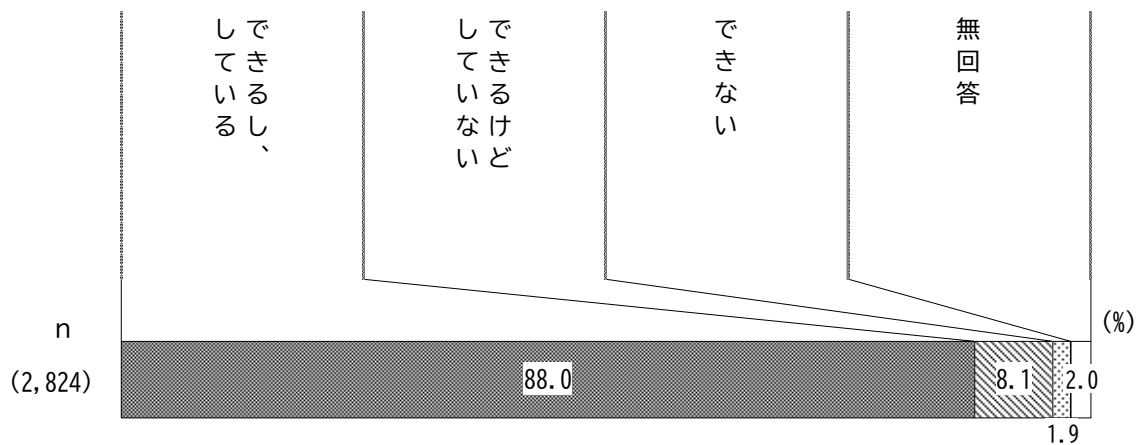


(7) 請求書の支払い

問30 自分で請求書の支払いをしていますか。(○は1つ)

請求書の支払いは、「できるし、している」が88.0%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が8.1%、「できない」が1.9%となっている。

図表4-4-7 請求書の支払い

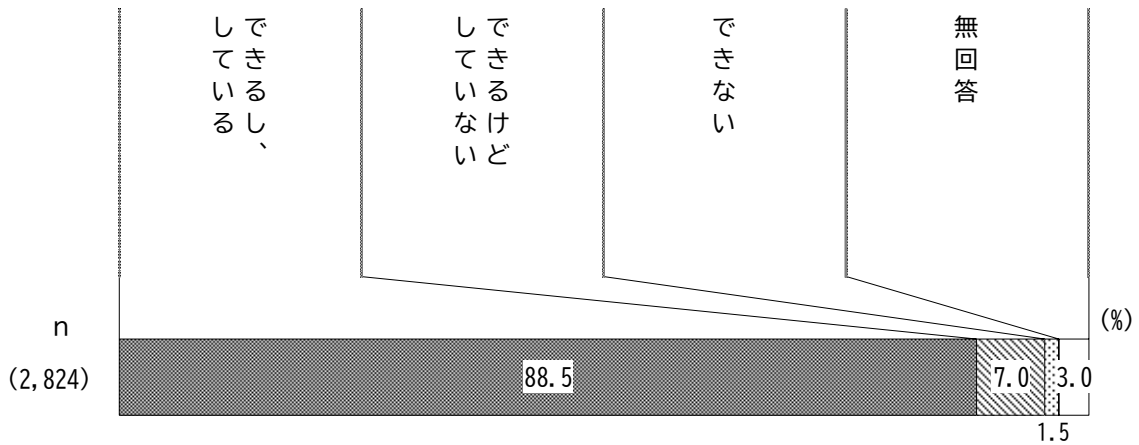


(8) 預貯金の出し入れ

問31 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(○は1つ)

預貯金の出し入れは、「できるし、している」が88.5%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が7.0%、「できない」が1.5%となっている。

図表4-4-8 預貯金の出し入れ

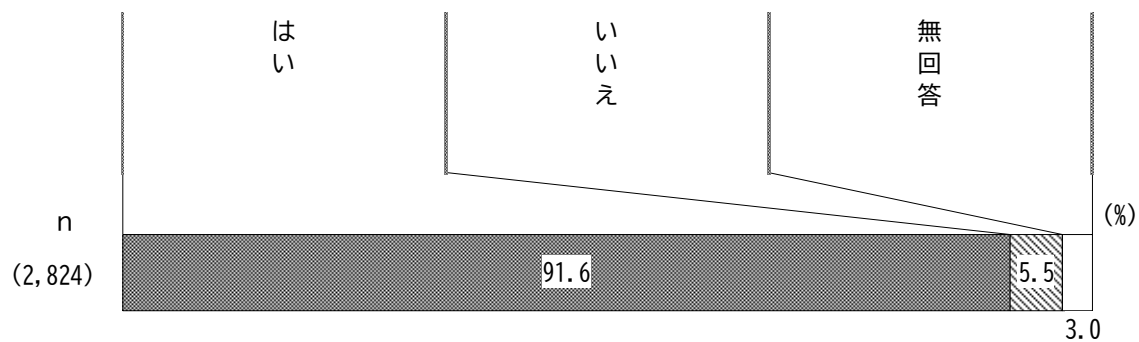


(9) 書類の記入

問32 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。(○は1つ)

書類の記入ができるかは、「はい」が91.6%、「いいえ」が5.5%となっている。

図表4-4-9 年金などの書類の記入

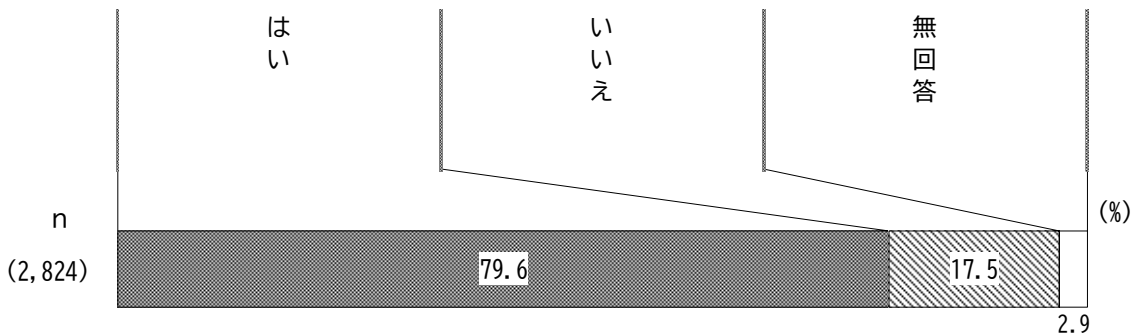


(10) 本や雑誌を読むか

問33 本や雑誌を読んでいますか。(○は1つ)

本や雑誌を読むかは、「はい」が79.6%、「いいえ」が17.5%となっている。

図表4-4-10 本や雑誌を読む

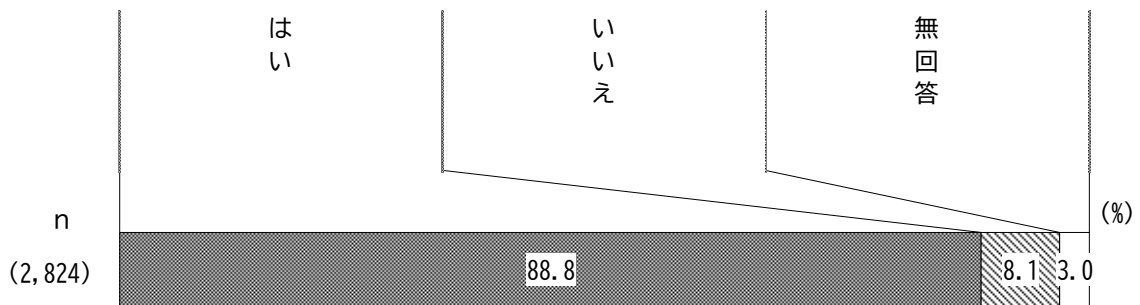


(11) 健康についての記事や番組への関心

問34 健康についての記事や番組に関心がありますか。(○は1つ)

健康についての記事や番組への関心があるかは、「はい」が88.8%、「いいえ」が8.1%となっている。

図表4-4-11 健康についての記事や番組への関心

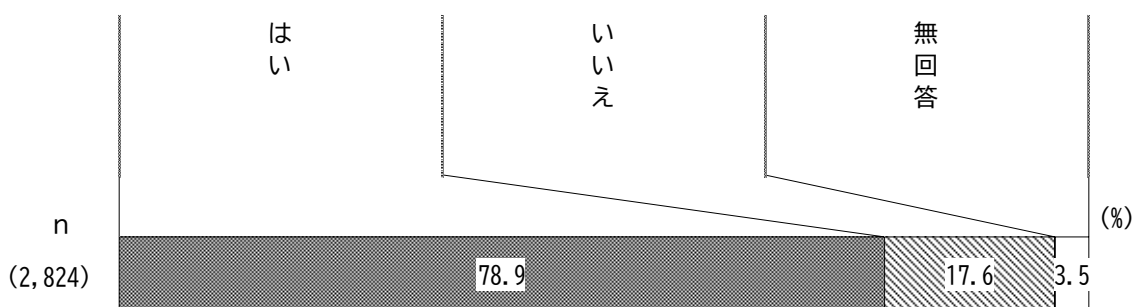


(12) 家族や友人の相談への対応

問35 家族や友人の相談にのっていますか。(○は1つ)

家族や友人の相談への対応は、「はい」が78.9%、「いいえ」が17.6%となっている。

図表4-4-12 家族や友人の相談への対応



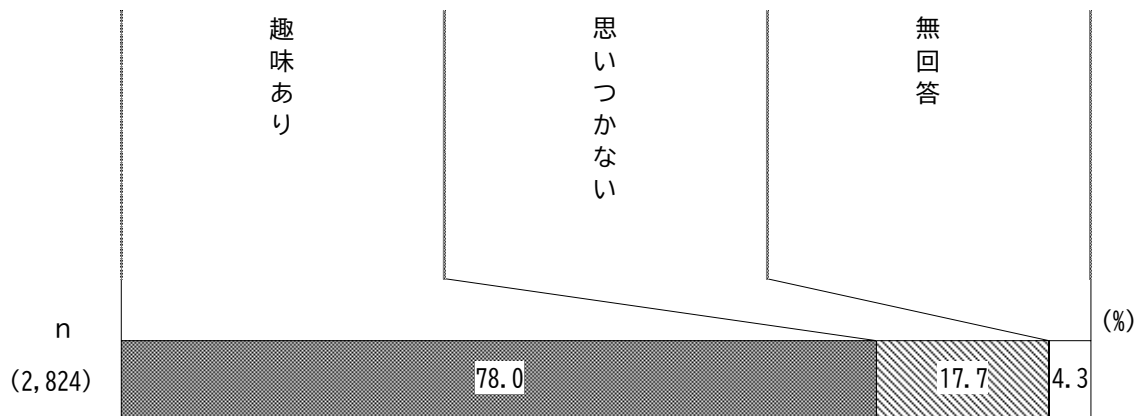
(13) 趣味の有無

問36 趣味はありますか。(○は1つ)

(「1. 趣味あり」の方は( )内に趣味をご記入ください。)

趣味の有無は、「趣味あり」が78.0%、「思いつかない」が17.7%となっている。

図表4-4-13 趣味の有無



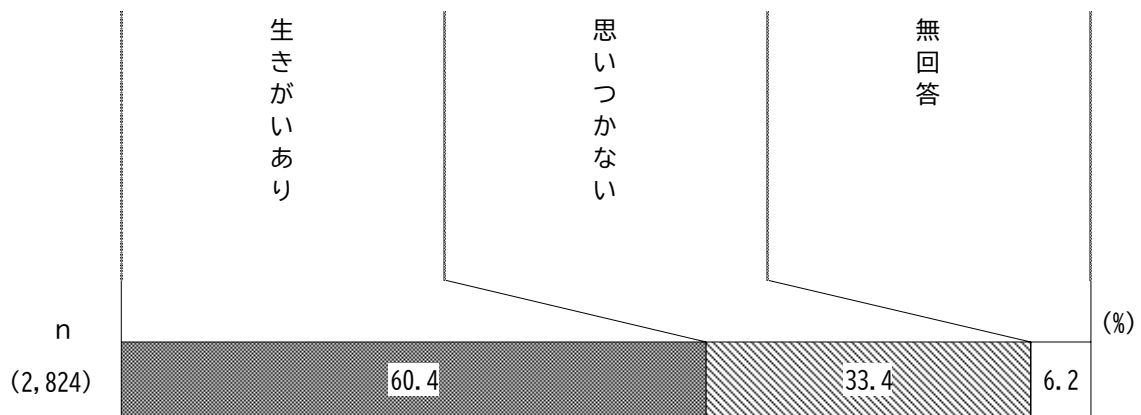
(14) 生きがいの有無

問37 生きがいはありますか。(○は1つ)

(「1. 生きがいあり」の方は( )内に生きがいをご記入ください。)

生きがいの有無は、「生きがいあり」が60.4%、「思いつかない」が33.4%となっている。

図表4-4-14 生きがいの有無

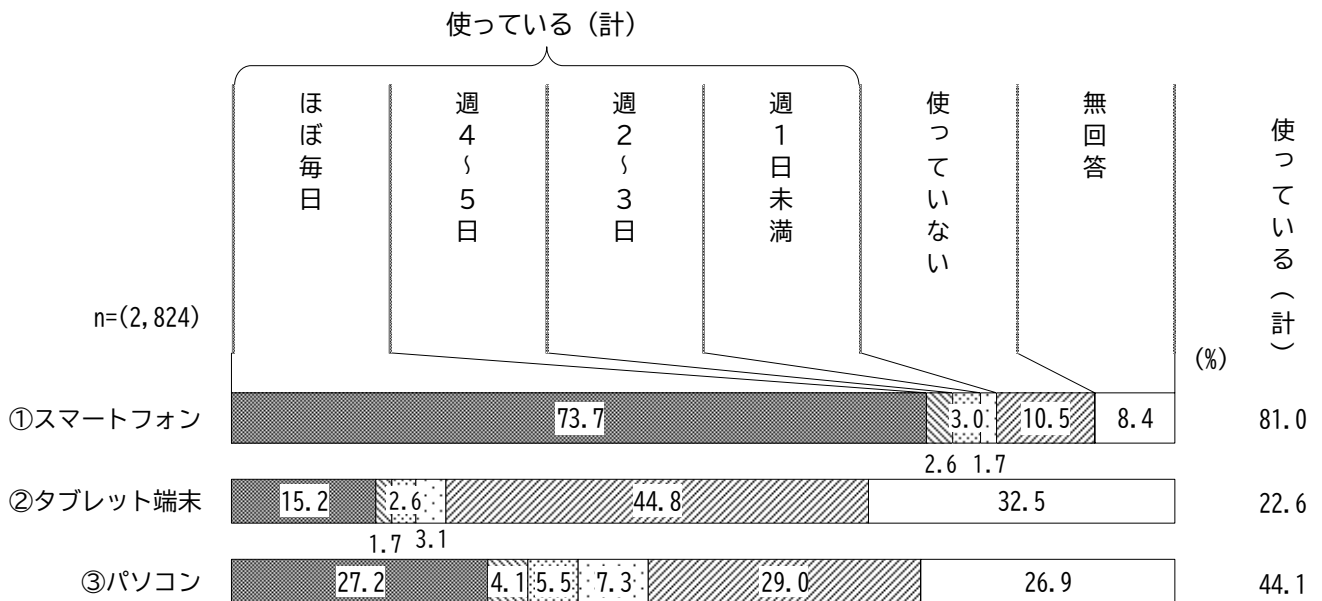


(15) スマートフォン・パソコン等の使用状況

問38 スマートフォンやパソコンは使用していますか。(それぞれ○は1つ)

スマートフォン・パソコン等の使用状況は「ほぼ毎日」から「週1日未満」を合わせた「使っている(計)」はスマートフォンが81.0%、タブレット端末が22.6%、パソコンが44.1%となっている。

図表4-4-15 スマートフォン・パソコン等の使用状況



(16) スマートフォン・パソコン等の使い方

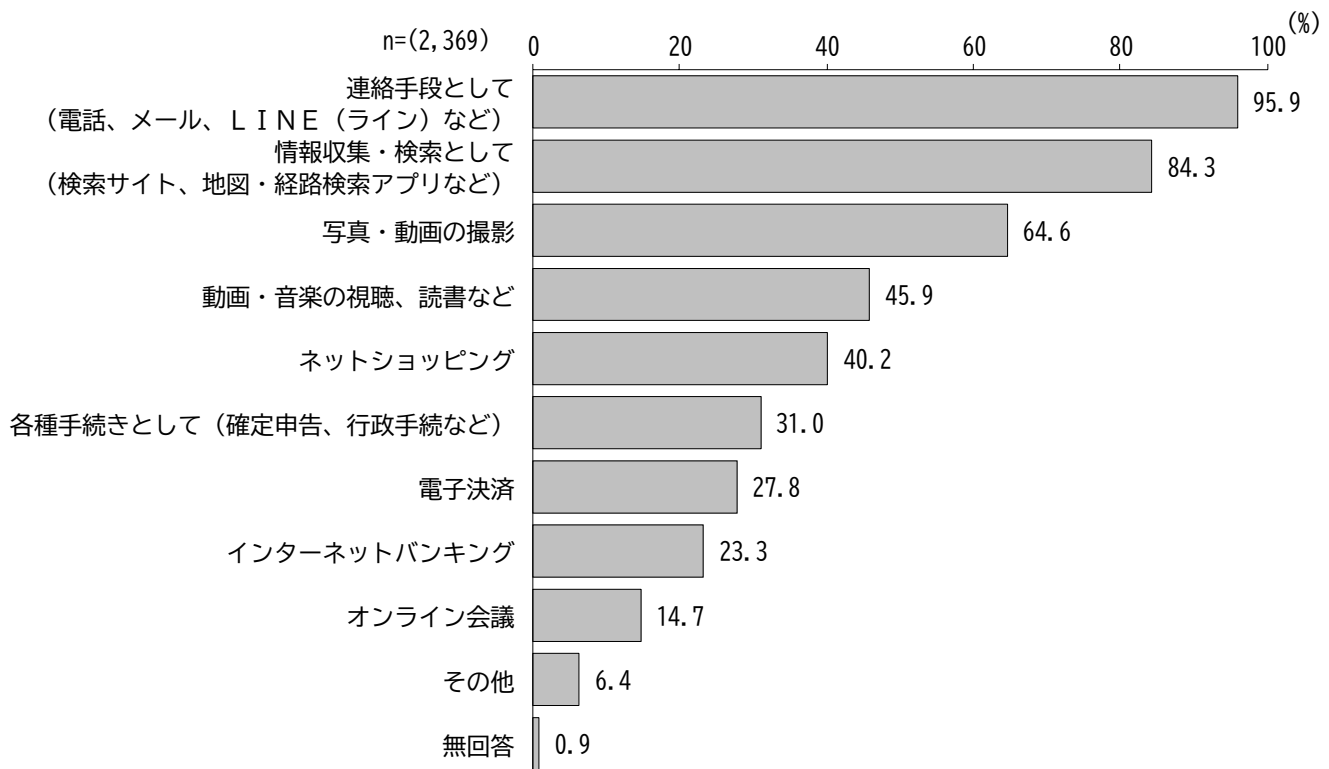
問38において「1」「2」「3」「4」(使っている)と回答した方におたずねします。】

※問38の①・②・③のうち、1つ以上該当する場合に回答してください。

問38-1 どのような使い方をしていますか。(〇はいくつでも)

スマートフォン・パソコン等の使い方は、「連絡手段として(電話、メール、LINE(ライン)など)」が95.9%で最も高く、次いで「情報収集・検索として(検索サイト、地図・経路検索アプリなど)」が84.3%、「写真・動画の撮影」が64.6%となっている。

図表4-4-16 スマートフォン・パソコン等の使い方(複数回答)



スマートフォン・パソコン等の使い方を性別でみると、「連絡手段として（電話、メール、LINE（ライン）など）」は男女で大きな差は見られない。また、「写真・動画の撮影」は男性59.5%、女性68.8%で女性が男性を9.3ポイント上回っている。

年齢別にみると、「連絡手段として（電話、メール、LINE（ライン）など）」は男女ともにすべての年代で8割以上となっている。全体的に、年齢が高くなるにつれて、使用しているという回答の割合が低くなる傾向がある。

図表4-4-17 スマートフォン・パソコン等の使い方（性別・年齢別）

(上段:回答数、下段:%)

項目	調査数 (n)	メール、LINE（電話、メール、LINEなど）	連絡手段として（電話、メール、LINEなど）	検索・情報収集（検索サイト、地図、経路検索など）	写真・動画の撮影	読書・音楽の視聴、動画など	ネットショッピング	申告・手続きとして（確定申告など）	電子決済	インターネット	オンライン会議	その他	無回答
全体	2,369 100.0	2272 95.9	1998 84.3	1530 64.6	1087 45.9	953 40.2	735 31.0	658 27.8	551 23.3	349 14.7	152 6.4	21 0.9	
性別・年齢別	男性全体	1,025 100.0	971 94.7	900 87.8	610 59.5	511 49.9	466 45.5	428 41.8	348 34.0	326 31.8	210 20.5	61 6.0	10 1.0
	男性 65～69歳	270 100.0	259 95.9	261 96.7	181 67.0	185 68.5	176 65.2	170 63.0	148 54.8	129 47.8	96 35.6	17 6.3	1 0.4
	男性 70～74歳	258 100.0	254 98.4	237 91.9	168 65.1	150 58.1	139 53.9	111 43.0	96 37.2	96 37.2	49 19.0	11 4.3	-
	男性 75～79歳	266 100.0	252 94.7	226 85.0	152 57.1	119 44.7	91 34.2	94 35.3	72 27.1	66 24.8	37 13.9	15 5.6	3 1.1
	男性 80～84歳	155 100.0	140 90.3	120 77.4	80 51.6	44 28.4	41 26.5	33 21.3	20 12.9	26 16.8	18 11.6	9 5.8	4 2.6
	男性 85～89歳	59 100.0	51 86.4	44 74.6	21 35.6	12 20.3	14 23.7	16 27.1	11 18.6	9 15.3	7 11.9	9 15.3	2 3.4
	男性 90歳以上	17 100.0	15 88.2	12 70.6	8 47.1	1 5.9	5 29.4	4 23.5	1 5.9	-	3 17.6	-	-
	女性全体	1,325 100.0	1283 96.8	1082 81.7	911 68.8	567 42.8	478 36.1	298 22.5	305 23.0	219 16.5	136 10.3	90 6.8	11 0.8
	女性 65～69歳	300 100.0	297 99.0	291 97.0	233 77.7	188 62.7	184 61.3	132 44.0	131 43.7	101 33.7	51 17.0	26 8.7	-
	女性 70～74歳	314 100.0	306 97.5	286 91.1	236 75.2	156 49.7	137 43.6	83 26.4	88 28.0	55 17.5	31 9.9	22 7.0	2 0.6
	女性 75～79歳	353 100.0	341 96.6	283 80.2	241 68.3	130 36.8	104 29.5	54 15.3	61 17.3	46 13.0	37 10.5	21 5.9	4 1.1
	女性 80～84歳	222 100.0	216 97.3	145 65.3	133 59.9	62 27.9	36 16.2	20 9.0	17 7.7	15 6.8	13 5.9	12 5.4	-
	女性 85～89歳	104 100.0	92 88.5	62 59.6	53 51.0	25 24.0	14 13.5	8 7.7	5 4.8	2 1.9	-	7 6.7	4 3.8
	女性 90歳以上	32 100.0	31 96.9	15 46.9	15 46.9	6 18.8	3 9.4	1 3.1	3 9.4	-	4 12.5	2 6.3	1 3.1
	無回答	19 100.0	18 94.7	16 84.2	9 47.4	9 47.4	9 47.4	9 47.4	5 26.3	6 31.6	3 15.8	1 5.3	-

## 5. 地域での活動について

### (1) 会・グループ等への参加頻度

問39 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。  
 ※①～⑧それぞれに回答してください。(それぞれ○は1つ)

会・グループ等への参加頻度は、すべての会・グループで「参加していない」が最も高くなっている。具体的な参加頻度では、「収入のある仕事」で「週4回以上」が15.1%、「趣味関係のグループ」で「月1～3回」が12.0%と高くなっている。また、「週4回以上」から「年に数回」を合わせた「参加している(計)」では、「収入のある仕事」「スポーツ関係のグループやクラブ」「趣味関係のグループ」で2割以上となっている。

図表4-5-1 会・グループ等への参加頻度

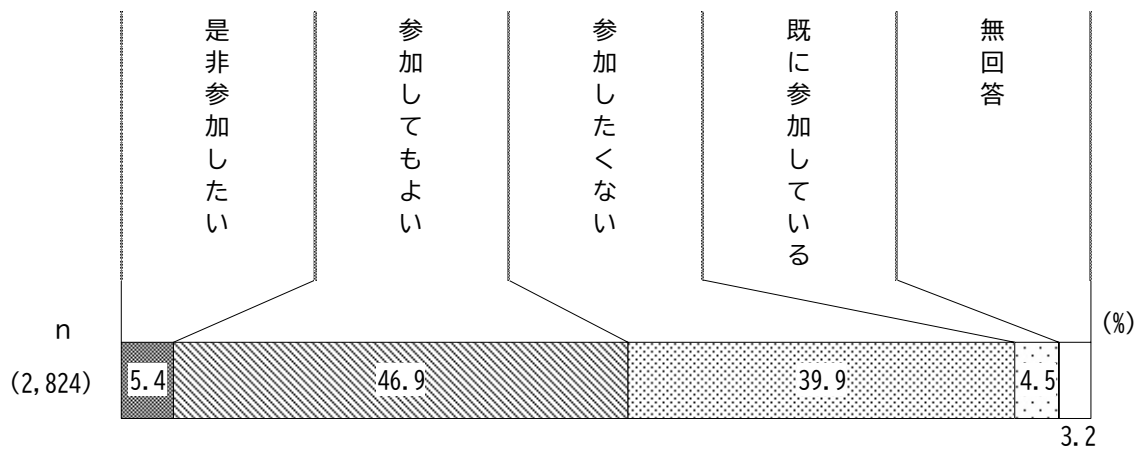
		(上段:回答数、下段:%)								
項目	調査数 (n)	週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答	参 加 し て い る ( 計 )	
会・グループの参加頻度	①ボランティアのグループ	2,824 100.0	15 0.5	27 1.0	53 1.9	101 3.6	75 2.7	2,022 71.6	531 18.8	271 9.7
	②スポーツ関係のグループやクラブ	2,824 100.0	114 4.0	199 7.0	213 7.5	129 4.6	68 2.4	1,651 58.5	450 15.9	723 25.5
	③趣味関係のグループ	2,824 100.0	37 1.3	112 4.0	142 5.0	340 12.0	148 5.2	1,602 56.7	443 15.7	779 27.5
	④学習・教養サークル	2,824 100.0	10 0.4	20 0.7	65 2.3	96 3.4	64 2.3	1,990 70.5	579 20.5	255 9.1
	⑤「めぐろ手ぬぐい体操」などの介護予防のための通いの場	2,824 100.0	1 0.0	21 0.7	35 1.2	25 0.9	12 0.4	2,170 76.8	560 19.8	94 3.2
	⑥竹の子クラブ(老人クラブ)	2,824 100.0	6 0.2	38 1.3	24 0.8	33 1.2	21 0.7	2,163 76.6	539 19.1	122 4.2
	⑦町内会・自治会	2,824 100.0	10 0.4	11 0.4	12 0.4	60 2.1	214 7.6	1,965 69.6	552 19.5	307 10.9
	⑧収入のある仕事	2,824 100.0	426 15.1	197 7.0	64 2.3	71 2.5	72 2.5	1,496 53.0	498 17.6	830 29.4

(2) 地域活動への参加者としての参加意向

問40 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(〇は1つ)

地域活動への参加者としての参加意向は、「参加してもよい」が46.9%で最も高く、次いで「参加したくない」が39.9%、「是非参加したい」が5.4%となっている。

図表4-5-2 地域活動への参加者としての参加意向

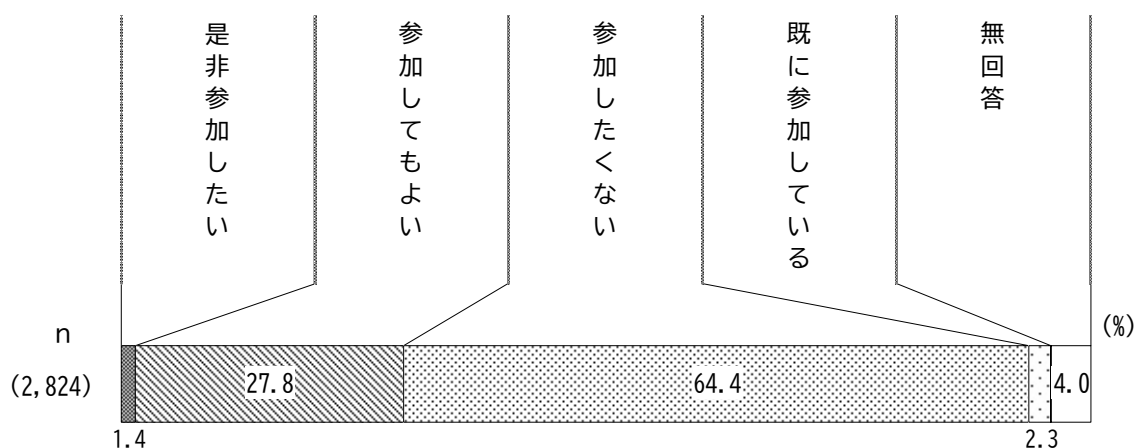


(3) 地域活動への企画・運営としての参加意向

問41 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。(〇は1つ)

地域活動への企画・運営としての参加意向は、「参加したくない」が64.4%で最も高く、次いで「参加してもよい」が27.8%、「既に参加している」が2.3%となっている。

図表4-5-3 地域活動への企画・運営としての参加意向



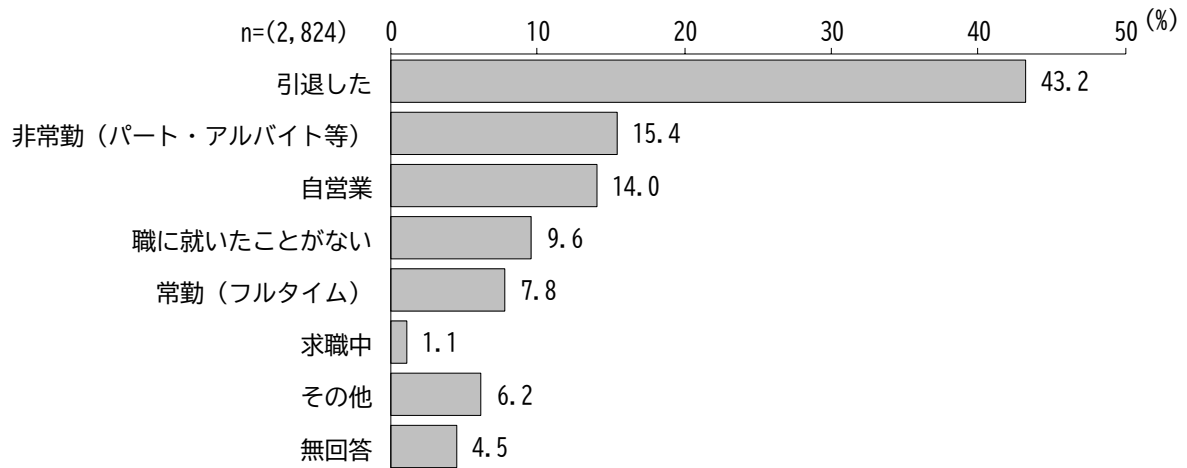
## 6. 就労について

### (1) 現在の就労状態

問4 2 現在のあなたの就労状態はどれですか。(〇はいくつでも)

現在の就労状態は、「引退した」が43.2%で最も高く、次いで「非常勤（パート・アルバイト等）」が15.4%、「自営業」が14.0%、「職に就いたことがない」が9.6%となっている。

図表4-6-1 現在の就労状態（複数回答）



### (2) 引退した年

【問4 2において「2. 引退した」と回答した方におたずねします。】

問4 2-1 あなたはいつ引退しましたか。

引退した年は、全体では「令和元～5年」が24.9%で最も高く、次いで「平成21～25年」が14.3%、「平成26～30年」が13.7%となっている。

図表4-6-2 引退した年

項目	調査数 (n)	(上段:回答数、下段:%)									
		昭和 6 3 年 以前	平成 元 5 年	平成 6 1 0 年	平成 1 1 5 年	平成 1 6 0 年	平成 2 1 5 年	平成 2 6 0 年	平成 3 1 0 年	令和 元 5 年	令和 6 7 年
全体	1,219 100.0	91 7.5	27 2.2	53 4.3	66 5.4	107 8.8	174 14.3	167 13.7	303 24.9	74 6.1	157 12.9

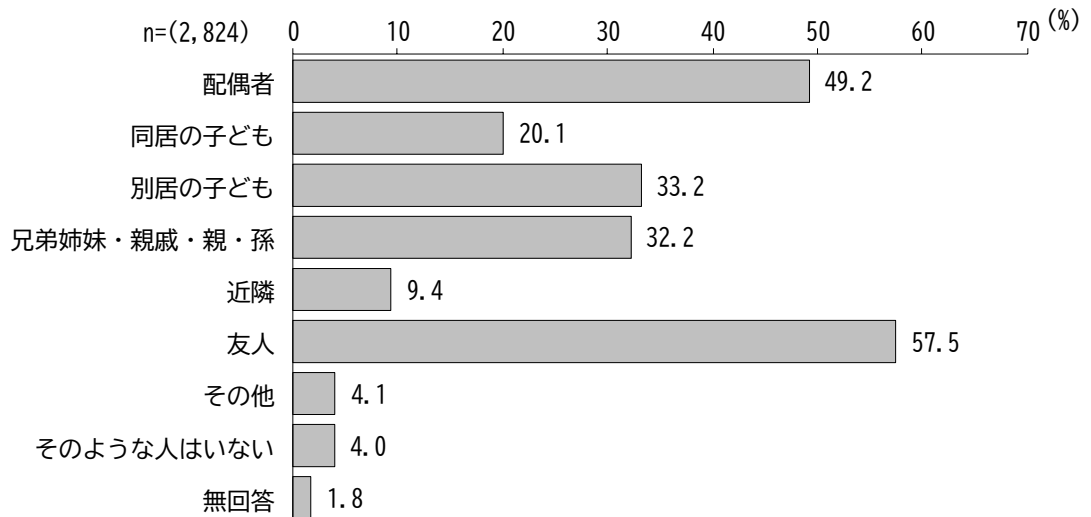
## 7. たすけあいについて

## (1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

問43 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人。（〇はいくつでも）

心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「友人」が57.5%で最も高く、次いで「配偶者」が49.2%、「別居の子ども」が33.2%となっている。

図表4-7-1 心配事や愚痴を聞いてくれる人（複数回答）

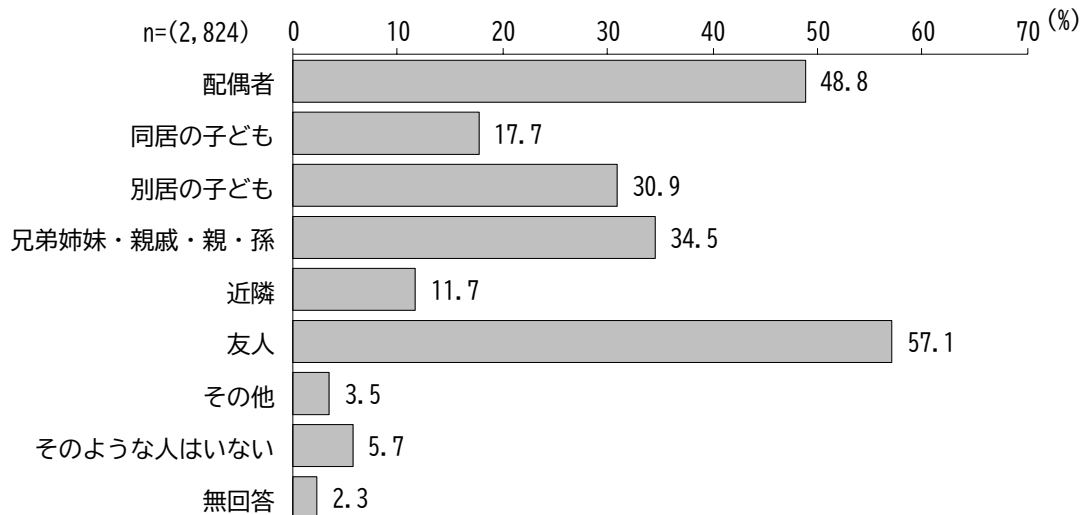


## (2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

問44 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人。（〇はいくつでも）

心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「友人」が57.1%で最も高く、次いで「配偶者」が48.8%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が34.5%となっている。

図表4-7-2 心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答）

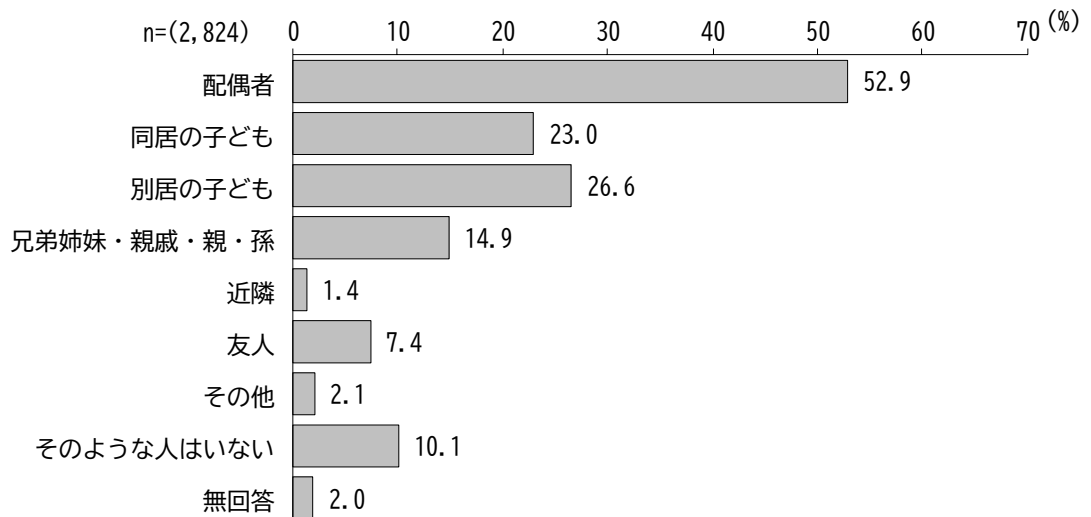


(3) 看病や世話をしてくれる人

問45 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。(〇はいくつでも)

看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」が52.9%で最も高く、次いで「別居の子ども」が26.6%、「同居の子ども」が23.0%となっている。

図表4-7-3 看病や世話をしてくれる人(複数回答)

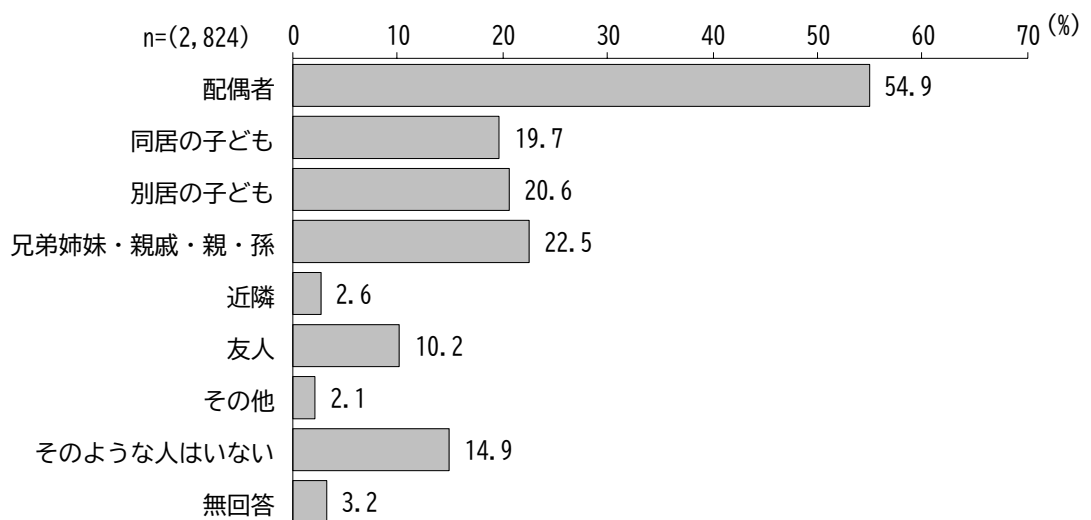


(4) 看病や世話をしてあげる人

問46 反対に、看病や世話をしてあげる人。(〇はいくつでも)

看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」が54.9%で最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が22.5%、「別居の子ども」が20.6%となっている。

図表4-7-4 看病や世話をしてあげる人(複数回答)

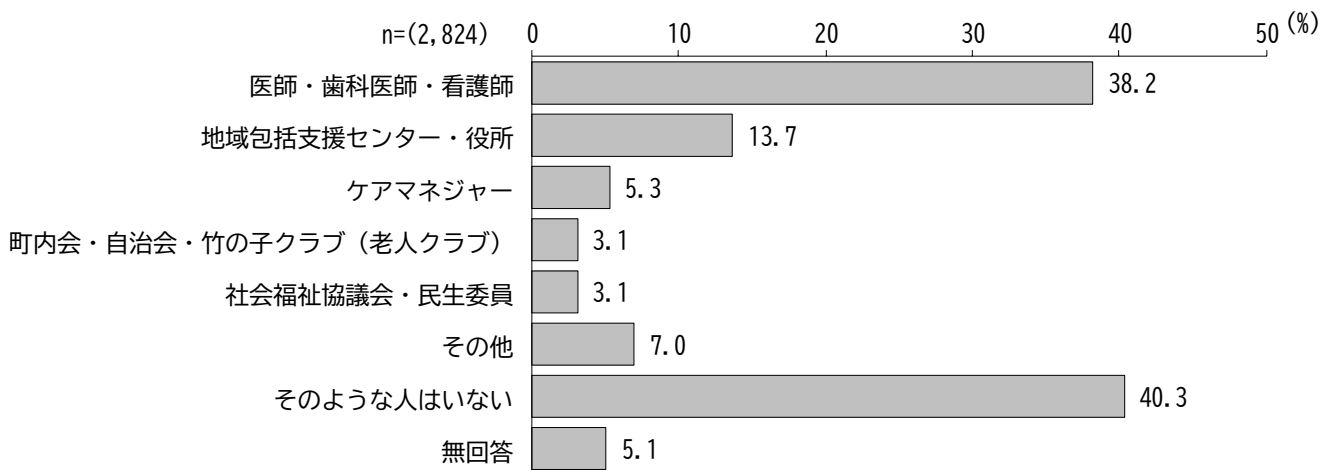


(5) 家族や友人・知人以外の相談相手

問47 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(○はいくつでも)

家族や友人・知人以外の相談相手は、具体的な選択肢の中では「医師・歯科医師・看護師」が38.2%で最も高く、次いで「地域包括支援センター・役所」が13.7%、「ケアマネジャー」が5.3%となっている。一方、「そのような人はいない」は40.3%で最も高くなっている。

図表4-7-5 家族や友人・知人以外の相談相手（複数回答）

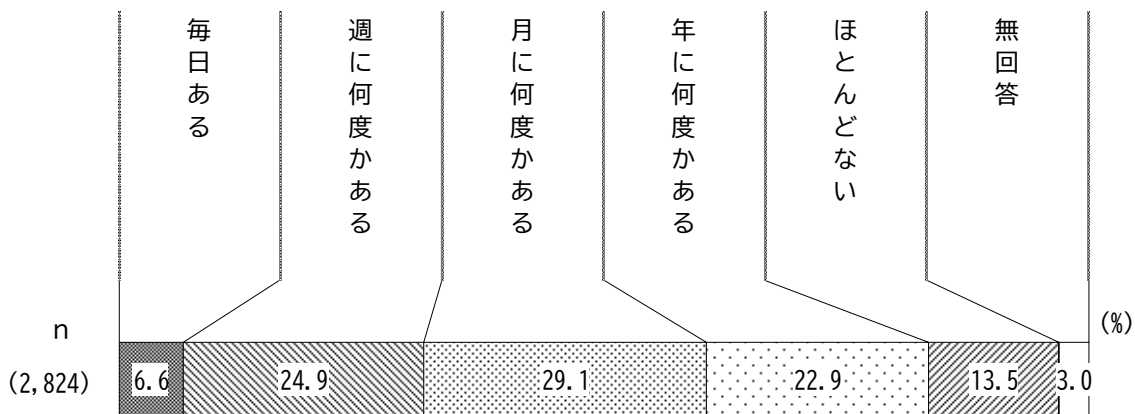


(6) 友人・知人と会う頻度

問48 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(○は1つ)

友人・知人と会う頻度は、「月に何度かある」が29.1%で最も高く、次いで「週に何度かある」が24.9%、「年に何度かある」が22.9%となっている。

図表4-7-6 友人・知人と会う頻度



#### 第4章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

友人・知人と会う頻度を性別で見ると、「週に何度かある」は男性20.1%、女性28.7%で女性が男性を8.6ポイント上回っている。「年に何度かある」（男性26.6%、女性20.3%）は6.3ポイント、「ほとんどない」（男性16.5%、女性11.1%）は5.4ポイント、男性が女性を上回っている。

年齢別にみると、「月に何度かある」は男女ともに「65～69歳」「70～74歳」「75～79歳」で高く、男性では「75～79歳」が32.2%、女性では「65～69歳」が37.1%と最も高くなっている。また、男女ともに「90歳以上」で「ほとんどない」が男性で41.0%、女性で37.3%と高くなっている。

図表4-7-7 友人・知人と会う頻度（性別・年齢別）

(上段:回答数、下段:%)

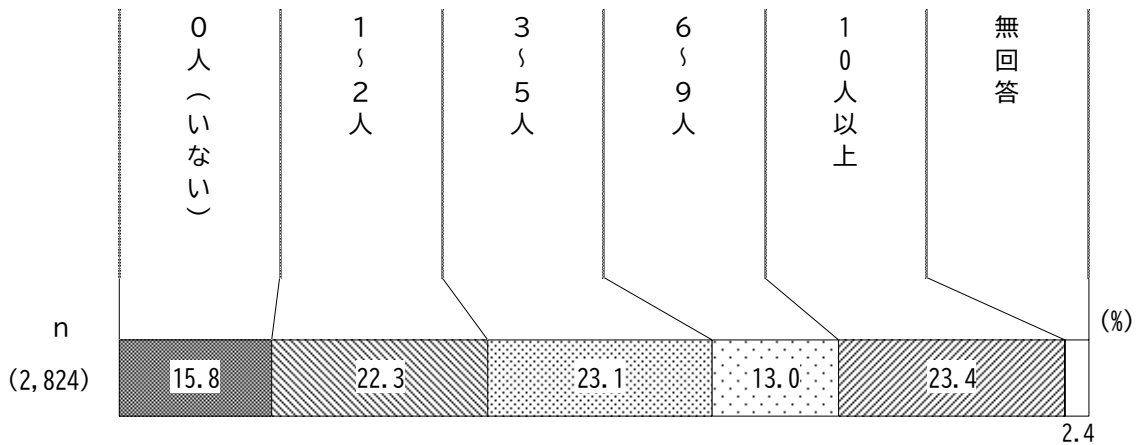
項目	調査数 (n)	毎日 ある	週に 何度か ある	月に 何度か ある	年に 何度か ある	ほと んど ない	無 回 答	
全体	2,824 100.0	185 6.6	704 24.9	821 29.1	648 22.9	382 13.5	84 3.0	
性別・ 年齢別	男性全体	1,197 100.0	78 6.5	241 20.1	333 27.8	318 26.6	198 16.5	29 2.4
	男性 65～69歳	281 100.0	24 8.5	66 23.5	75 26.7	69 24.6	42 14.9	5 1.8
	男性 70～74歳	278 100.0	23 8.3	60 21.6	81 29.1	72 25.9	38 13.7	4 1.4
	男性 75～79歳	304 100.0	13 4.3	56 18.4	98 32.2	84 27.6	46 15.1	7 2.3
	男性 80～84歳	201 100.0	13 6.5	40 19.9	47 23.4	58 28.9	38 18.9	5 2.5
	男性 85～89歳	94 100.0	3 3.2	14 14.9	25 26.6	28 29.8	18 19.1	6 6.4
	男性 90歳以上	39 100.0	2 5.1	5 12.8	7 17.9	7 17.9	16 41.0	2 5.1
	女性全体	1,602 100.0	104 6.5	459 28.7	484 30.2	326 20.3	178 11.1	51 3.2
	女性 65～69歳	315 100.0	23 7.3	80 25.4	117 37.1	68 21.6	18 5.7	9 2.9
	女性 70～74歳	336 100.0	19 5.7	96 28.6	105 31.3	71 21.1	39 11.6	6 1.8
	女性 75～79歳	398 100.0	26 6.5	114 28.6	129 32.4	85 21.4	31 7.8	13 3.3
	女性 80～84歳	307 100.0	21 6.8	111 36.2	71 23.1	62 20.2	29 9.4	13 4.2
	女性 85～89歳	171 100.0	11 6.4	43 25.1	42 24.6	34 19.9	33 19.3	8 4.7
	女性 90歳以上	75 100.0	4 5.3	15 20.0	20 26.7	6 8.0	28 37.3	2 2.7
無回答	25 100.0	3 12.0	4 16.0	4 16.0	4 16.0	6 24.0	4 16.0	

(7) 最近1か月に会った友人・知人の人数

問49 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。(〇は1つ)

最近1か月に会った友人・知人の人数は、「10人以上」が23.4%で最も高く、次いで「3～5人」が23.1%、「1～2人」が22.3%となっている。

図表4-7-8 最近1か月に会った友人・知人の人数

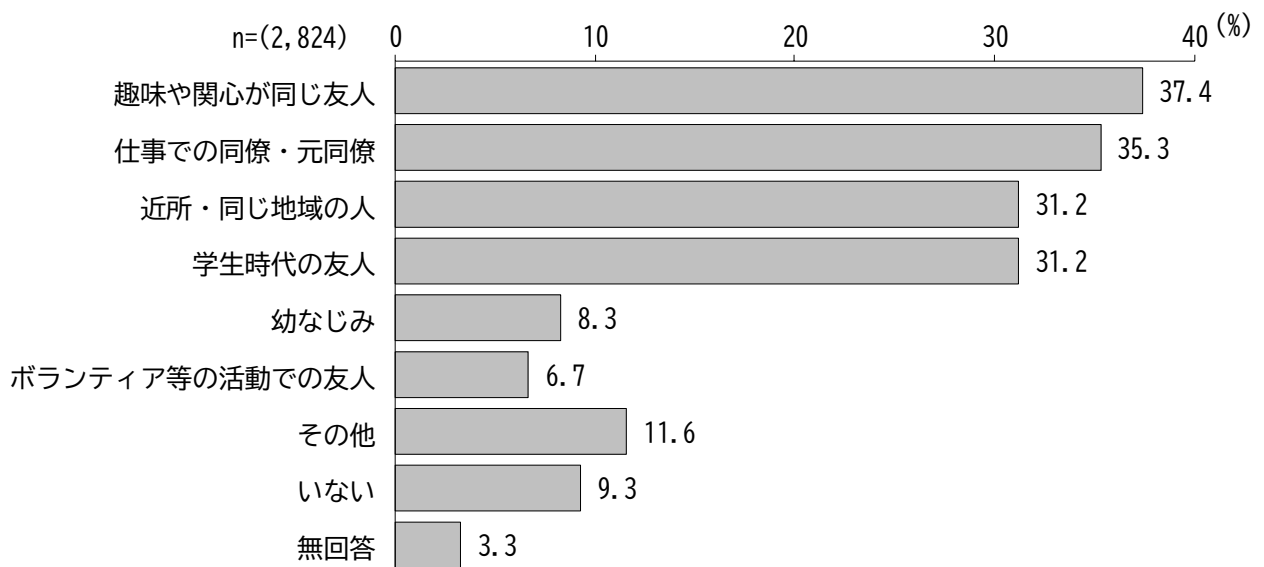


(8) よく会う友人・知人との関係

問50 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(〇はいくつでも)

よく会う友人・知人との関係は、「趣味や関心が同じ友人」が37.4%で最も高く、次いで「仕事での同僚・元同僚」が35.3%、「近所・同じ地域の人」「学生時代の友人」がともに31.2%となっている。

図表4-7-9 よく会う友人・知人との関係 (複数回答)



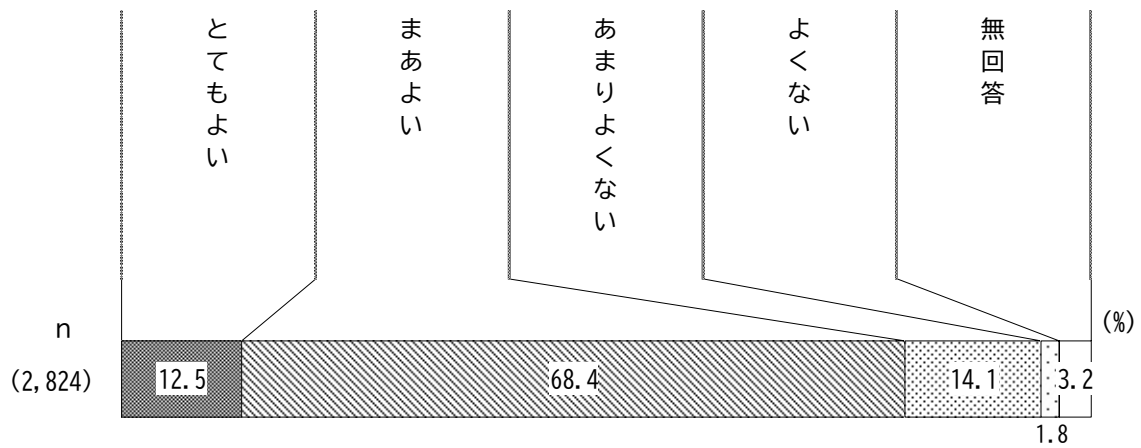
## 8. 健康について

### (1) 健康状態

問51 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

現在の健康状態は、「まあよい」が68.4%で最も高く、次いで「あまりよくない」が14.1%、「とてもよい」が12.5%となっている。

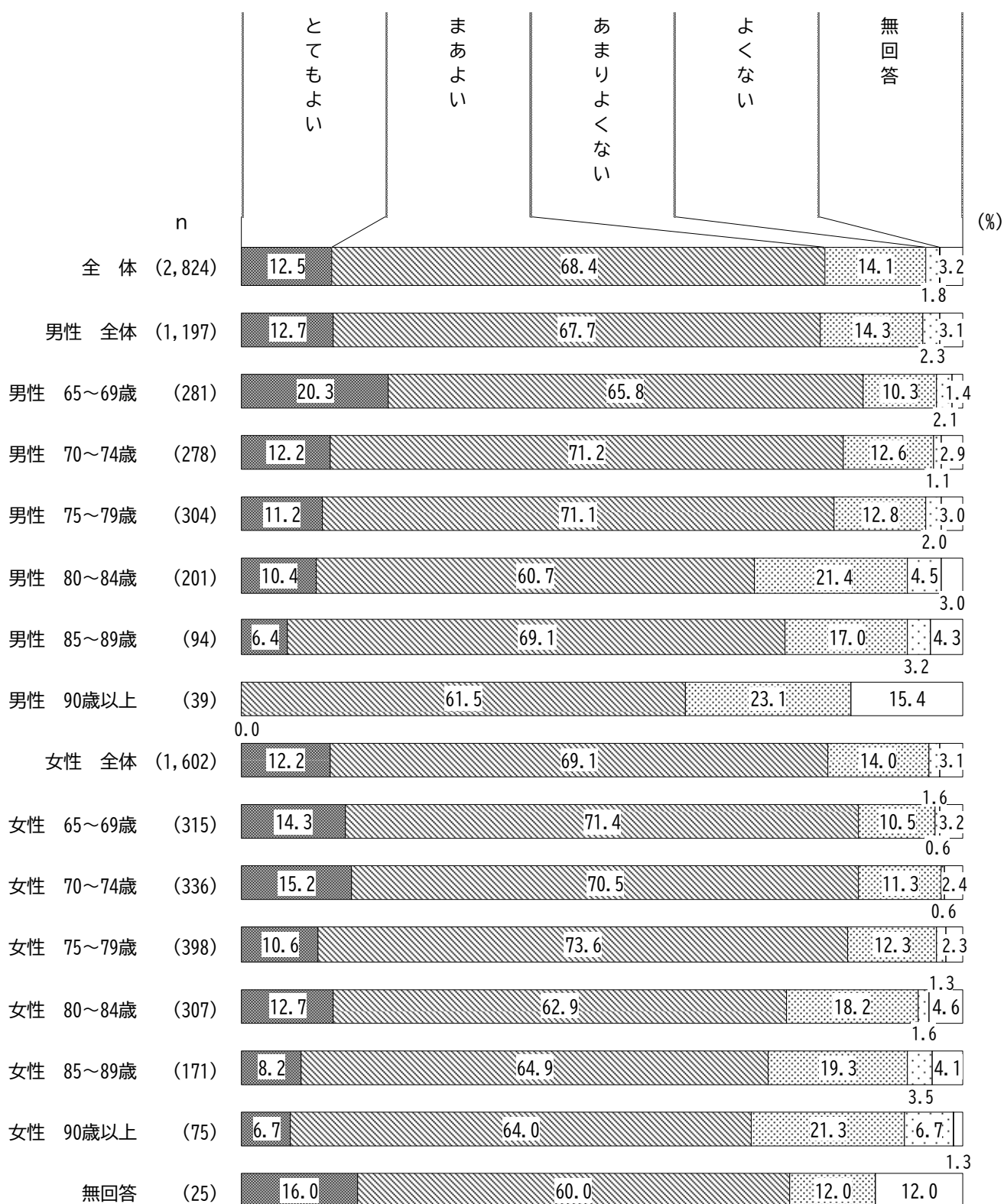
図表4-8-1 現在の健康状態



現在の健康状態を性別で見ると、男女で大きな差は見られない。

年齢別にみると、男性では「とてもよい」は年齢が上がるほど低くなり、「85～89歳」で6.4%、「90歳以上」では0.0%となっている。女性では「あまりよくない」は年齢が上がるほど高くなり、「90歳以上」で21.3%となっている。

図表4-8-2 現在の健康状態（性別・年齢別）

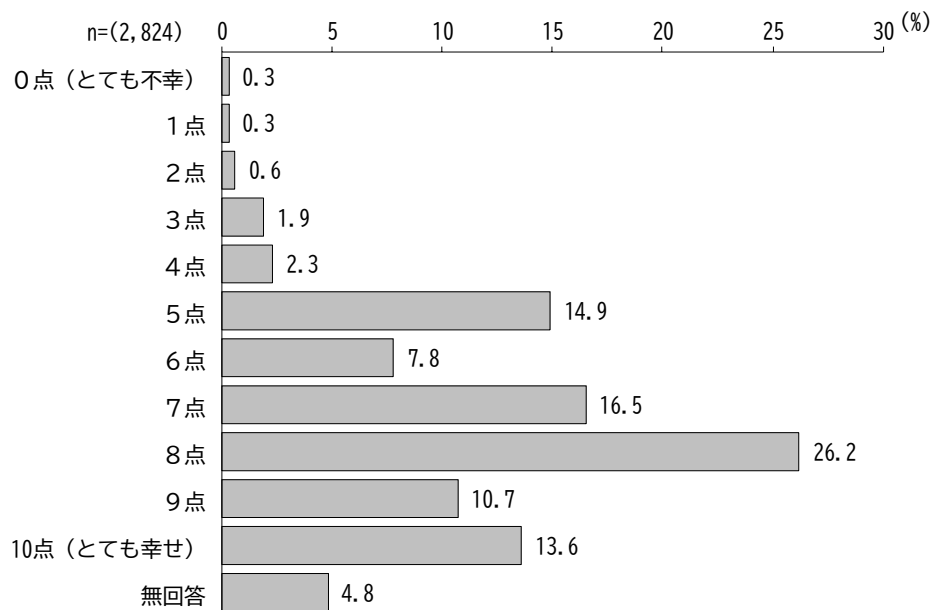


(2) 幸福度

問52 あなたは、現在どの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、数字をご記入ください。

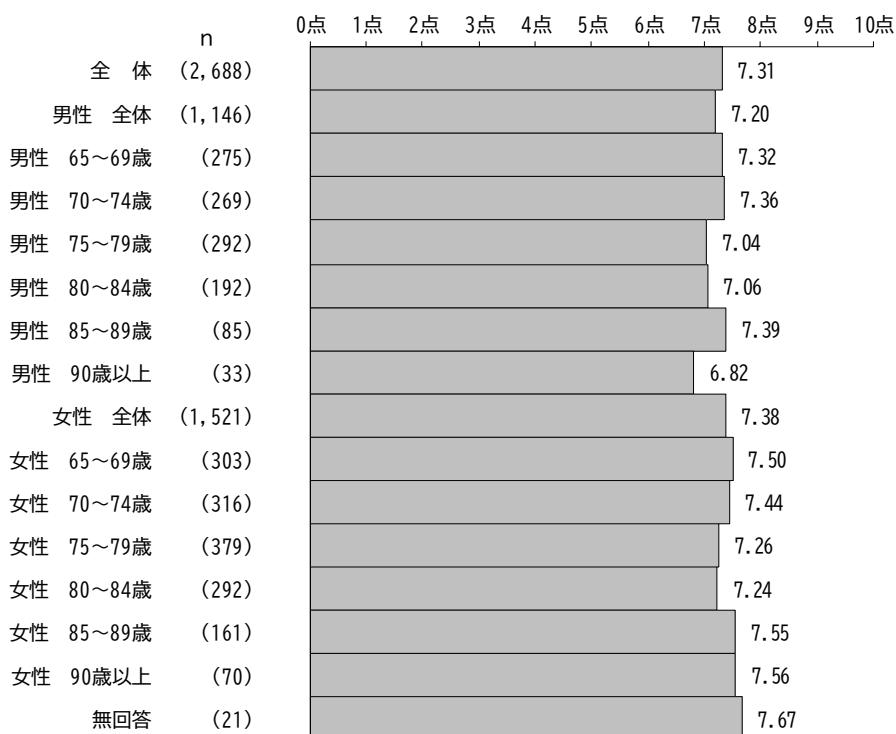
現在の幸福度は、「8点」が26.2%で最も高く、次いで「7点」が16.5%、「5点」が14.9%となっている。

図表4-8-3 現在の幸福度



現在の幸福度の平均点を性別で見ると、男女で大きな差は見られない。年齢別にみると、男性の「90歳以上」が平均6.82点と最も低くなっている。

図表4-8-4 現在の幸福度の平均点 (性別・年齢別)

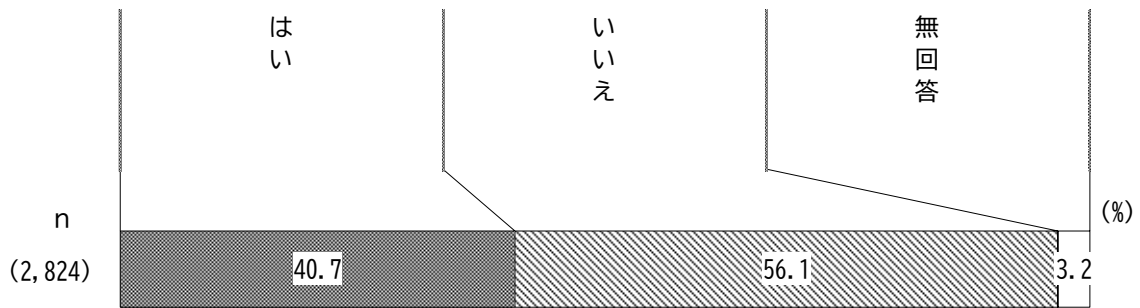


(3) 気分の落ち込み

問53 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(○は1つ)

最近1か月の気分の落ち込みの有無は、「いいえ」が56.1%、「はい」が40.7%となっている。

図表4-8-5 最近1か月の気分の落ち込みの有無

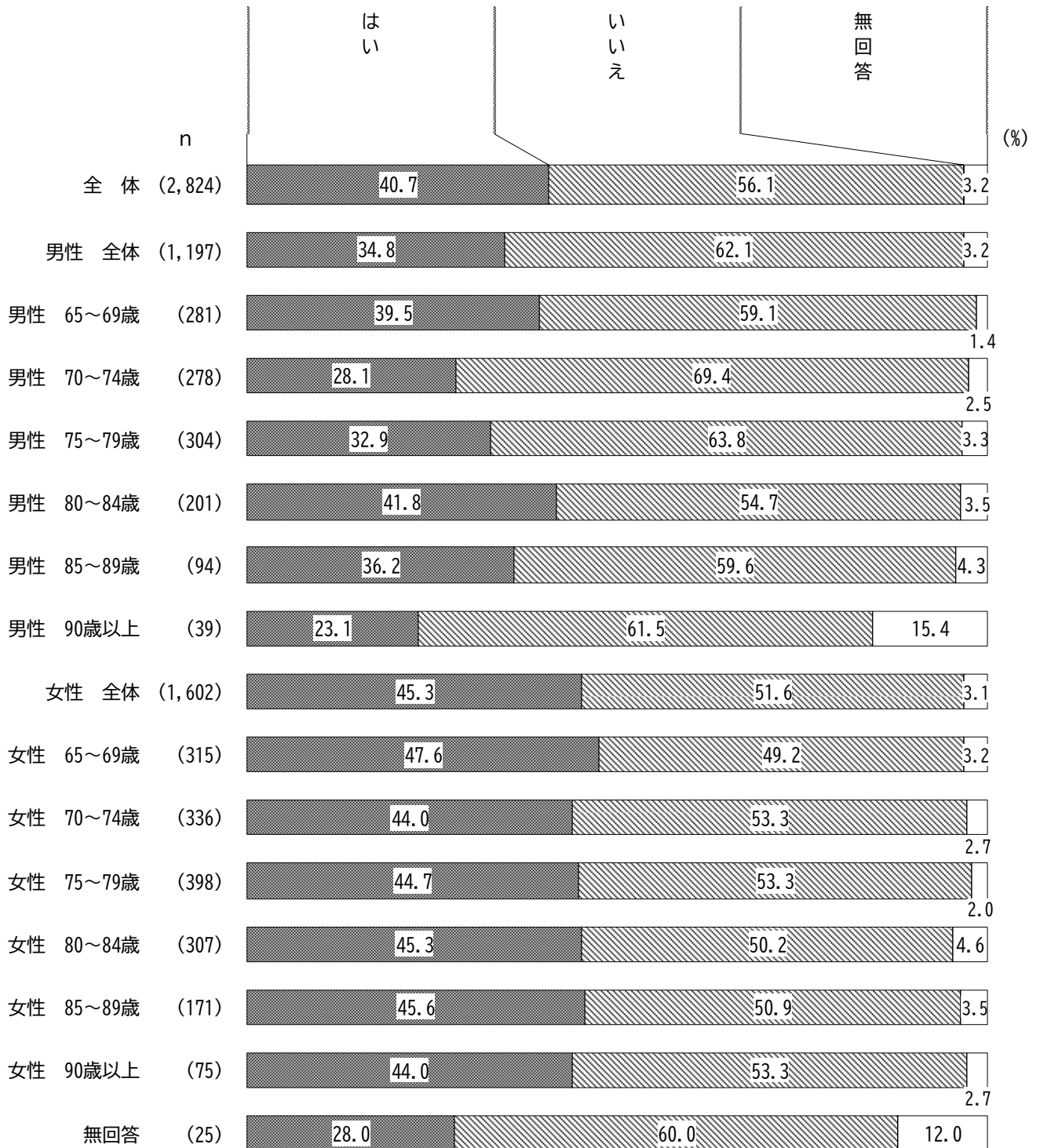


第4章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

最近1か月の気分の落ち込みの有無を性別で見ると、「はい」は男性34.8%、女性45.3%となっており、女性が男性を10.5ポイント上回っている。

年齢別にみると、「はい」は男性の「80～84歳」（41.8%）、女性の「65～69歳」（47.6%）で高くなっており、いずれの年齢とも女性が男性を上回っている。

図表4-8-6 最近1か月の気分の落ち込みの有無（性別・年齢別）

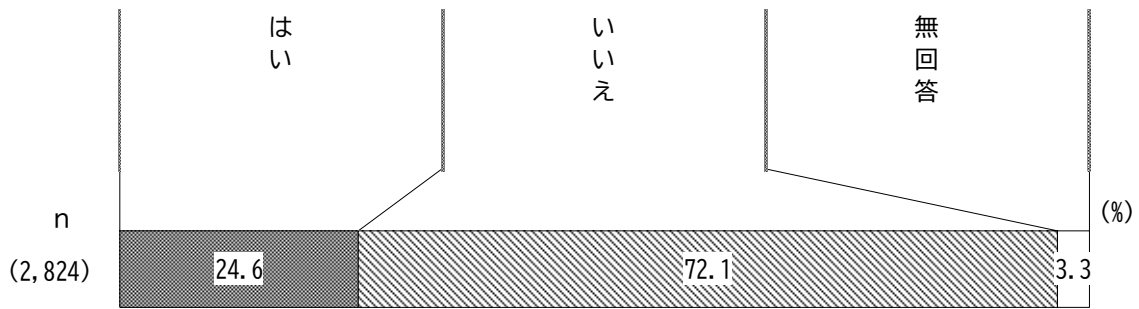


(4) 物事への関心

問54 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(○は1つ)

最近1か月の物事への関心の低下は、「いいえ」が72.1%、「はい」が24.6%となっている。

図表4-8-7 最近1か月の物事への関心の低下

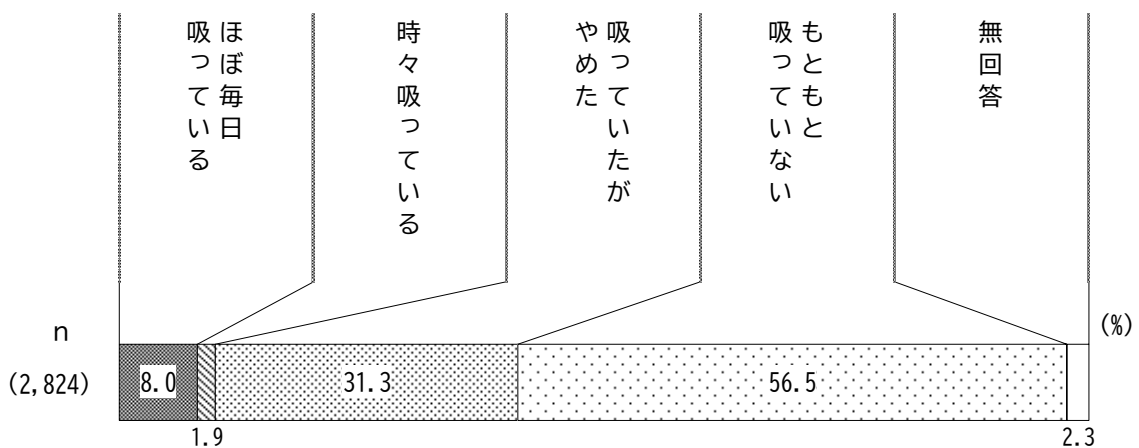


(5) 喫煙状況

問55. タバコは吸っていますか。(○は1つ)

喫煙状況は、「もともと吸っていない」が56.5%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が31.3%、「ほぼ毎日吸っている」が8.0%となっている。

図表4-8-8 喫煙状況

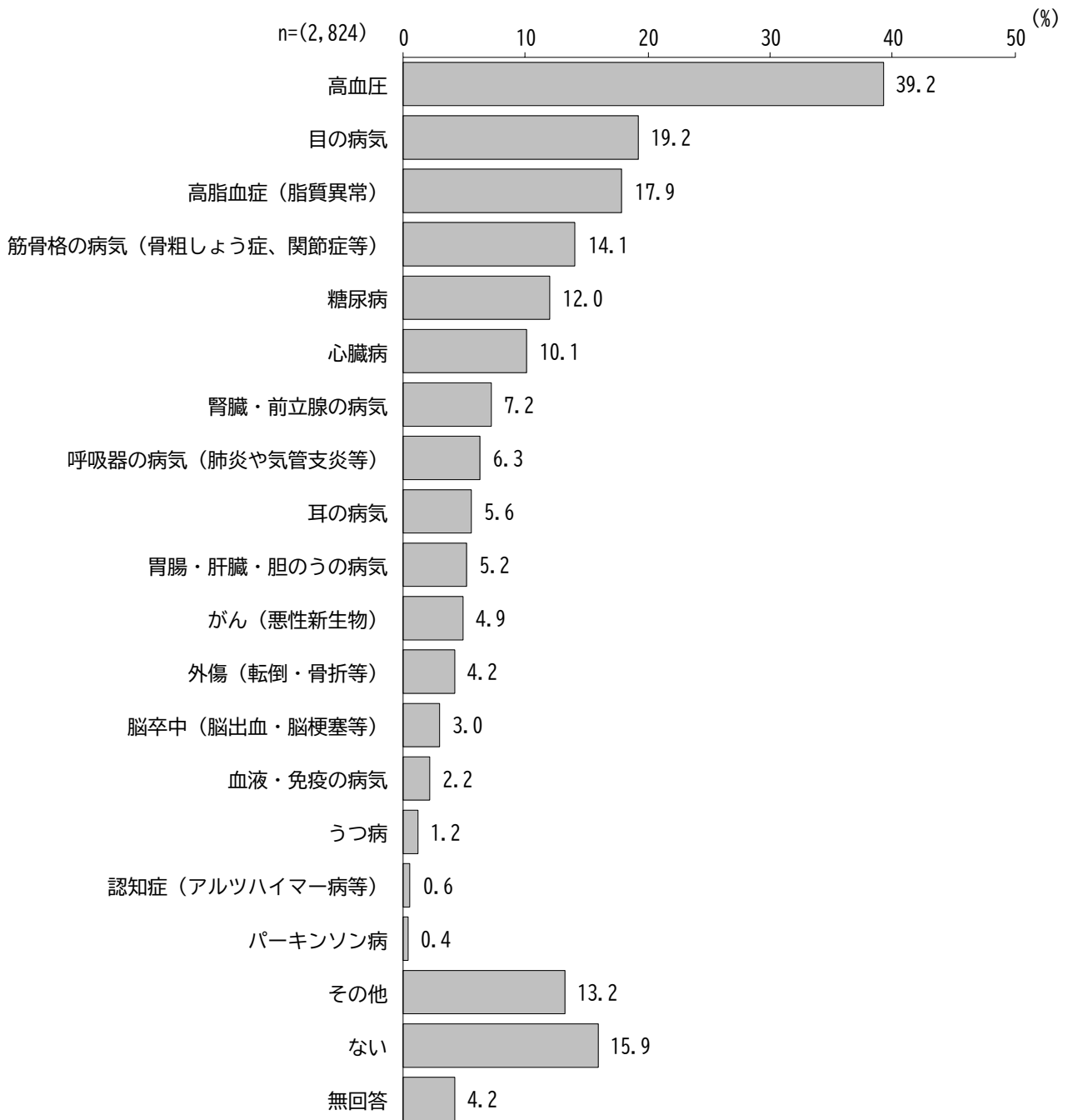


(6) 現在治療中・後遺症のある病気

問56 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(〇はいくつでも)

現在治療中・後遺症のある病気は、「高血圧」が39.2%で最も高く、次いで「目の病気」が19.2%、「高脂血症（脂質異常）」が17.9%となっている。

図表4-8-9 現在治療中・後遺症のある病気（複数回答）



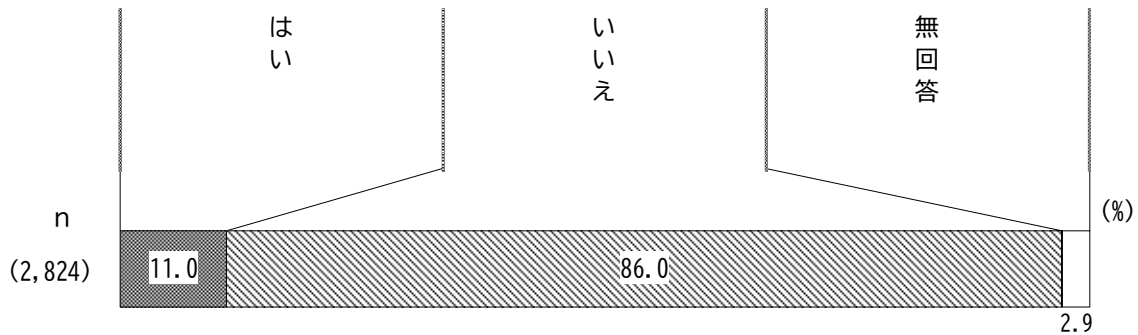
## 9. 認知症に関する相談窓口の把握について

### (1) 認知症の症状がある人の有無

問57 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいますか。(○は1つ)

認知症の症状がある人の有無は、「いいえ」が86.0%、「はい」が11.0%となっている。

図表4-9-1 認知症の症状がある人の有無

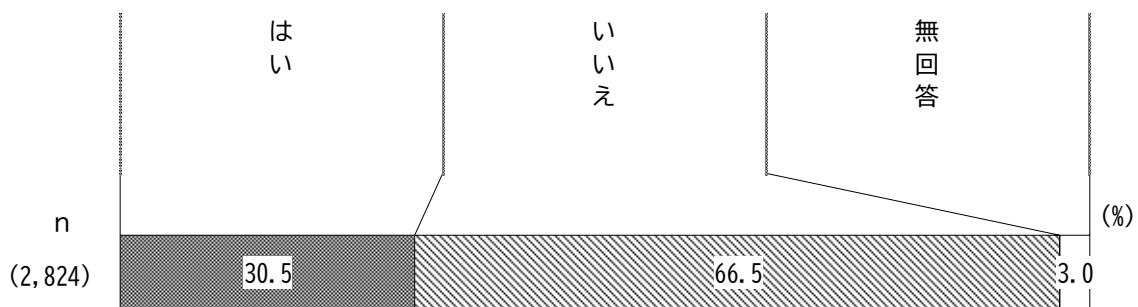


### (2) 認知症に関する相談窓口の認知度

問58 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(○は1つ)

認知症に関する相談窓口を知っているかは、「いいえ」が66.5%、「はい」が30.5%となっている。

図表4-9-2 認知症に関する相談窓口の認知度



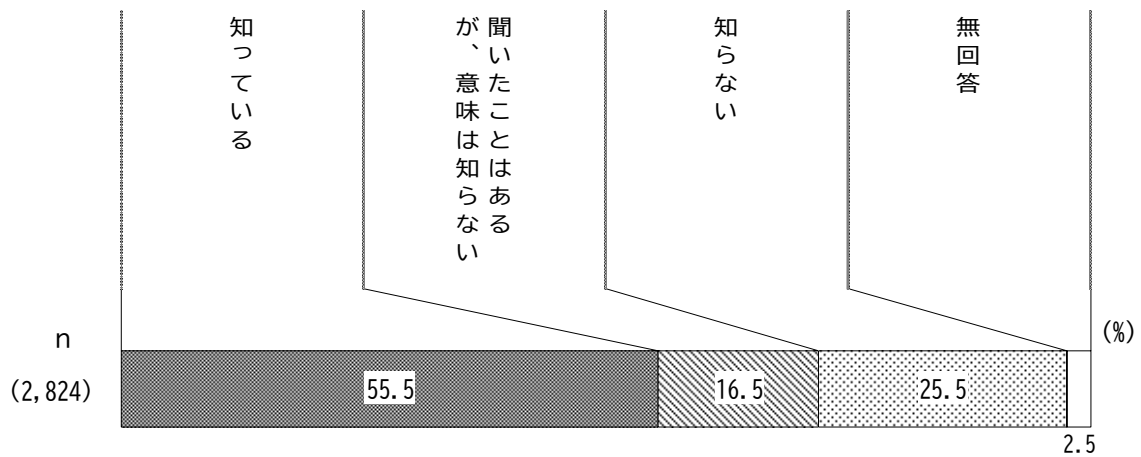
## 10. 介護予防について

### (1) 「フレイル」という言葉の認知度

問59 「フレイル」という言葉について知っていますか。(○は1つ)

「フレイル」という言葉の認知度は、「知っている」が55.5%で最も高く、次いで「知らない」が25.5%、「聞いたことはあるが、意味は知らない」が16.5%となっている。

図表4-10-1 「フレイル」という言葉の認知度



「フレイル」という言葉の認知度を年齢別にみると、「知っている」は男性の70～74歳で47.8%、女性の65～69歳で66.7%となっている。「知らない」は男性の全ての年齢で3割台となっている。

図表4-10-2 「フレイル」という言葉の認知度（性別・年齢別）

(上段:回答数、下段:%)

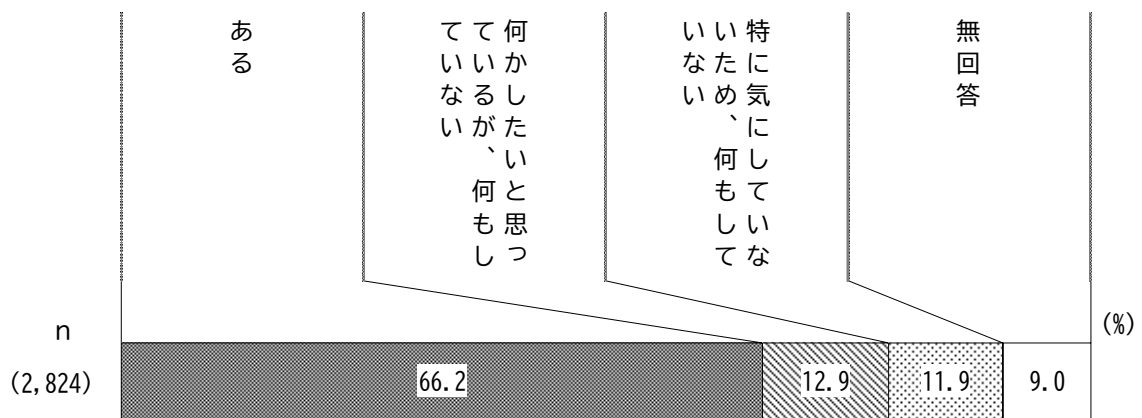
項目	調査数 (n)	知っている	聞いたことはあるが、 意味は知らない	知らない	無回答	
全体	2,824 100.0	1567 55.5	466 16.5	719 25.5	72 2.5	
性別・年齢別	男性全体	1,197 100.0	532 44.4	204 17.0	428 35.8	33 2.8
	男性 65～69歳	281 100.0	127 45.2	44 15.7	106 37.7	4 1.4
	男性 70～74歳	278 100.0	133 47.8	38 13.7	100 36.0	7 2.5
	男性 75～79歳	304 100.0	134 44.1	63 20.7	97 31.9	10 3.3
	男性 80～84歳	201 100.0	88 43.8	32 15.9	76 37.8	5 2.5
	男性 85～89歳	94 100.0	35 37.2	22 23.4	35 37.2	2 2.1
	男性 90歳以上	39 100.0	15 38.5	5 12.8	14 35.9	5 12.8
	女性全体	1,602 100.0	1024 63.9	257 16.0	285 17.8	36 2.2
	女性 65～69歳	315 100.0	210 66.7	42 13.3	53 16.8	10 3.2
	女性 70～74歳	336 100.0	219 65.2	57 17.0	53 15.8	7 2.1
	女性 75～79歳	398 100.0	258 64.8	61 15.3	73 18.3	6 1.5
	女性 80～84歳	307 100.0	201 65.5	51 16.6	47 15.3	8 2.6
	女性 85～89歳	171 100.0	92 53.8	36 21.1	38 22.2	5 2.9
	女性 90歳以上	75 100.0	44 58.7	10 13.3	21 28.0	- -

(2) 加齢による衰えを予防するために実践している取組の有無

問60 加齢による身体機能や認知機能の衰えを予防するために、実践している取組はありますか。(〇は1つ)

加齢による衰えを予防するために実践している取組の有無は、「ある」が66.2%で最も高く、次いで「何かしたいと思っているが、何もしていない」が12.9%、「特に気にしていないため、何もしていない」が11.9%となっている。

図表4-10-3 加齢による衰えを予防するために実践している取組の有無

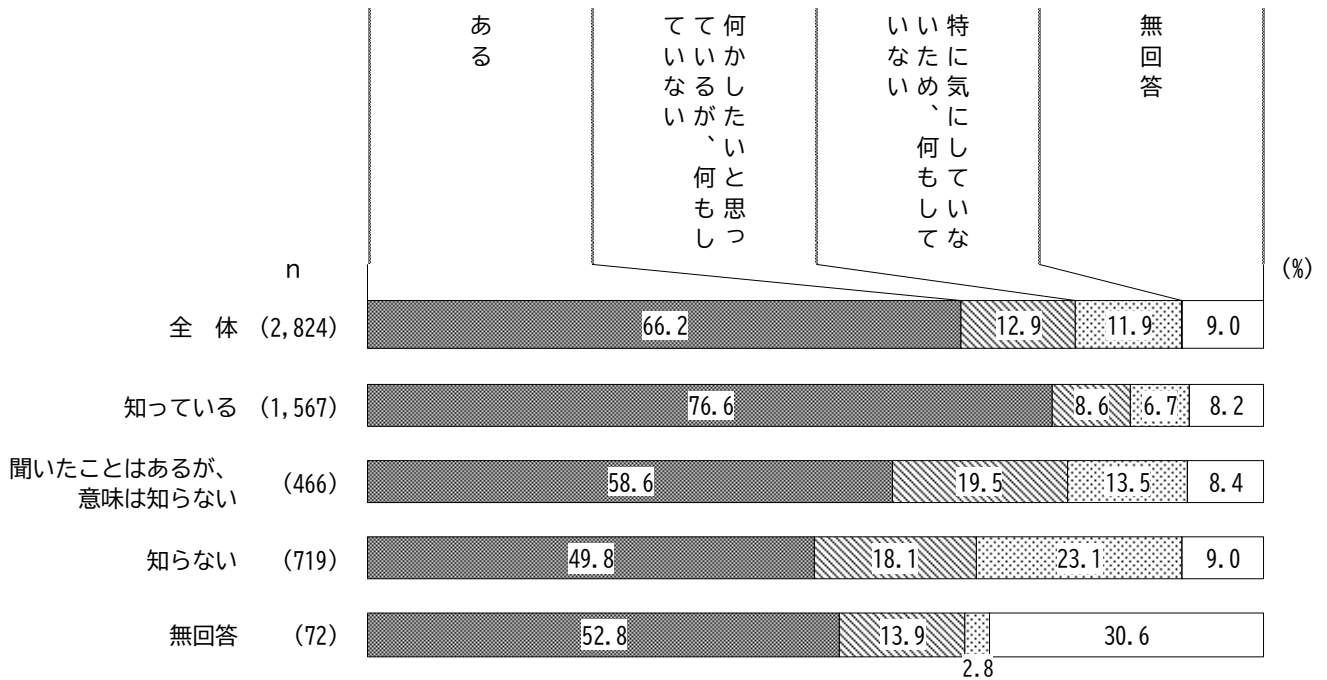




加齢による衰えを予防するために実践している取組の有無を「フレイル」という言葉の認知度別にみると、「ある」は認知度が上がるほど高くなっており、「知っている」で76.6%と最も高くなっている。

図表4-10-5 加齢による衰えを予防するために実践している取組の有無

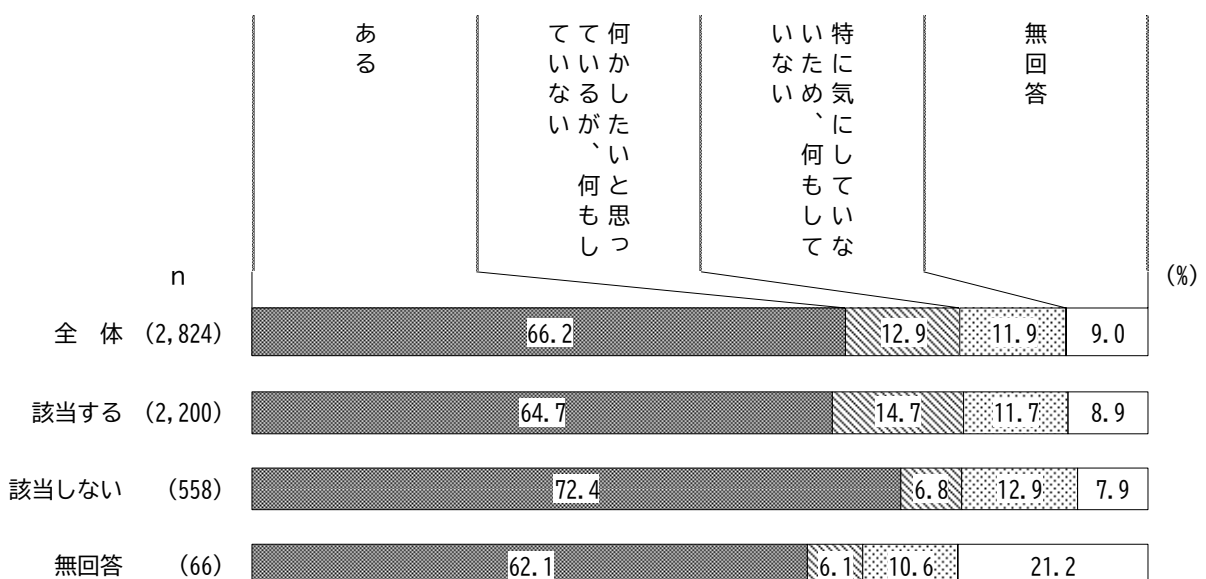
(「フレイル」という言葉の認知度別)



加齢による衰えを予防するために実践している取組の有無をリスク該当者別にみると、「ある」はリスクに「該当しない」が72.4%、「該当する」が64.7%となっており、「該当しない」が「該当する」を7.7ポイント上回っている。また、「何かしたいと思っているが、何もしていない」は「該当する」で14.7%と「該当しない」に比べて高くなっている。

図表4-10-6 加齢による衰えを予防するために実践している取組の有無

(リスク該当者別)



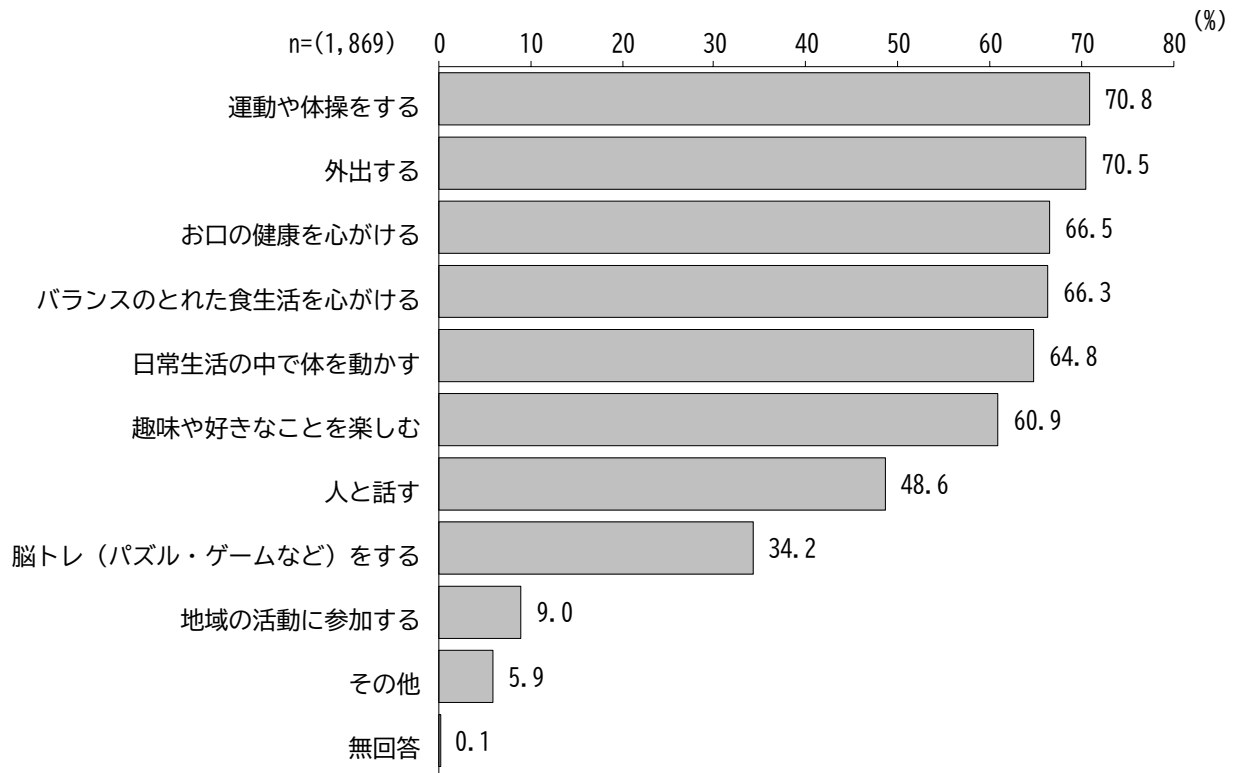
## (3) 加齢による衰えを予防するために実践している取組の内容

【問60において「1. ある」と回答した方におたずねします。】

問60-1 どのような取組を実践していますか。(〇はいくつでも)

加齢による衰えを予防するために実践している取組の内容は、「運動や体操をする」が70.8%で最も高く、次いで「外出する」が70.5%、「お口の健康を心がける」が66.5%となっている。

図表4-10-7 加齢による衰えを予防するために実践している取組の内容（複数回答）



(4) 取組を始めるためのきっかけ

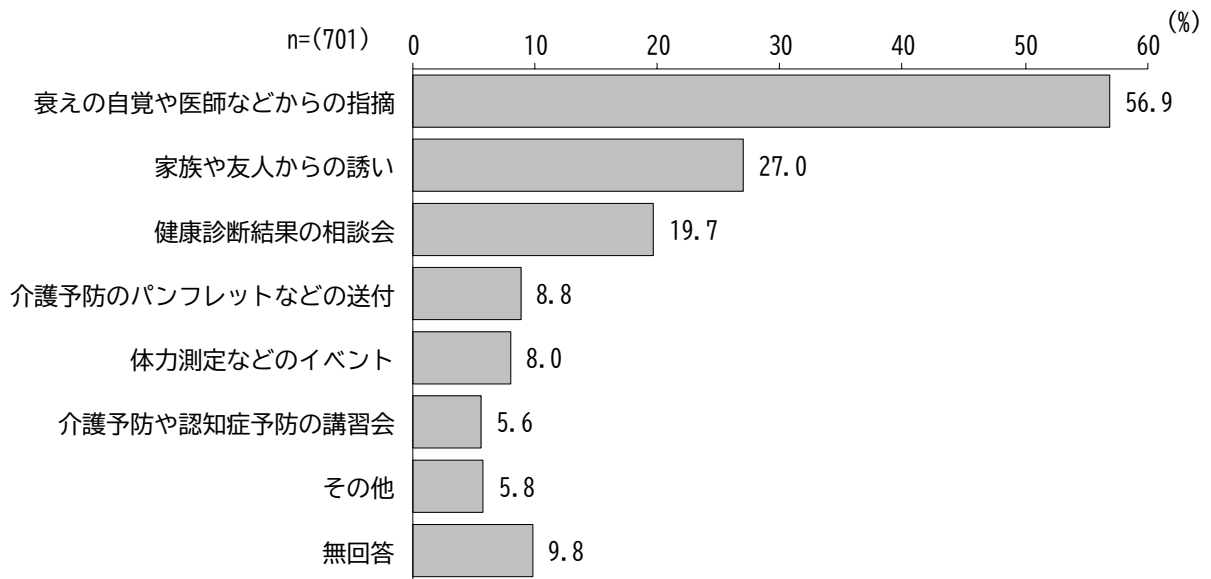
【問60において「2」「3」と回答した方におたずねします。】

問60-2 どのようなきっかけがあれば、取組を始められると思いますか。

(○はいくつでも)

加齢による衰えの予防に取り組んでいない人が取組を始めるためのきっかけは、「衰えの自覚や医師などからの指摘」が56.9%で最も高く、次いで「家族や友人からの誘い」が27.0%、「健康診断結果の相談会」が19.7%となっている。

図表4-10-8 取組を始めるためのきっかけ（複数回答）

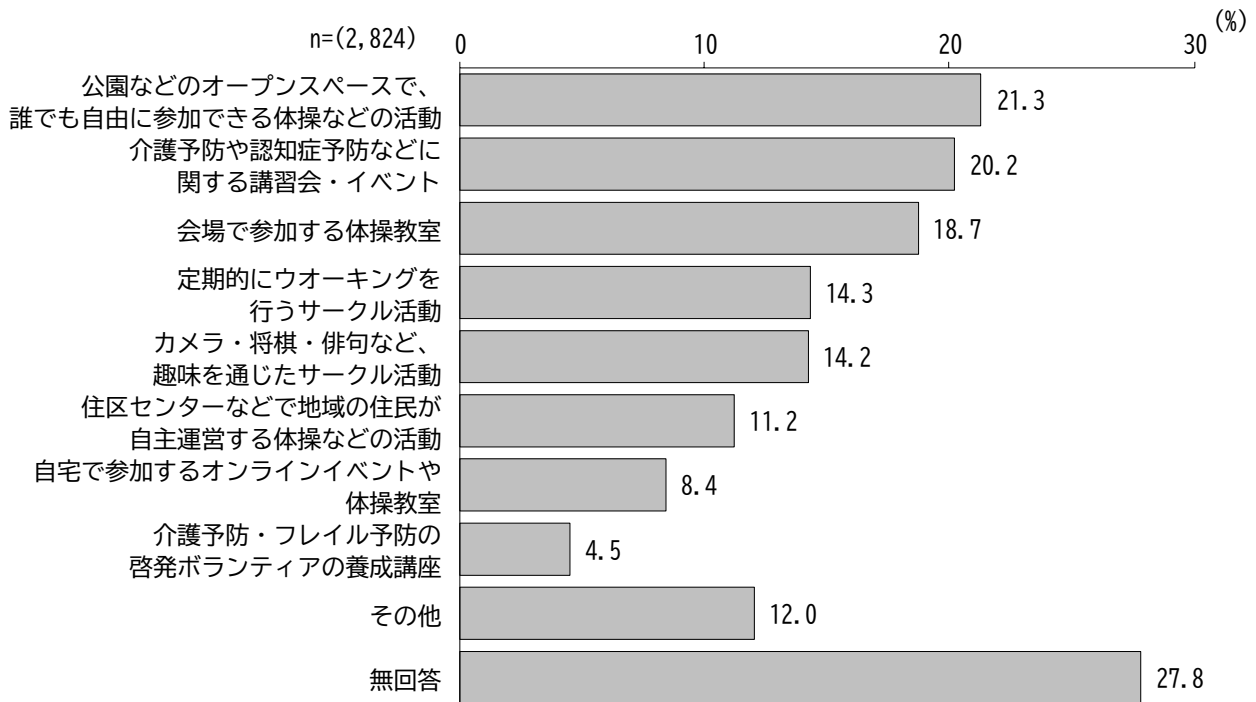


## (5) 参加したい教室や活動

問61 次のような教室や活動があったら、参加したいと思いますか。(〇はいくつでも)

参加したい教室や活動は、「公園などのオープンスペースで、誰でも自由に参加できる体操などの活動」が21.3%で最も高く、次いで「介護予防や認知症予防などに関する講習会・イベント」が20.2%、「会場で参加する体操教室」が18.7%となっている。

図表4-10-9 参加したい教室や活動（複数回答）



参加したい教室や活動を性別で見ると、「会場で参加する体操教室」（男性9.4%、女性25.9%）で16.5ポイント、「公園などのオープンスペースで、誰でも自由に参加できる体操などの活動」（男性16.5%、女性25.0%）「住区センターなどで地域の住民が自主運営する体操などの活動」（男性5.6%、女性15.5%）で5ポイント以上、女性が男性を上回っている。「カメラ・将棋・俳句など、趣味を通じたサークル活動」（男性17.9%、女性11.6%）では男性が女性を6.3ポイント上回っている。

年齢別にみると、「公園などのオープンスペースで、誰でも自由に参加できる体操などの活動」は男性では「80～84歳」が19.9%、女性では「65～69歳」が30.8%とそれぞれ最も高くなっている。「介護予防や認知症予防などに関する講習会・イベント」は男性では「90歳以上」が28.2%、女性では「85～89歳」が24.6%でそれぞれ最も高くなっている。

第4章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

図表4-10-10 参加したい教室や活動（性別・年齢別）

（上段：回答数、下段：％）

項目	調査数（n）	介護予防や認知症予防などに 関する講習会・イベント	会場で参加する体操教室	自宅で参加するオンライン イベントや体操教室	誰の活動も自由に参加できる 体操など、	公園などのオープンスペースで、	自主運営する体操などの活動 が	住宅センターなどで地域の住民が 行うサークル活動	定期的なウォーキングを	趣味を通じたサークル活動、 カメラ・将棋・俳句など、	介護予防・フレイルの養成講座 の啓発ポラ	その他	無回答
全体	2,824	570	529	238	601	315	403	402	126	340	785		
	100.0	20.2	18.7	8.4	21.3	11.2	14.3	14.2	4.5	12.0	27.8		
性別・年齢別	男性全体	1,197	223	113	107	198	67	164	214	42	173	349	
		100.0	18.6	9.4	8.9	16.5	5.6	13.7	17.9	3.5	14.5	29.2	
	男性 65～69歳	281	60	27	23	44	15	46	62	9	38	67	
		100.0	21.4	9.6	8.2	15.7	5.3	16.4	22.1	3.2	13.5	23.8	
	男性 70～74歳	278	40	19	30	47	12	39	42	8	50	84	
		100.0	14.4	6.8	10.8	16.9	4.3	14.0	15.1	2.9	18.0	30.2	
	男性 75～79歳	304	55	30	27	49	20	36	57	14	43	91	
		100.0	18.1	9.9	8.9	16.1	6.6	11.8	18.8	4.6	14.1	29.9	
	男性 80～84歳	201	41	27	15	40	16	32	30	9	25	64	
		100.0	20.4	13.4	7.5	19.9	8.0	15.9	14.9	4.5	12.4	31.8	
	男性 85～89歳	94	16	6	9	14	4	10	18	1	14	30	
		100.0	17.0	6.4	9.6	14.9	4.3	10.6	19.1	1.1	14.9	31.9	
	男性 90歳以上	39	11	4	3	4	-	1	5	1	3	13	
		100.0	28.2	10.3	7.7	10.3	-	2.6	12.8	2.6	7.7	33.3	
	女性全体	1,602	342	415	130	400	248	239	186	84	166	421	
		100.0	21.3	25.9	8.1	25.0	15.5	14.9	11.6	5.2	10.4	26.3	
	女性 65～69歳	315	60	76	44	97	39	67	57	23	38	61	
	100.0	19.0	24.1	14.0	30.8	12.4	21.3	18.1	7.3	12.1	19.4		
女性 70～74歳	336	71	91	28	93	42	53	39	12	32	78		
	100.0	21.1	27.1	8.3	27.7	12.5	15.8	11.6	3.6	9.5	23.2		
女性 75～79歳	398	83	104	26	101	79	62	48	20	42	104		
	100.0	20.9	26.1	6.5	25.4	19.8	15.6	12.1	5.0	10.6	26.1		
女性 80～84歳	307	72	82	12	70	43	32	27	17	25	99		
	100.0	23.5	26.7	3.9	22.8	14.0	10.4	8.8	5.5	8.1	32.2		
女性 85～89歳	171	42	49	17	30	33	19	11	9	16	49		
	100.0	24.6	28.7	9.9	17.5	19.3	11.1	6.4	5.3	9.4	28.7		
女性 90歳以上	75	14	13	3	9	12	6	4	3	13	30		
	100.0	18.7	17.3	4.0	12.0	16.0	8.0	5.3	4.0	17.3	40.0		
無回答	25	5	1	1	3	-	-	2	-	1	15		
	100.0	20.0	4.0	4.0	12.0	-	-	8.0	-	4.0	60.0		

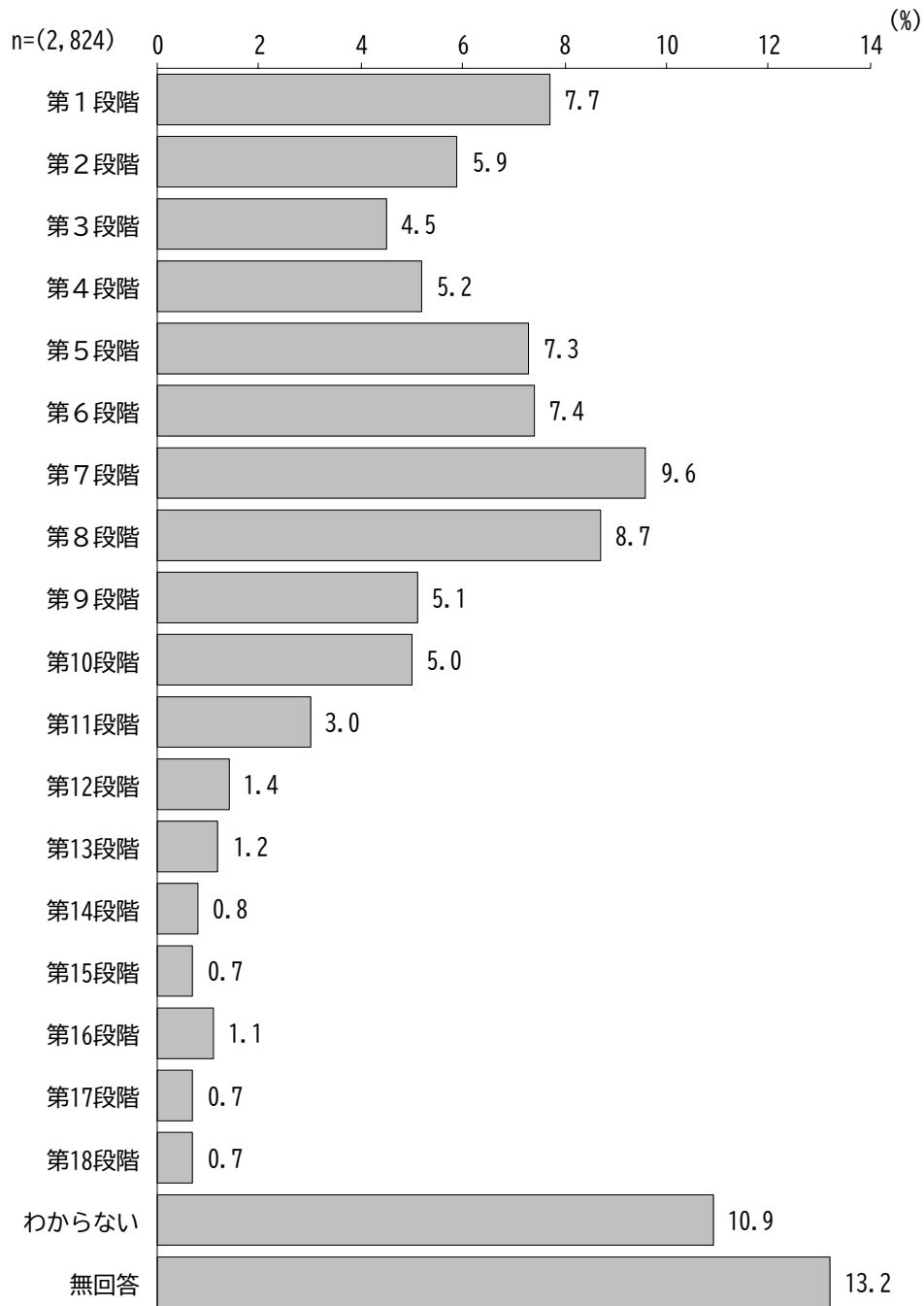
## 11. 介護保険制度について

## (1) 現在の介護保険料の所得段階

問62 あなたの現在の介護保険料の所得段階は、どれに該当しますか。(〇は1つ)

現在の介護保険料の所得段階は、「わからない」が10.9%で最も高く、次いで「第7段階」が9.6%、「第8段階」が8.7%となっている。

図表4-11-1 現在の介護保険料の所得段階

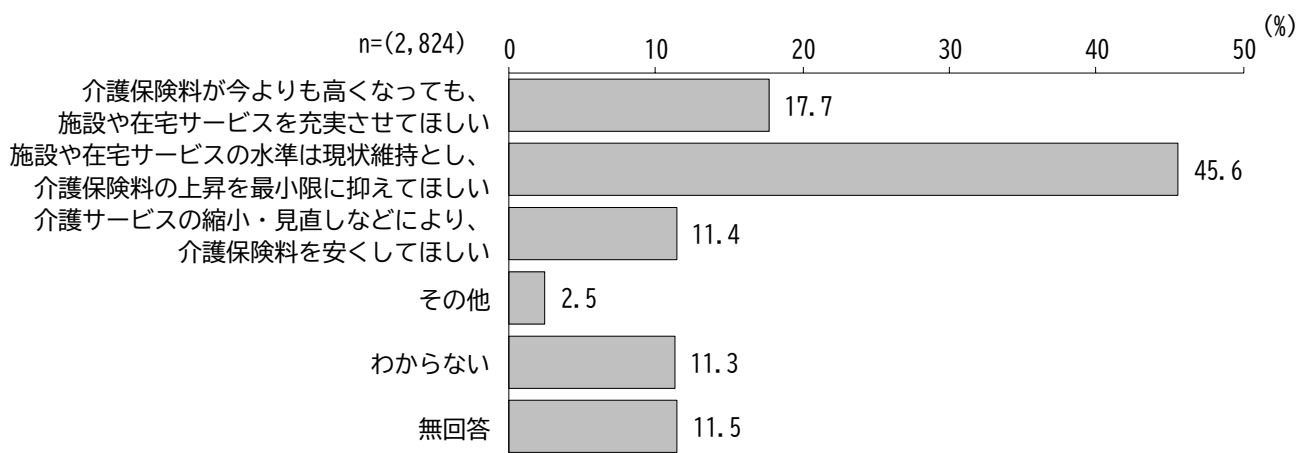


(2) 介護サービスと介護保険料の関係についての考え

問63 今後、高齢化が進み介護サービスを利用する方が多くなると介護保険料が高くなること  
 が想定されますが、介護サービスと介護保険料の関係について、あなたの考えに近いもの  
 はどれですか。(〇は1つ)

介護サービスと介護保険料の関係についての考えは、「施設や在宅サービスの水準は現状維持とし、介護保険料の上昇を最小限に抑えてほしい」が45.6%で最も高く、次いで「介護保険料が今よりも高くなっても、施設や在宅サービスを充実させてほしい」が17.7%、「介護サービスの縮小・見直しなどにより、介護保険料を安くしてほしい」が11.4%となっている。

図表4-11-2 介護サービスと介護保険料の関係についての考え



## 12. 高齢者施策全般について

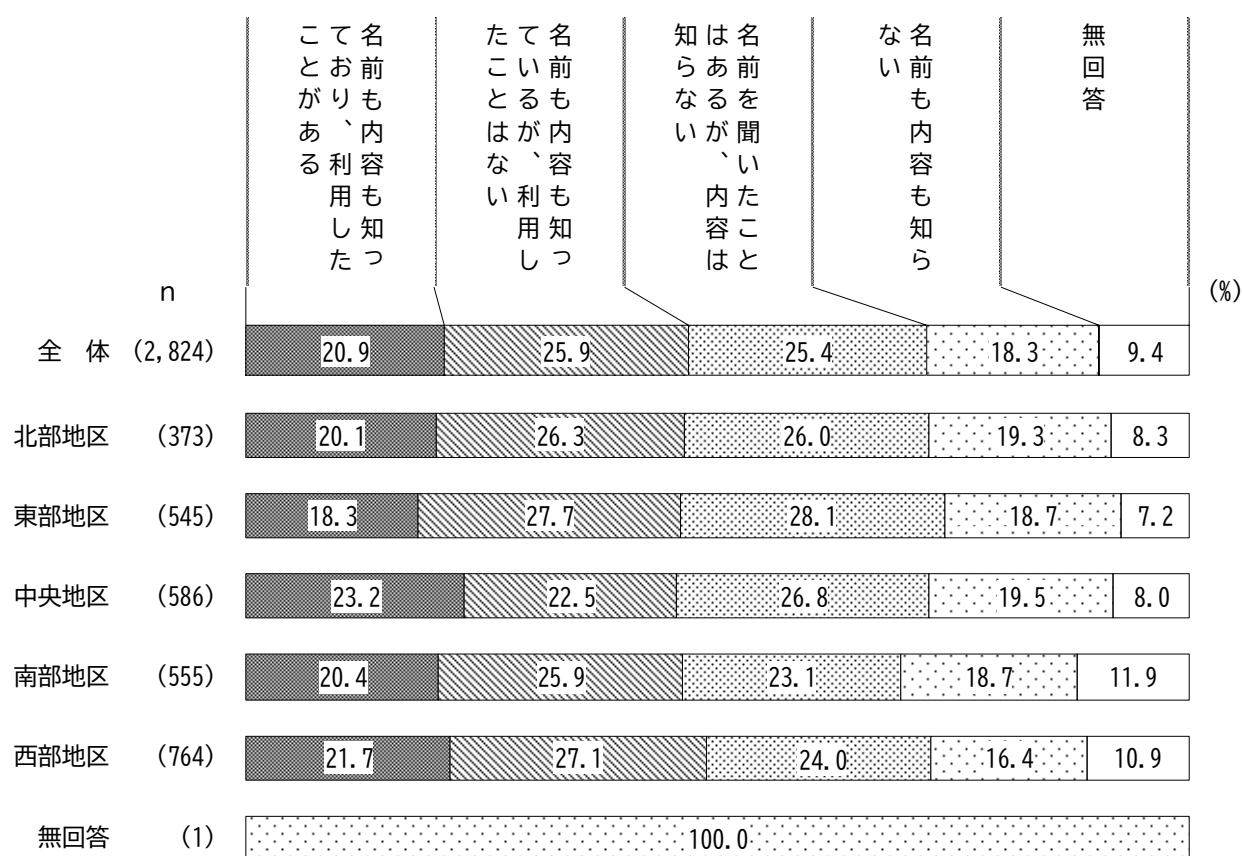
### (1) 地域包括支援センターの認知度

問64 目黒区では、区内5か所に保健福祉の総合相談窓口「地域包括支援センター」を設置しています。あなたは「地域包括支援センター」をご存知ですか。(〇は1つ)

地域包括支援センターの認知度は、「名前も内容も知っているが、利用したことはない」が25.9%で最も高く、次いで「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が25.4%、「名前も内容も知っており、利用したことがある」が20.9%となっている。

居住地区別にみると、「名前も内容も知っており、利用したことがある」は「中央地区」で23.2%、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」は「東部地区」で28.1%と高くなっている。

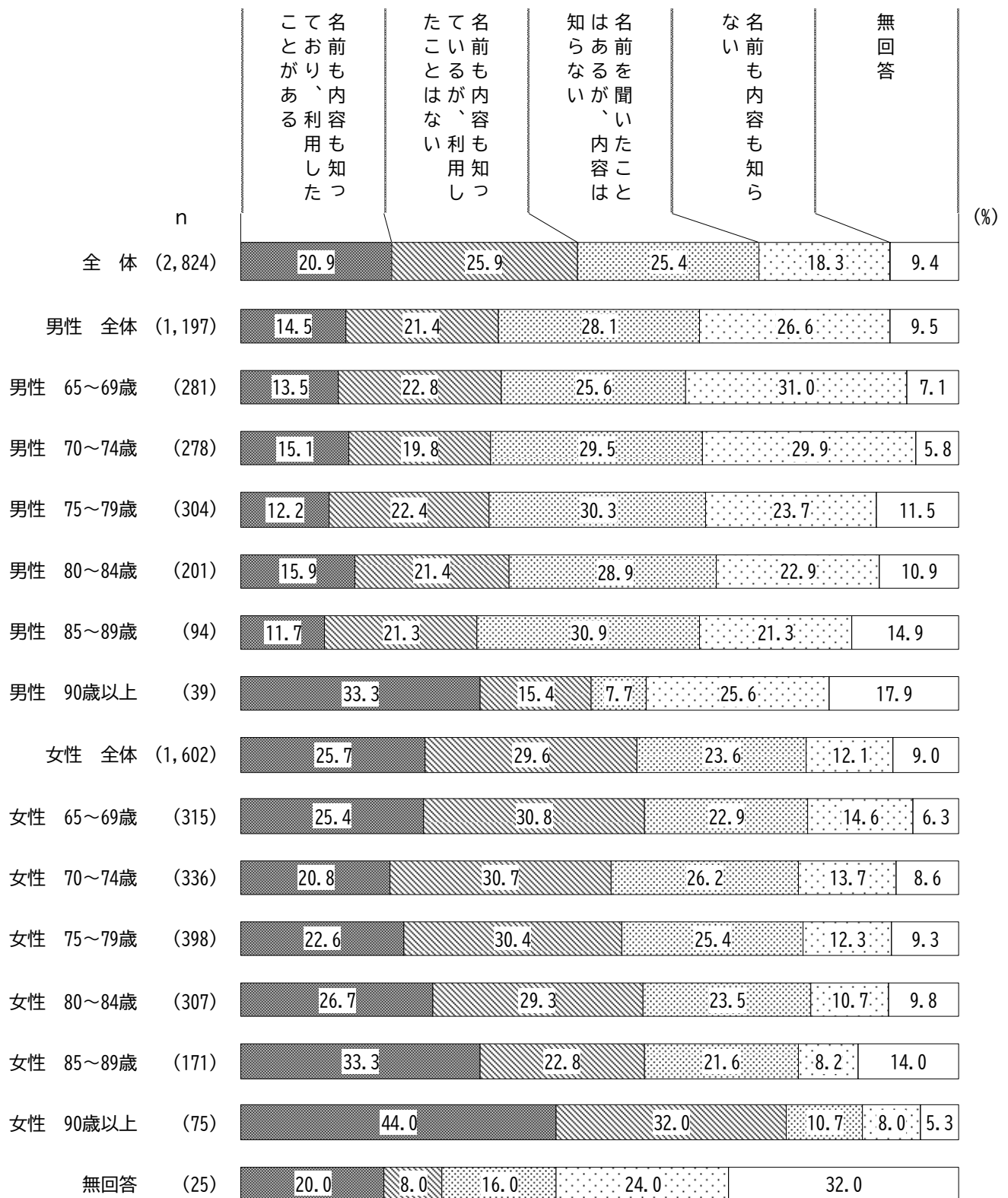
図表4-12-1 地域包括支援センターの認知度（居住地区別）



地域包括支援センターの認知度を性別でみると、「名前も内容も知っており、利用したことがある」(男性14.5%、女性25.7%)で11.2ポイント、「名前も内容も知っているが、利用したことはない」(男性21.4%、女性29.6%)で8.2ポイント、女性が男性を上回っている。「名前も内容も知らない」(男性26.6%、女性12.1%)では、男性が女性を14.5ポイント上回っている。

年齢別にみると、「名前も内容も知っており、利用したことがある」は男女ともに「90歳以上」が最も高くなっており、男性で33.3%、女性で44.0%となっている。「名前も内容も知らない」は男性ではすべての年齢で2割以上となっており、「65～69歳」で31.0%と最も高くなっている。

図表4-12-2 地域包括支援センターの認知度（性別・年齢別）

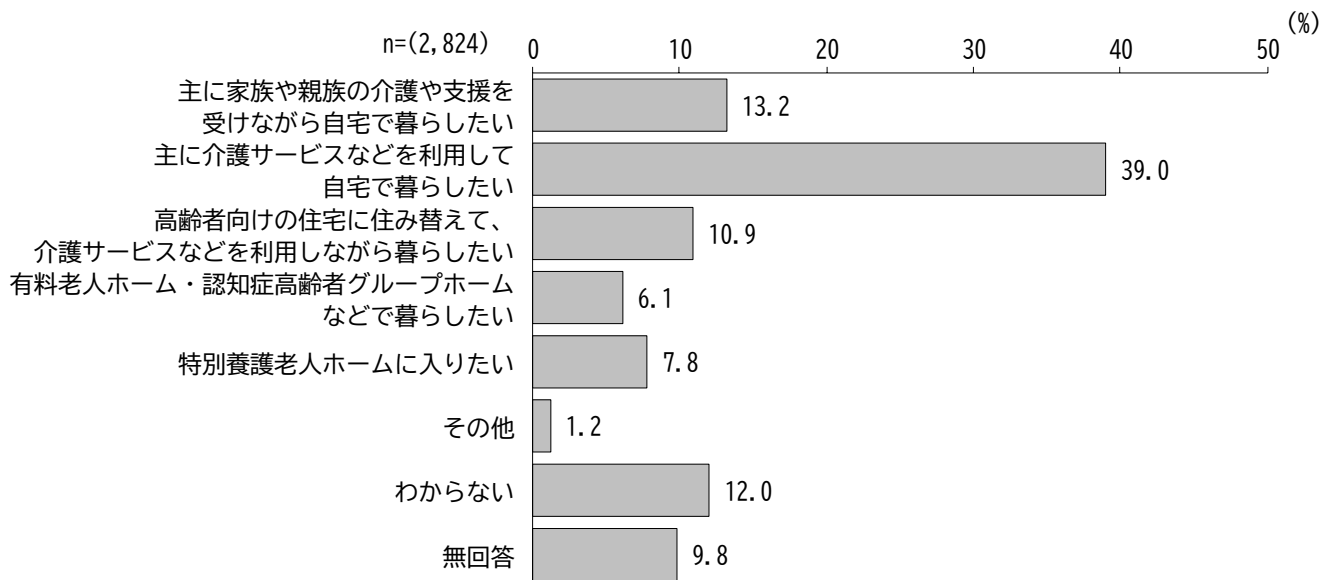


## (2) 介護が必要になった場合の暮らし方

問65 今後介護などが必要になった場合、あるいは要介護度が重くなった場合、あなたはどのような暮らし方をしたいと思いますか。(〇は1つ)

介護が必要になった場合に希望する暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して自宅で暮らしたい」が39.0%で最も高く、次いで「主に家族や親族の介護や支援を受けながら自宅で暮らしたい」が13.2%、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」が10.9%となっている。

図表4-12-3 介護が必要になった場合に希望する暮らし方



#### 第4章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

介護が必要になった場合に希望する暮らし方を性別でみると、「主に家族や親族の介護や支援を受けながら自宅で暮らしたい」が男性17.3%、女性10.1%と、男性が女性を上回っている。

年齢別にみると、男女ともに「主に介護サービスなどを利用して自宅で暮らしたい」がすべての年齢で高く、男性の「80～84歳」、女性の「75～79歳」「80～84歳」「90歳以上」で4割以上となっている。

図表4-12-4 介護が必要になった場合に希望する暮らし方（性別・年齢別）

（上段：回答数、下段：%）

項目	調査数（n）	主に家族や親族の介護や支援を受けながら自宅で暮らしたい	自主に介護サービスなどを利用して自宅で暮らしたい	介護サービスなどの住宅に住み替えて暮らしたい	高齢者向けの住宅に住み替えて暮らしたい	有料老人ホーム・認知症高齢者グループホームなど	特別養護老人ホームに入りたい	その他	わからない	無回答
全体	2,824 100.0	372 13.2	1100 39.0	308 10.9	173 6.1	220 7.8	35 1.2	338 12.0	278 9.8	
性別・年齢別	男性全体	1,197 100.0	207 17.3	439 36.7	109 9.1	81 6.8	84 7.0	12 1.0	145 12.1	120 10.0
	男性 65～69歳	281 100.0	33 11.7	103 36.7	34 12.1	26 9.3	19 6.8	5 1.8	39 13.9	22 7.8
	男性 70～74歳	278 100.0	47 16.9	99 35.6	31 11.2	24 8.6	23 8.3	2 0.7	35 12.6	17 6.1
	男性 75～79歳	304 100.0	55 18.1	109 35.9	23 7.6	15 4.9	23 7.6	2 0.7	39 12.8	38 12.5
	男性 80～84歳	201 100.0	36 17.9	85 42.3	14 7.0	8 4.0	8 4.0	2 1.0	24 11.9	24 11.9
	男性 85～89歳	94 100.0	27 28.7	29 30.9	6 6.4	6 6.4	6 6.4	1 1.1	6 6.4	13 13.8
	男性 90歳以上	39 100.0	9 23.1	14 35.9	1 2.6	2 5.1	5 12.8	-	2 5.1	6 15.4
	女性全体	1,602 100.0	162 10.1	657 41.0	196 12.2	91 5.7	134 8.4	21 1.3	191 11.9	150 9.4
	女性 65～69歳	315 100.0	22 7.0	107 34.0	53 16.8	29 9.2	26 8.3	3 1.0	53 16.8	22 7.0
	女性 70～74歳	336 100.0	35 10.4	131 39.0	42 12.5	23 6.8	34 10.1	2 0.6	40 11.9	29 8.6
	女性 75～79歳	398 100.0	27 6.8	182 45.7	41 10.3	16 4.0	34 8.5	12 3.0	43 10.8	43 10.8
	女性 80～84歳	307 100.0	36 11.7	134 43.6	28 9.1	16 5.2	27 8.8	2 0.7	37 12.1	27 8.8
	女性 85～89歳	171 100.0	32 18.7	66 38.6	26 15.2	4 2.3	8 4.7	-	12 7.0	23 13.5
	女性 90歳以上	75 100.0	10 13.3	37 49.3	6 8.0	3 4.0	5 6.7	2 2.7	6 8.0	6 8.0
	無回答	25 100.0	3 12.0	4 16.0	3 12.0	1 4.0	2 8.0	2 8.0	2 8.0	8 32.0

介護が必要になった場合に希望する暮らし方を家族構成別にみると、「主に介護サービスなどを利用して自宅で暮らしたい」がすべての家族構成で最も高く、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」では41.9%となっている。

図表4-12-5 介護が必要になった場合に希望する暮らし方（家族構成別）

(上段:回答数、下段:%)

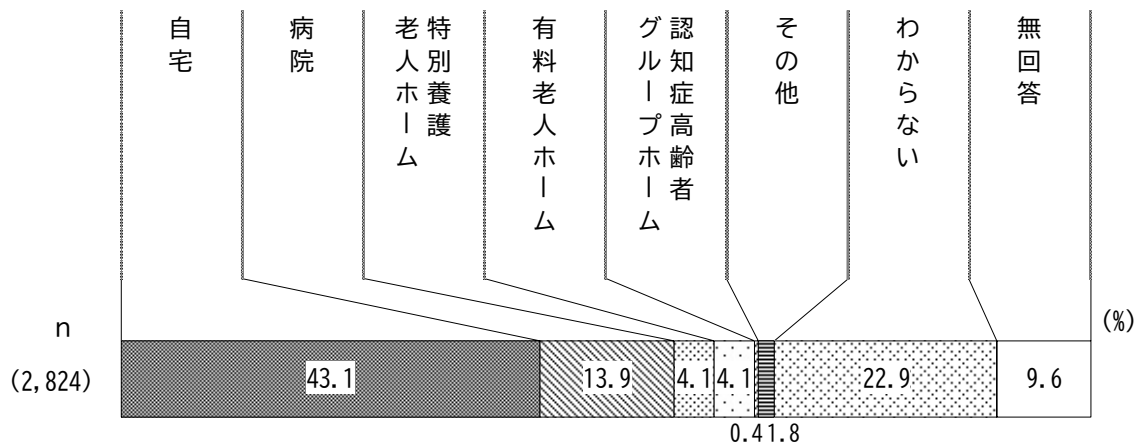
項目	調査数 (n)	主に家族や親族の介護や支援を受けながら自宅で暮らしたい	自宅で介護サービスなどを利用して	介護サービスなどの住宅に住み替えて暮らしたい	高齢者向けの住宅に利用しながら	有料老人ホーム・認知症高齢者グループホームなど暮らしたい	特別養護老人ホームに入りたい	その他	わからない	無回答
全体	2,824 100.0	372 13.2	1100 39.0	308 10.9	173 6.1	220 7.8	35 1.2	338 12.0	278 9.8	
家族構成	1人暮らし	708 100.0	48 6.8	267 37.7	112 15.8	42 5.9	54 7.6	12 1.7	116 16.4	57 8.1
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	1,056 100.0	158 15.0	442 41.9	109 10.3	70 6.6	79 7.5	9 0.9	87 8.2	102 9.7
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	120 100.0	20 16.7	35 29.2	17 14.2	8 6.7	6 5.0	3 2.5	20 16.7	11 9.2
	息子・娘との2世帯	435 100.0	68 15.6	170 39.1	33 7.6	21 4.8	40 9.2	2 0.5	48 11.0	53 12.2
	その他	452 100.0	70 15.5	164 36.3	36 8.0	31 6.9	37 8.2	8 1.8	61 13.5	45 10.0
	無回答	53 100.0	8 15.1	22 41.5	1 1.9	1 1.9	4 7.5	1 1.9	6 11.3	10 18.9

(3) 人生の最期を迎えたい場所

問66 あなたは、人生の最期をどこで迎えたいと思いますか。(〇は1つ)

人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」が43.1%で最も高く、次いで「病院」が13.9%、「有料老人ホーム」「特別養護老人ホーム」がともに4.1%となっている。一方、「わからない」は22.9%となっている。

図表4-12-6 人生の最期を迎えたい場所



人生の最期を迎えたい場所を性別で見ると、「自宅」は男性48.3%、女性39.5%で男性が女性を8.8ポイント上回っている。

年齢別にみると男性ではすべての年齢で「自宅」が最も高く、年齢が上がるほど高くなっており、「90歳以上」では59.0%となっている。女性では「65～69歳」を除いた年齢で「自宅」が最も高くなっており、「80～84歳」で47.2%となっている。

図表4-12-7 人生の最期を迎えたい場所（性別・年齢別）

(上段:回答数、下段:%)

項目	調査数 (n)	自宅	病院	特別 養護 老人 ホーム	有料 老人 ホーム	グ ル ー プ ホ ー ム	認 知 症 高 齢 者	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	2,824 100.0	1217 43.1	392 13.9	117 4.1	117 4.1	11 0.4	50 1.8	648 22.9	272 9.6	
性別・年齢別	男性全体	1,197 100.0	578 48.3	149 12.4	41 3.4	49 4.1	3 0.3	17 1.4	246 20.6	114 9.5
	男性 65～69歳	281 100.0	117 41.6	47 16.7	13 4.6	17 6.0	2 0.7	4 1.4	61 21.7	20 7.1
	男性 70～74歳	278 100.0	128 46.0	35 12.6	7 2.5	15 5.4	1 0.4	4 1.4	73 26.3	15 5.4
	男性 75～79歳	304 100.0	152 50.0	32 10.5	10 3.3	6 2.0	-	4 1.3	66 21.7	34 11.2
	男性 80～84歳	201 100.0	105 52.2	19 9.5	4 2.0	6 3.0	-	4 2.0	37 18.4	26 12.9
	男性 85～89歳	94 100.0	53 56.4	13 13.8	6 6.4	4 4.3	-	-	5 5.3	13 13.8
	男性 90歳以上	39 100.0	23 59.0	3 7.7	1 2.6	1 2.6	-	1 2.6	4 10.3	6 15.4
	女性全体	1,602 100.0	632 39.5	240 15.0	75 4.7	68 4.2	8 0.5	32 2.0	396 24.7	151 9.4
	女性 65～69歳	315 100.0	94 29.8	39 12.4	16 5.1	18 5.7	1 0.3	10 3.2	116 36.8	21 6.7
	女性 70～74歳	336 100.0	120 35.7	47 14.0	22 6.5	11 3.3	4 1.2	8 2.4	94 28.0	30 8.9
	女性 75～79歳	398 100.0	162 40.7	65 16.3	14 3.5	19 4.8	1 0.3	6 1.5	90 22.6	41 10.3
	女性 80～84歳	307 100.0	145 47.2	48 15.6	15 4.9	13 4.2	1 0.3	3 1.0	52 16.9	30 9.8
	女性 85～89歳	171 100.0	77 45.0	24 14.0	5 2.9	5 2.9	1 0.6	2 1.2	34 19.9	23 13.5
	女性 90歳以上	75 100.0	34 45.3	17 22.7	3 4.0	2 2.7	-	3 4.0	10 13.3	6 8.0
無回答	25 100.0	7 28.0	3 12.0	1 4.0	-	-	1 4.0	6 24.0	7 28.0	

#### 第4章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

人生の最期を迎えたい場所を家族構成別にみると、すべての家族構成で「自宅」が最も高くなっており、「夫婦2人暮らし（配偶者は65歳以上）」では47.2%となっている。

図表4-12-8 人生の最期を迎えたい場所（家族構成別）

(上段:回答数、下段:%)

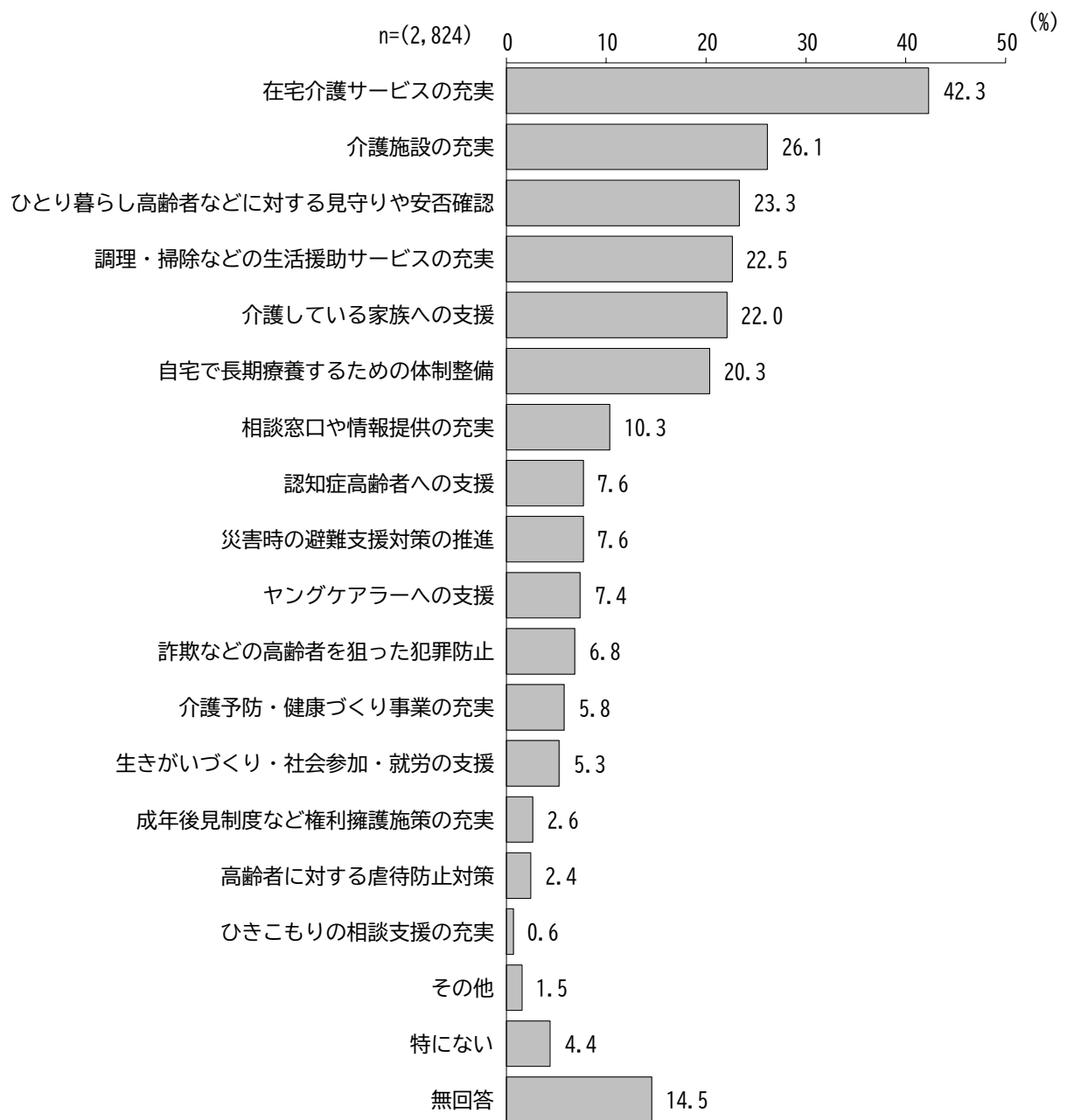
項目		調査数 (n)	自宅	病院	特別 養護 老人 ホーム	有料 老人 ホーム	グ ル 知 症 プ 高 ホ ー ム 者	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体		2,824 100.0	1217 43.1	392 13.9	117 4.1	117 4.1	11 0.4	50 1.8	648 22.9	272 9.6
家族 構 成	1人暮らし	708 100.0	254 35.9	107 15.1	38 5.4	37 5.2	5 0.7	19 2.7	194 27.4	54 7.6
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	1,056 100.0	498 47.2	125 11.8	40 3.8	45 4.3	3 0.3	16 1.5	225 21.3	104 9.8
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	120 100.0	54 45.0	15 12.5	2 1.7	8 6.7	1 0.8	2 1.7	29 24.2	9 7.5
	息子・娘との2世帯	435 100.0	205 47.1	71 16.3	17 3.9	10 2.3	2 0.5	4 0.9	77 17.7	49 11.3
	その他	452 100.0	189 41.8	65 14.4	17 3.8	17 3.8	-	8 1.8	112 24.8	44 9.7
	無回答	53 100.0	17 32.1	9 17.0	3 5.7	-	-	1 1.9	11 20.8	12 22.6

## (4) 高齢者施策で優先的に取り組む必要があるもの

問67 目黒区において、これからの高齢者施策で優先的に取り組む必要があると思うものはどれですか。(〇は3つまで)

高齢者施策で優先的に取り組む必要があるものは、「在宅介護サービスの充実」が42.3%で最も高く、次いで「介護施設の充実」が26.1%、「ひとり暮らし高齢者などに対する見守りや安否確認」が23.3%となっている。

図表4-12-9 高齢者施策で優先的に取り組む必要があるもの（複数回答）



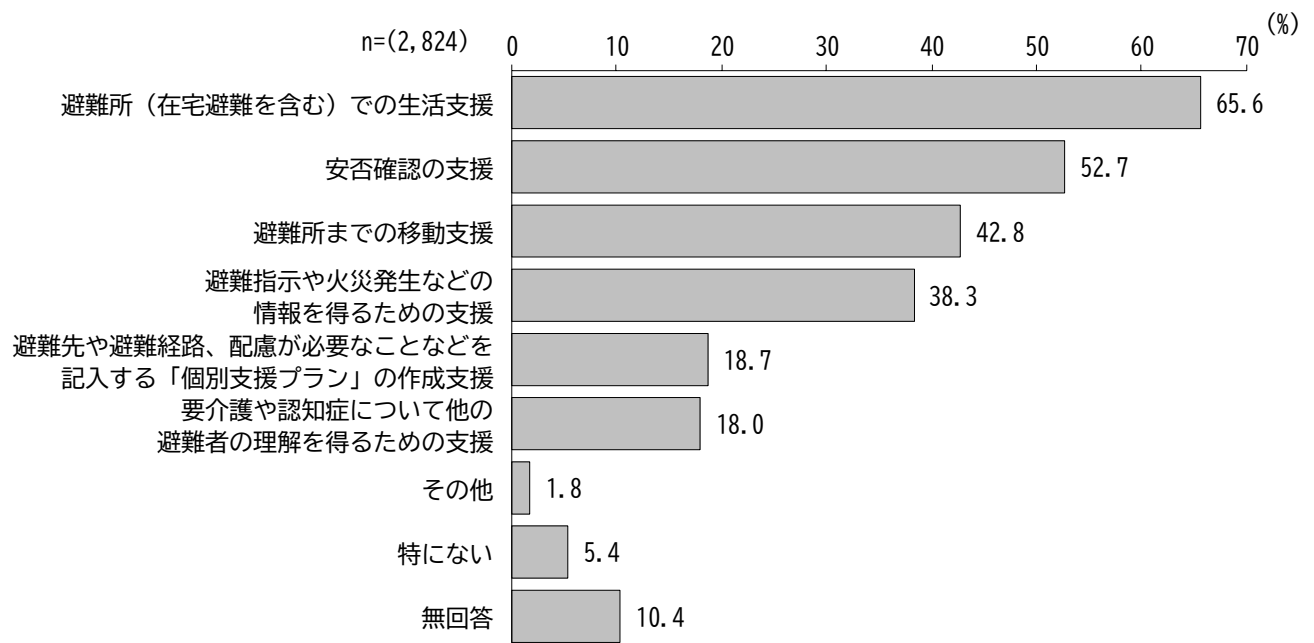
### 13. 災害時の対策について

#### (1) 災害発生時や事前の備えに必要な支援

問68 災害（地震、風水害など）が発生した時や事前の備えに、どのような支援が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

災害発生時や事前の備えに必要な支援は、「避難所（在宅避難を含む）での生活支援」が65.6%で最も高く、次いで「安否確認の支援」が52.7%、「避難所までの移動支援」が42.8%となっている。

図表4-13-1 災害発生時や事前の備えに必要な支援（複数回答）



災害発生時や事前の備えに必要な支援を家族構成別にみると、すべての家族構成で「避難所（在宅避難を含む）での生活支援」が最も高く、「夫婦2人暮らし（配偶者は65歳以上）」で66.3%となっている。

図表4-13-2 災害発生時や事前の備えに必要な支援（家族構成別）

(上段:回答数、下段:%)

項目	調査数 (n)	避難所（在宅避難を含む）での生活支援	安否確認の支援	避難所までの移動支援	避難所までの移動支援	避難所までの移動支援	避難所までの移動支援	避難所までの移動支援	避難所までの移動支援	避難所までの移動支援	避難所までの移動支援
		その他	特にな	無回答							
全体	2,824 100.0	1852 65.6	1487 52.7	1209 42.8	1083 38.3	527 18.7	508 18.0	52 1.8	153 5.4	295 10.4	
家族構成	1人暮らし	708 100.0	461 65.1	386 54.5	309 43.6	268 37.9	153 21.6	99 14.0	10 1.4	46 6.5	62 8.8
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	1,056 100.0	700 66.3	580 54.9	444 42.0	413 39.1	179 17.0	197 18.7	20 1.9	45 4.3	107 10.1
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	120 100.0	77 64.2	57 47.5	46 38.3	48 40.0	16 13.3	18 15.0	3 2.5	11 9.2	10 8.3
	息子・娘との2世帯	435 100.0	276 63.4	215 49.4	179 41.1	153 35.2	85 19.5	89 20.5	6 1.4	26 6.0	57 13.1
	その他	452 100.0	307 67.9	222 49.1	213 47.1	181 40.0	89 19.7	96 21.2	13 2.9	23 5.1	47 10.4
	無回答	53 100.0	31 58.5	27 50.9	18 34.0	20 37.7	5 9.4	9 17.0	-	2 3.8	12 22.6

## 14. 自由意見

問69 介護保険制度や高齢者保健福祉施策に関してご意見やご提案がありましたら、お聞かせください。

671名の方から寄せられた回答を、原文の文意が損なわれないように要約・抜粋して記載。

### 介護保険制度や高齢者保健福祉施策全般について

- 制度がわかりにくい。健康で生活出来るアドバイスが少ない。介護保険、高齢福祉、地域包括支援センター、社協福祉と分かれての利用でトータルケアが欠けています。本当に1人の方が元気で生きられるメニュー作成とサポートが必要です。
- 要介護、認知症予防のための行政による定期的な実技的講義等を実施してほしい。
- 重病の高齢者を行政が厚く支援してあげてほしいと思います。
- もう少し理解しやすい説明と、区役所をあちこち歩きまわらないで済むようにしていただきたいです。
- 目黒区は財政難の中よくやっていると思う。今後、多少の増税があっても仕方がないと思うが、サービス内容の低下は避けてほしい。
- 介護が必要になったらどうすれば良いか、どのようなサービスが受けられるのかを公報等で繰り返し知らせしてほしい。
- 本当に介護が必要な人、福祉に頼らなければいけない人をしっかり調査をしてほしい。
- 制度についてのパンフレットなどを全世帯に配布してほしい。施策にかかわる区の負担と税収のバランスなどのデータも公開してほしい。
- 介護保険制度や高齢者保健福祉施策については、バランス（払うものと受けるサービス）が必要ですし、一番大事だと思っています。
- 高齢者が転入した時、竹の子クラブや老人の集う会へのお知らせなどを目につく場所に置いてあげれば良いと思います。
- 生活困窮者への支援は必要だが、過度の無償化や保障とならないように。真面目に働き自活し、納税している人の納得感が得られるような制度設計を期待します。
- 高齢で1人暮らしの家に3ヶ月に1回位家庭訪問して頂けないでしょうか。
- 男性は外出を嫌うので高齢男性が興味を持って外出する企画や場所があるとありがたい。
- 役所に出向かずにでもすぐに相談できるよう、民間のスポーツクラブや自治会などとのつながりをもっと作っていただけたら良いのでは？と思います。
- 子ども食堂みたいに老人食堂みたいなのがあったらいいと思う。
- 高齢者が年老いてから災害や失業、病気などによって住まいを失った場合の福祉施策が、区によって大きなバラつきがあるようです。区によってギャップが広がらないよう、早急に問題意識を持ってプランニングしていただきたいです。
- 若者や学生でも、地域の高齢者等の買い物、掃除等を手伝う「ちょこっとヘルパー」を養成するなどして、若い人にも介護にアクセスしやすくすればと思っています。
- 子どもがいないので、成年後見制度を充実させてもらいたいです。
- 介護が必要な人が増え、福祉に費やす税金が増えることについて、若年層の理解が得られる

よう世代間の分断が進まないように、若年層と高齢層、独身層と家族ファミリー層、バランスのよい施策を望みます。

- 高齢者が外出しやすいように、交通手段（バス、タクシーなど）の利用が楽に出来るような制度を充実してほしい。
- 制度を利用していない、わりと元気な人への配慮が足りていないと思う。日常生活においての補助（高齢者食堂、おフロの入浴券）。
- 子育て支援も大切ですが高齢者家庭、またその方々を支えている人への支援を考えてほしいです。
- 高齢者の大変な家庭へ非課税者の支援がもっとあってほしい。
- 健康寿命を延ばす取組も大切だと思いますが、広い意味でのQOD（Quality of Death）を考える時期に来ていると思います。
- 介護保険制度は見直しが必要だと思います。介護職員の不足、保険料がたりない等、充実した介護が出来ない報道があります。高齢者が安心して老後を暮せ、介護職員がやりがいのある充実した保険制度に見直していただきたい。
- 毎月でなくても良いですから区報のように高齢者情報区報などが行政で発行されると良いかなとも思っています。高齢者居住世帯に発行され本人も家族も読めると良い。
- スマートフォン教室があると助かります。
- 縦割り組織の改善、各自治体とのスムーズな連携、連繋システムの構築を進めていくことが最優先です。
- 介護サービスの利用者が増えすぎないように、介護保険料の支払いが始まる40歳代の人々に啓蒙・支援するサービスをもっと充実させていただきたいです。特にヤングケアラーも含めて介護をする人々が自身の介護予防に時間的・金銭的余裕がなく、要介護予備軍となってしまうように十分な支援が望まれます。
- 障害者への障害福祉と介護保険の線引きを細やかな配慮で見直してほしい。
- 独居高齢者が増加するので、死後の手続き、葬儀などの処理を民間業者主導では、不安が大きい。もっと、自治体が終末期～死後の手続きまで関与を深めてほしい。
- 在宅で、継続した生活ができるように、医療と介護の在宅の支援を充実させて頂きたい。
- 制度や施策は、「受益者負担の原則」から著しく逸脱しないように、常に設計を見直してゆくことが大切です。
- 本人に合った車いすの必要を感じたが、入院・入所後でも車いすに関しては補助金が出るようにしてほしいです。

### 介護保険料について

- 介護保険制度を利用している人と利用していない人で、ある程度の保険料の差を付けるべきと思う。
- 今後高齢化がさらに進む事を考えれば、介護保険料の徴収は40歳からではなく、全ての年代から徴収するべきだと考えます。
- 介護保険料が高く、負担になっている。
- 介護保険料の所得段階を、第18段階より上を設定し、保険料を増額すべき。

- 一定の年齢になってもサービス使っていない人には、割戻金や満期返戻金などを作って、少し返金してあげたらどうか。介護保険料を払っている人に、目黒区で使えるポイントを付与したらどうか。
- 介護保険料決定通知書等の算定金額の根拠を簡単に理解できるようにしてほしい。
- 住民税が非課税でも、不動産・車を所有している人には介護保険料を負担して頂く。
- 介護保険料が高くなる事は理解出来ますが、その分受け入れ側の体制、従事者の育成サービス等々高齢者に対しての向きあい方の見直し改善、特に虐待等そういった問題の取組を充実させる必要性は大きいと思います。
- 世帯全員ではなく個人の所得で保険料を算出してほしいです。

### 介護認定について

- 介護認定が厳しくなって、今助けがいる人が直ぐに支援を受けられない。待たなくてはならなくて、困った経験があります。
- かかっている医師と自治体がスムーズに対応でき、適切な要介護認定を一刻も早くできるような施策を早急をお願いします。

### 介護予防・フレイル予防について

- フレイルやひざの痛み解消など介護保険課主催の案内が区報にあって参加して、とても参考になった。運動習慣になるには、夫婦2人で参加したほうが良かったかと思う。
- 公民館を活用して、無料のヨガを教えてほしいです。
- 体力測定の場所があれば教えてほしい。体力測定場所が欲しい。体力維持方法を指導してもらいたい。食事の栄養内容の指導。
- スポーツ施設での後期高齢者向け体操・ストレッチ等の実施（週に定まった時間で開催すれば、定期的に通う）。
- 介護予防をポイント制度化して、集会所・商業施設等で行う、健康づくりなどのイベントに参加した時にポイントを付与する事で通いの場を作って参加意欲を高め、高齢者のフレイル予防や孤立防止に役立てる。
- スポーツクラブの会費の補助をして。元気に過ごすことが、介護だけでなく医療費の削減にも繋がると思います。
- 元気で体を動かすことができるよう、ロコモティブシンドロームの予防に力を入れてください。
- 掛声だけの体操、長続きしませんでした。素敵な音楽でフォークダンスとかレクリエーションダンスが好きです。

### 在宅サービスについて

- 夕方～夜、20時頃迄、預かってくれるデイ等、週に2泊3日程度のショートステイがあれば。
- 高齢者に安心した居宅環境は住み慣れた自宅と考えます。自宅で最期まで暮らせるシステムやサービスの充実に力を入れてほしいと思います。

### 施設サービスについて

- 安価で低所得者も入居出来る施設が出来ると良いと思っています。
- 老人ホームをもっと増やしてほしい。
- 特別養護老人ホームを目黒区内に多く作ってほしい。他の区とくらべると少なく思います。
- 目黒区にも自立型有料老人ホームがあればと思います。
- 民間の施設に、補助金を出して、民間の施設が、安く利用できるようになってほしいです。

### 介護人材について

- 介護担当者の待遇改善（もっと給酬を上げて人材確保してほしい）。
- 介護士さん達の大変さをまのあたりにしています。意義ある仕事をもっと評価されるべき。外国の方もとてもがんばっています。もっと評価されるべき。
- デイサービス等を受けているが、最近スタッフ不足等による縮小、閉鎖があり、人員確保、スタッフの待遇改善を考えてほしい。
- 介護を担う人材は、単にマンパワーとして外国人に頼ることやAIで代替することのできない高度な「技術者」として養成し、社会的に評価されるべきです。そのことで負担が増すことになって私個人としては受け容れたいと思います。
- 介護士など職員の給料や待遇を改善することが大切。介護士不足問題を解決してほしい。
- 介護人の水準が低いように思います。レベルアップをして、介護人の所得もやりがいのある金額を支払えるようにしてほしいです。

### 将来への不安・悩みについて

- 少ない年金に対して介護保険代が高すぎる。この他に健康保険料も引かれて本当に憲法で最低限度の生活を営む権利を有することが出来るのか今の生活で物価高に苦しみ不安で不安で…。
- 独居老人の自宅での突然の孤独死が一番不安です。定期的に安否確認などをしてくれる区の制度を作ってほしいと思います。
- 高齢者が増えると特別養護老人ホームに、より入居できないのではないかと不安に思っています。
- 介護人材の不足や今後の自己負担の増加については不安があります。
- 高齢になる程介護について年々意識が薄れ、要望・希望のみが大きくなり不満が制御できなくなると思います。迷惑かけていることも気がつかなくなることを恐れます。

- 自分が高齢者になった時に、介護保険制度が利用しにくくなるのではないかと不安になります（利用料の値上げや、利用希望者の増加と施設不足など）。
- 実際に介護が必要になった場合の具体的な保障がわからず、不安になります。
- これからの生活設計ができていないし、このままでは対応できそうもなく不安。自分に合った設計図づくりに協力してもらえると有難いと思っている。
- 近い将来、お一人様になるので、健康面や認知症になった時など、不安があります。1人でも自宅で看取りとかできるのか、そういう事を相談できる場所、制度があるといいのですが。

### 家族介護について

- 在宅で重度の介護者を介護しているご家族に介護手当をわずかでも給付できないのでしょうか。手当が適切でなければ慰労の品でも。
- リフレッシュのため、週に1日位は自分の時間が、月に1度位は1泊位の時間がほしい。
- 介護・看護をするにあたって、家族の存在をあてにしない政策を一層すすめてください。
- 在宅介護を推進している現状ですが、介護を担う家族（ヤングケアラー含む）に対してのケアが不足しているように思います。また家族に対してもっと色々な情報の提供があってくれればと思います。介護のことで悩んでいる時に、オンラインで気軽に相談できる窓口があればと思います。

### 高齢者の住宅について

- 高齢者になると賃貸住宅入居の場合、引越するにも保証人がいない等の理由で次のステップに進められないと聞きます。手厚い保護が受けられることを望みます。
- 家賃援助を申し込みましたが家賃が値上がっています。援助の中の助成条件の中に家賃の上限がありますが、それも見直してほしいと思いました。
- 高齢者向けの住宅を多く建設してほしいです。
- 高齢者の賃貸住宅の契約について、目黒区の紹介（保証）によりスムーズに契約出来るようにしてほしい。
- 高齢者の安い区営住宅を増やしてほしいです。

### その他

- 乗り合いタクシーやミニバス（サンマバスの乗場）を増やしてほしい。
- 子どもの頃から“教育”の中に介護、看護を徳育として養っていく必要があります。
- 読書会など持病があっても参加できるような活動の場を幅広く紹介していただきたい。
- 高齢者も若者も子育て世代+子どもも共同で暮らせる施設を作りませんか？学校や保育園や図書館やショッピングセンターや娯楽施設などを合体させるのもいいと思います。
- 災害時（停電含む）の非常用電源の支給。
- 自宅内（近所含む）等火災時の消火器の支給。
- 独居高齢者です。とにかく話し相手が欲しい。

- ヤングケアラーや貧困家庭の子どもたちへの支援を強化していただきたい。
- 「男の料理教室」や「はじめての家事」など男性が参加しやすい講習やイベントを増やしていただけるとありがたい。
- 子ども、若者から高齢者、障害をもっている方など、顔みしりの交流の場の機会など住みやすい地域づくりを。
- オンライン手続きがほとんどになり、私などはうまくできません。対面での対応を充実させてください。
- アンケートの設問にあるように地域活動に参加しないからといって、その人がとじこもりがちだという一律的な類型化は正しくありません。それゆえケースバイケースできめ細かな対応が望まれます。
- 西部包括支援センターの相談会が非常に有意義なものでした。今後参加者が増え、大勢の方々が出席できる相談会が開催されることを望みます。
- 目黒区の地区毎の避難場所、最低限の持ち物を住民に認知させる。
- 住民の数といざというときの避難所のキャパシティが足りていないのは事実なので、そういう時の自宅被災の場合の保護(食料や水を含む)も考えてほしい。
- 区の生活パトロール車が無言で区内を走行しているが、ちょっとは有効なアナウンスでもやったらどうか。心が明るくなるような、天気良ければ外出がしたくなるような良いニュースやら。
- 一人暮らしの人が増加の傾向にありますが、体が動く人達が共同で暮らす仕組みがあれば、経済的、精神的等の色々な意味で不安が解消されるのではないかと考えたりもします。

## 15. リスク項目該当者の判定結果

### (1) 判定基準

以下の各項目の結果から、厚生労働省が示す判定基準に準じて判定を行った。

#### 【リスク項目該当者】

「運動機能リスク」、「栄養改善リスク」、「咀嚼機能リスク」、「口腔機能リスク」、「閉じこもりリスク」、「認知症リスク」、「うつリスク」、「IADLが低い高齢者」、「転倒リスク」の各項目について、以下の判定基準により判定した結果、いずれか1項目以上に該当した者。

#### 運動機能リスク(5問) 判定基準：下記選択肢で3問以上が該当する場合

問番号	設問	選択肢
問7	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問8	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問9	15分位続けて歩いていますか	3. できない
問10	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある
		2. 1度ある
問11	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である
		2. やや不安である

#### 栄養改善リスク(1問) 判定基準：BMI <18.5に該当する場合

問番号	設問	選択肢
問15	身長・体重(数字を記入してください。)	BMIが18.5未満

#### 咀嚼機能リスク(1問) 判定基準：下記選択肢に該当する場合

問番号	設問	選択肢
問16	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい

#### 口腔機能リスク(3問) 判定基準：下記選択肢で2問以上が該当する場合

問番号	設問	選択肢
問16	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問17	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
問18	口の渇きが気になりますか	1. はい

## 閉じこもりリスク(1問) 判定基準：下記選択肢に該当する場合

問番号	設 問	選択肢
問12	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない
		2. 週1回

## 認知症リスク(1問) 判定基準：下記選択肢に該当する場合

問番号	設 問	選択肢
問24	物忘れが多いと感じますか	1. はい

## うつリスク(2問) 判定基準：下記選択肢でいずれか1つ選択した場合

問番号	設 問	選択肢
問53	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
問54	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

## IADLが低い高齢者(5問) 判定基準：下記選択肢を選択した場合を1点とし、計3点以下の場合

問番号	設 問	選択肢
問27	バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)	1. できるし、している
		2. できるけどしていない
問28	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している
		2. できるけどしていない
問29	自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している
		2. できるけどしていない
問30	自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している
		2. できるけどしていない
問31	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している
		2. できるけどしていない

※IADL…手段的日常生活動作(instrumental activities of daily living)の略で、買い物、調整、洗濯、電話、薬の管理、財産管理、乗り物等の日常生活上の複雑な動作のこと。

## 転倒リスク(1問) 判定基準：下記選択肢に該当する場合

問番号	設 問	選択肢
問10	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある
		2. 1度ある

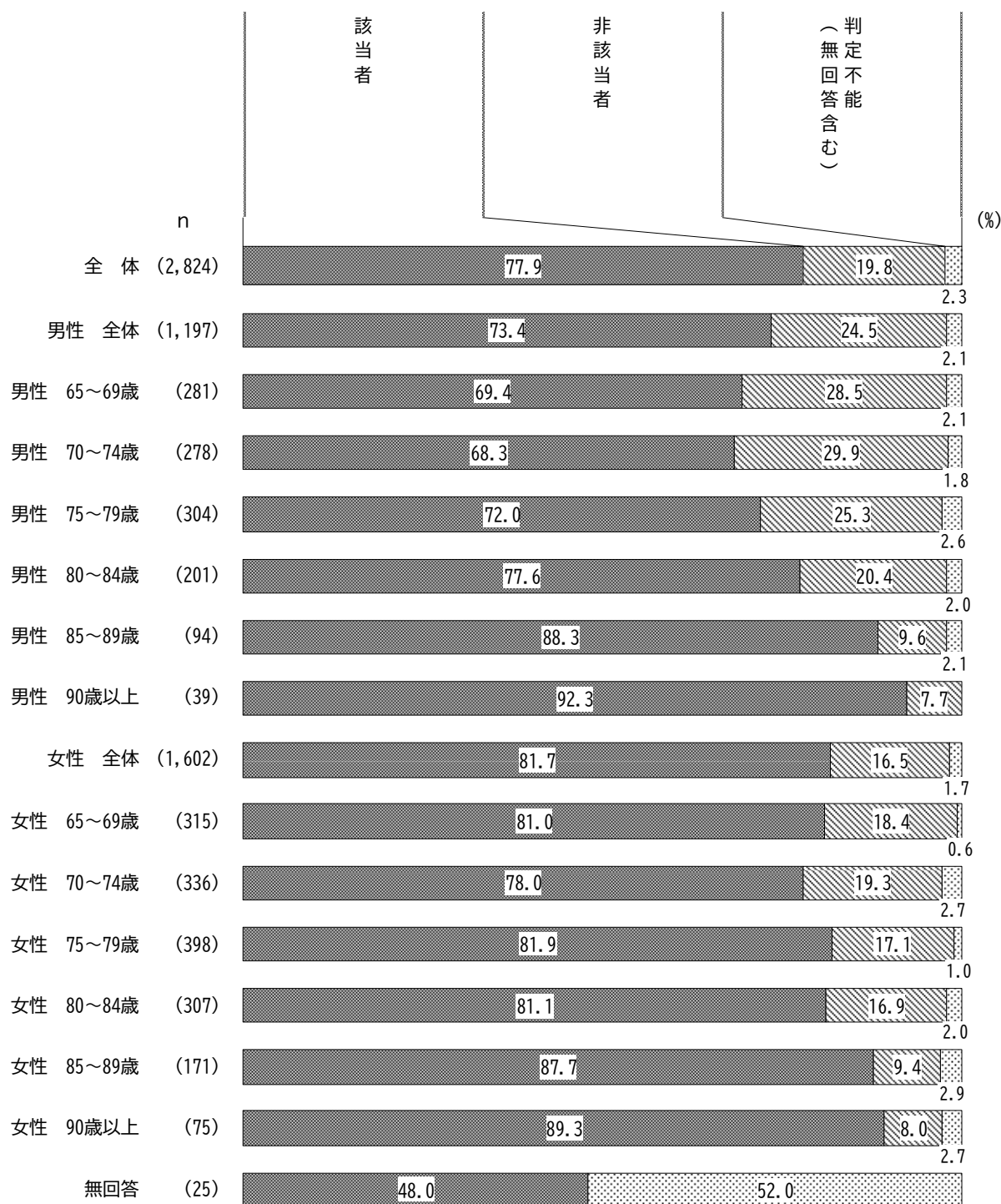
(2) 判定結果

①リスク項目該当者出現率（性別・年齢別）

回答者のうち、リスク項目該当者は全体で77.9%（男性73.4%、女性81.7%）、「該当しない」は19.8%（男性24.5%、女性16.5%）となっている。

年齢で見ると、男性の該当者は年齢が上がるほど高くなる傾向があり、「90歳以上」では92.3%となっている。女性の該当者は「70～74歳」を除く年齢で8割以上となっており、「90歳以上」で89.3%となっている。

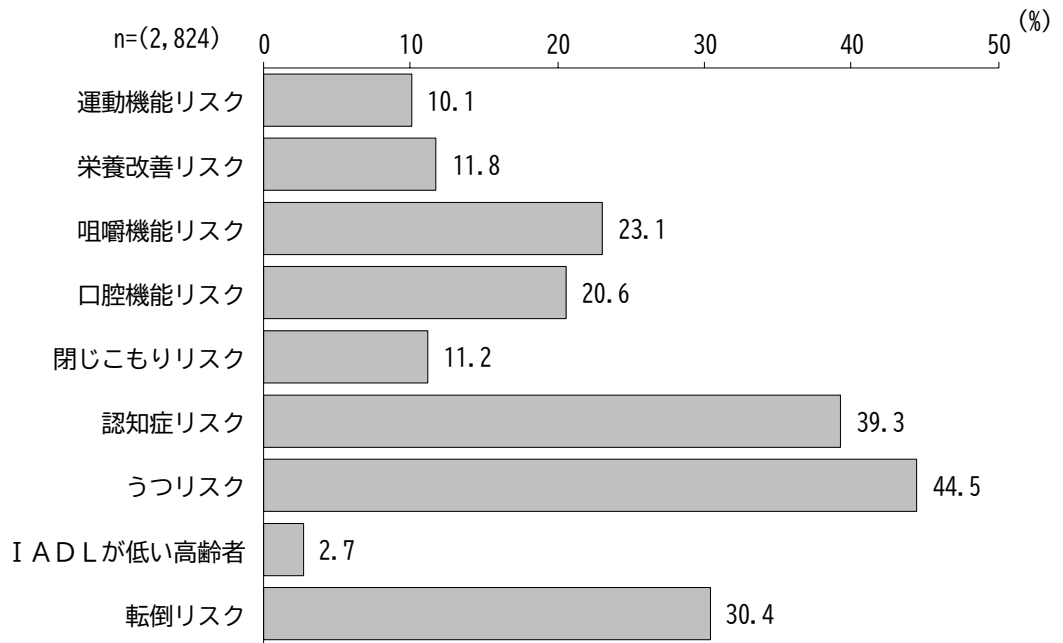
図表4-15-1 リスク項目該当者出現率（性別・年齢別）



②リスク項目別出現率

リスク項目別出現率は、「うつリスク」が44.5%で最も高く、次いで「認知症リスク」が39.3%、「転倒リスク」が30.4%となっている。

図表4-15-2 リスク項目別出現率



第4章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

リスク項目別出現率を性別で見ると、「栄養改善リスク」（男性5.5%、女性16.5%）で11.0ポイント、「うつリスク」（男性39.7%、女性48.3%）で8.6ポイント、女性が男性を上回っている。

年齢別にみると、男性では「65～69歳」「80～84歳」「85～89歳」で「うつリスク」が、「80～84歳」「85～89歳」「90歳以上」で「認知症リスク」が、「90歳以上」で咀嚼機能リスクがそれぞれ4割以上となっている。

女性ではすべての年齢で「うつリスク」が4割以上となっており、「85～89歳」「90歳以上」では「認知症リスク」が5割以上となっている。

図表4-15-3 リスク項目別出現率（性別・年齢別）

(上段:回答数、下段:%)

項目	調査数 (n)	運動機能 リスク	栄養改善 リスク	咀嚼機能 リスク	口腔機能 リスク	閉じこもり リスク	認知症 リスク	うつ リスク	IADLが低い 高齢者	転倒 リスク	
全体	2,824 100.0	286 10.1	333 11.8	652 23.1	582 20.6	316 11.2	1110 39.3	1256 44.5	75 2.7	859 30.4	
性別・年齢別	男性全体	1,197 100.0	90 7.5	66 5.5	277 23.1	247 20.6	133 11.1	470 39.3	475 39.7	34 2.8	344 28.7
	男性 65～69歳	281 100.0	8 2.8	8 2.8	37 13.2	41 14.6	14 5.0	107 38.1	123 43.8	1 0.4	70 24.9
	男性 70～74歳	278 100.0	12 4.3	12 4.3	52 18.7	51 18.3	25 9.0	102 36.7	92 33.1	4 1.4	65 23.4
	男性 75～79歳	304 100.0	23 7.6	21 6.9	76 25.0	62 20.4	40 13.2	117 38.5	111 36.5	10 3.3	85 28.0
	男性 80～84歳	201 100.0	28 13.9	13 6.5	59 29.4	54 26.9	29 14.4	85 42.3	92 45.8	10 5.0	77 38.3
	男性 85～89歳	94 100.0	12 12.8	9 9.6	36 38.3	29 30.9	14 14.9	43 45.7	42 44.7	6 6.4	34 36.2
	男性 90歳以上	39 100.0	7 17.9	3 7.7	17 43.6	10 25.6	11 28.2	16 41.0	15 38.5	3 7.7	13 33.3
	女性全体	1,602 100.0	195 12.2	265 16.5	369 23.0	329 20.5	182 11.4	635 39.6	773 48.3	40 2.5	511 31.9
	女性 65～69歳	315 100.0	12 3.8	58 18.4	40 12.7	45 14.3	14 4.4	106 33.7	157 49.8	-	91 28.9
	女性 70～74歳	336 100.0	26 7.7	58 17.3	58 17.3	53 15.8	14 4.2	117 34.8	155 46.1	-	104 31.0
	女性 75～79歳	398 100.0	31 7.8	65 16.3	90 22.6	79 19.8	44 11.1	146 36.7	192 48.2	5 1.3	110 27.6
	女性 80～84歳	307 100.0	50 16.3	45 14.7	89 29.0	79 25.7	42 13.7	142 46.3	151 49.2	13 4.2	106 34.5
	女性 85～89歳	171 100.0	46 26.9	28 16.4	60 35.1	48 28.1	40 23.4	86 50.3	82 48.0	10 5.8	71 41.5
	女性 90歳以上	75 100.0	30 40.0	11 14.7	32 42.7	25 33.3	28 37.3	38 50.7	36 48.0	12 16.0	29 38.7
無回答	25 100.0	1 4.0	2 8.0	6 24.0	6 24.0	1 4.0	5 20.0	8 32.0	1 4.0	4 16.0	

リスク項目別出現率を家族構成別にみると、「息子・娘の2世帯」を除く家族構成で「うつリスク」が最も高く、「1人暮らし」では49.7%となっている。「1人暮らし」「息子・娘との2世帯」で「認知症リスク」が4割以上となっている。

図表4-15-4 リスク項目別出現率（家族構成別）

(上段:回答数、下段:%)

項目		調査数 (n)	運動機能 リスク	栄養改善 リスク	咀嚼機能 リスク	口腔機能 リスク	閉じこもり リスク	認知症 リスク	うつ リスク	IADLが 低い 高齢者	転倒 リスク
全体		2,824 100.0	286 10.1	333 11.8	652 23.1	582 20.6	316 11.2	1110 39.3	1256 44.5	75 2.7	859 30.4
家族 構成 別	1人暮らし	708 100.0	88 12.4	106 15.0	191 27.0	152 21.5	84 11.9	286 40.4	352 49.7	10 1.4	236 33.3
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	1,056 100.0	84 8.0	111 10.5	212 20.1	212 20.1	105 9.9	400 37.9	443 42.0	28 2.7	304 28.8
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	120 100.0	5 4.2	9 7.5	18 15.0	17 14.2	5 4.2	42 35.0	52 43.3	2 1.7	35 29.2
	息子・娘との2世帯	435 100.0	50 11.5	51 11.7	119 27.4	103 23.7	68 15.6	189 43.4	176 40.5	21 4.8	137 31.5
	その他	452 100.0	56 12.4	53 11.7	103 22.8	91 20.1	49 10.8	176 38.9	213 47.1	13 2.9	136 30.1

第4章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

各リスト項目間の該当者重複状況をみると、すべてのリスク項目で「うつリスク」との重複が多く、5割以上となっている。また、「運動機能リスク」では73.1%が「転倒リスク」と重複しており、「咀嚼機能リスク」では62.3%が「口腔機能リスク」と重複している。

図表4-15-5 他のリスクとの重複状況

(上段:回答数、下段:%)

項目	調査数 (n)	運動機能 リスク	栄養改善 リスク	咀嚼機能 リスク	口腔機能 リスク	閉じこもり リスク	認知症 リスク	うつ リスク	IADLが低い 高齢者	転倒 リスク	
全体	2,824 100.0	286 10.1	333 11.8	652 23.1	582 20.6	316 11.2	1110 39.3	1256 44.5	75 2.7	859 30.4	
リスク別	運動機能リスク	286 100.0	286 100.0	32 11.2	126 44.1	126 44.1	92 32.2	149 52.1	193 67.5	47 16.4	209 73.1
	栄養改善リスク	333 100.0	32 9.6	333 100.0	93 27.9	84 25.2	44 13.2	130 39.0	179 53.8	17 5.1	103 30.9
	咀嚼機能リスク	652 100.0	126 19.3	93 14.3	652 100.0	406 62.3	133 20.4	350 53.7	374 57.4	46 7.1	277 42.5
	口腔機能リスク	582 100.0	126 21.6	84 14.4	406 69.8	582 100.0	125 21.5	361 62.0	376 64.6	38 6.5	272 46.7
	閉じこもりリスク	316 100.0	92 29.1	44 13.9	133 42.1	125 39.6	316 100.0	139 44.0	171 54.1	49 15.5	128 40.5
	認知症リスク	1,110 100.0	149 13.4	130 11.7	350 31.5	361 32.5	139 12.5	1110 100.0	630 56.8	47 4.2	441 39.7
	うつリスク	1,256 100.0	193 15.4	179 14.3	374 29.8	376 29.9	171 13.6	630 50.2	1256 100.0	52 4.1	493 39.3
	IADLが低い高齢者	75 100.0	47 62.7	17 22.7	46 61.3	38 50.7	49 65.3	47 62.7	52 69.3	75 100.0	42 56.0
	転倒リスク	859 100.0	209 24.3	103 12.0	277 32.2	272 31.7	128 14.9	441 51.3	493 57.4	42 4.9	859 100.0

(3) 地区別の判定状況

居住地区別にリスク項目の出現率をみると、すべての地区で「うつリスク」が最も高くなっており、それぞれ4割以上となっている。

図表4-15-6 リスク項目別出現率（居住地区別）

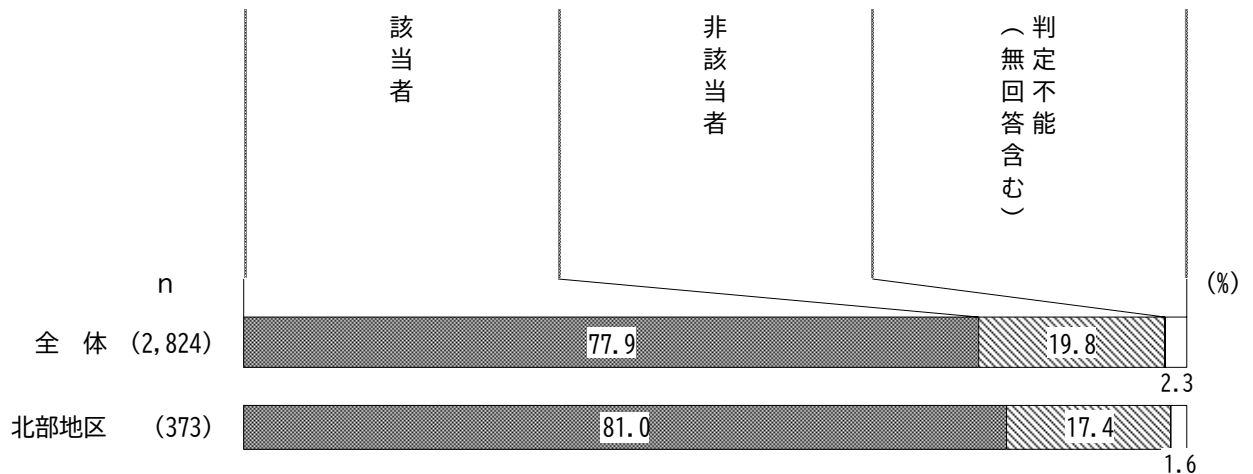
(上段:回答数、下段:%)

項目	調査数 (n)	運動機能 リスク	栄養改善 リスク	咀嚼機能 リスク	口腔機能 リスク	閉じこもり リスク	認知症 リスク	うつ リスク	IADLが 低い 高齢者	転倒 リスク	
全体	2,824 100.0	286 10.1	333 11.8	652 23.1	582 20.6	316 11.2	1110 39.3	1256 44.5	75 2.7	859 30.4	
居住地区	北部地区	373 100.0	36 9.7	46 12.3	74 19.8	73 19.6	40 10.7	150 40.2	158 42.4	4 1.1	117 31.4
	東部地区	545 100.0	48 8.8	67 12.3	127 23.3	109 20.0	64 11.7	208 38.2	253 46.4	9 1.7	169 31.0
	中央地区	586 100.0	64 10.9	52 8.9	135 23.0	122 20.8	68 11.6	222 37.9	254 43.3	17 2.9	181 30.9
	南部地区	555 100.0	71 12.8	70 12.6	141 25.4	128 23.1	67 12.1	234 42.2	246 44.3	22 4.0	167 30.1
	西部地区	764 100.0	67 8.8	97 12.7	174 22.8	149 19.5	76 9.9	295 38.6	344 45.0	23 3.0	224 29.3

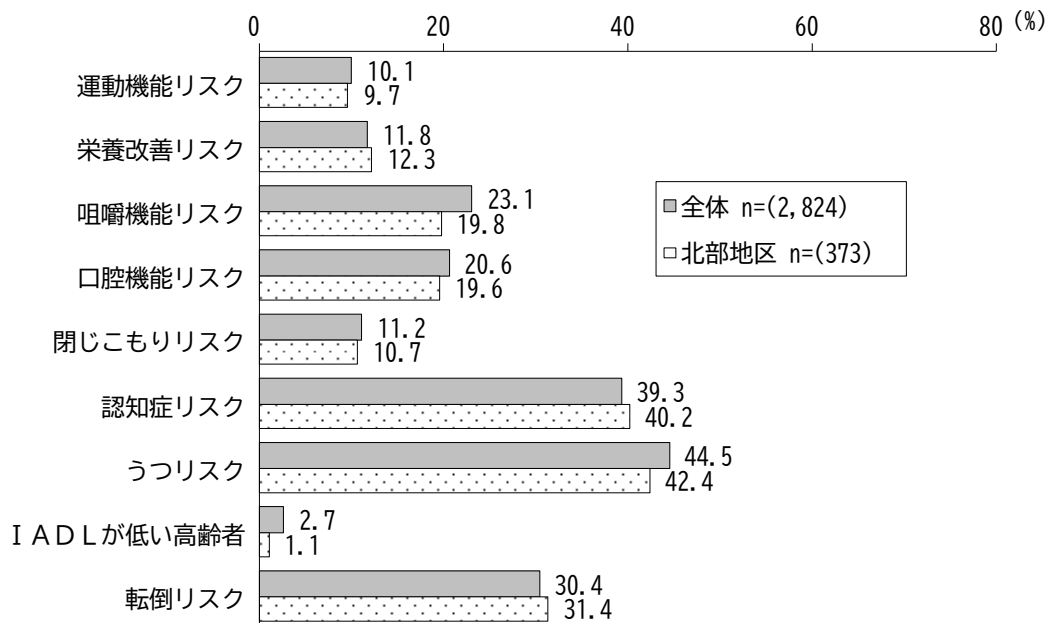
①北部地区

北部地区のリスク項目該当者は81.0%となっており、全体と比較して3.1ポイント上回っている。リスク項目別に出現率をみると、「栄養改善リスク」「認知症リスク」「転倒リスク」の3項目が全体の出現率を上回っている。

図表4-15-7 リスク項目該当率（北部地区）



図表4-15-8 リスク項目別該当比較（北部地区）

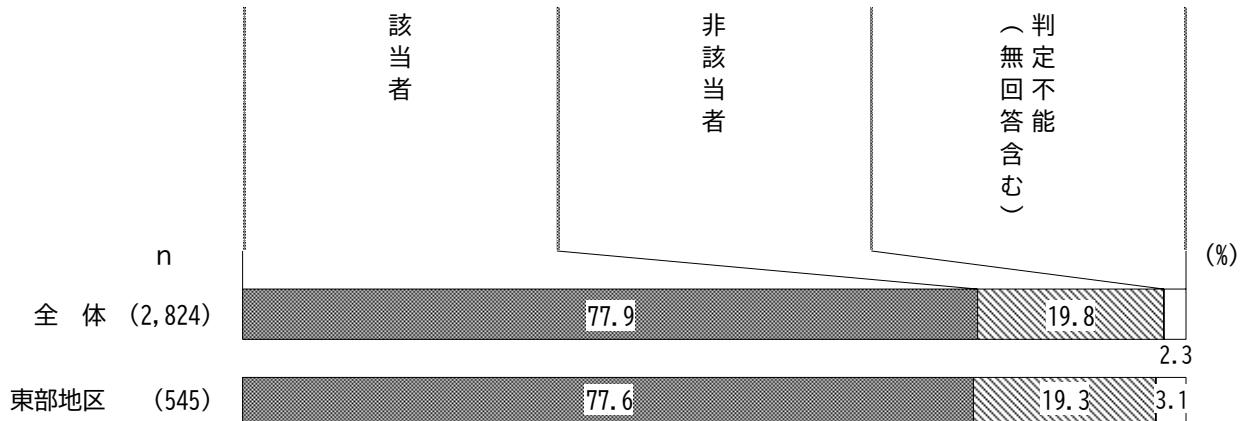


②東部地区

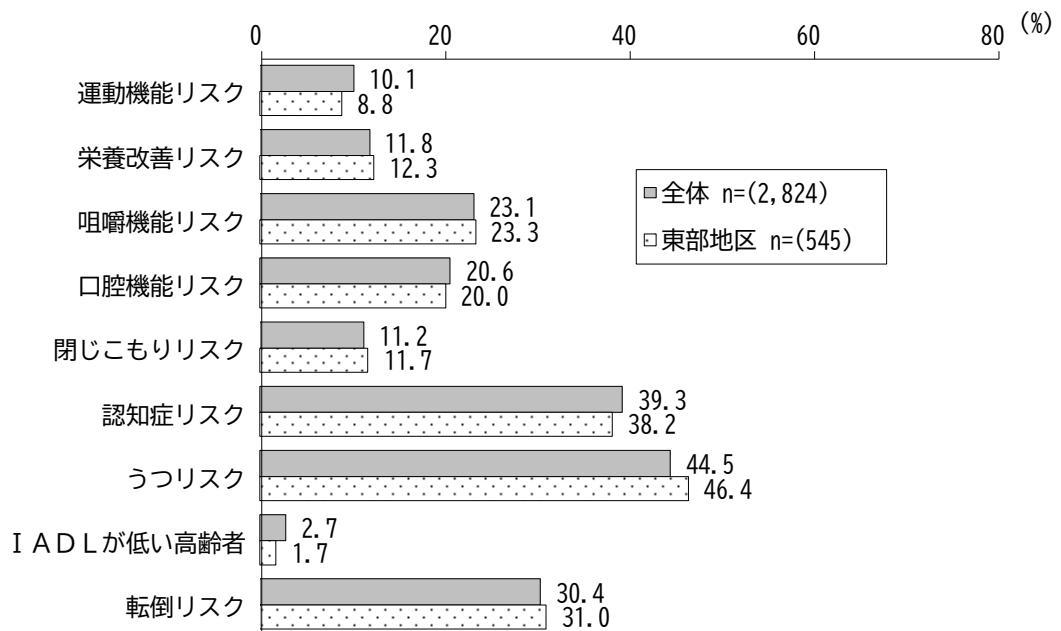
東部地区のリスク項目該当者は77.6%となっており、全体と比較して0.3ポイント下回っている。

リスク項目別に出現率をみると、「栄養改善リスク」「咀嚼機能リスク」「閉じこもりリスク」「うつリスク」「転倒リスク」の5項目が全体の出現率を上回っている。

図表4-15-9 リスク項目該当率（東部地区）



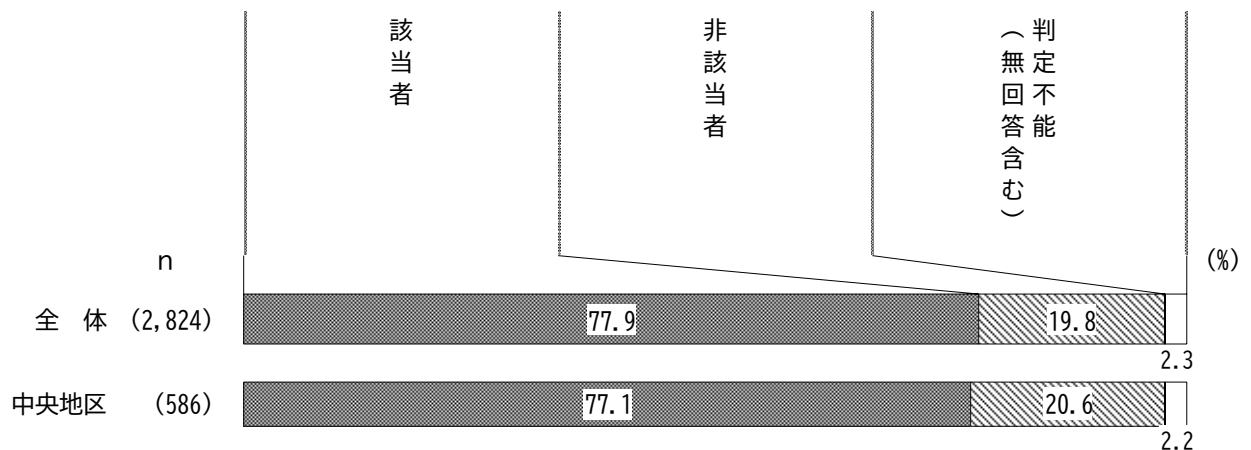
図表4-15-10 リスク項目別該当比較（東部地区）



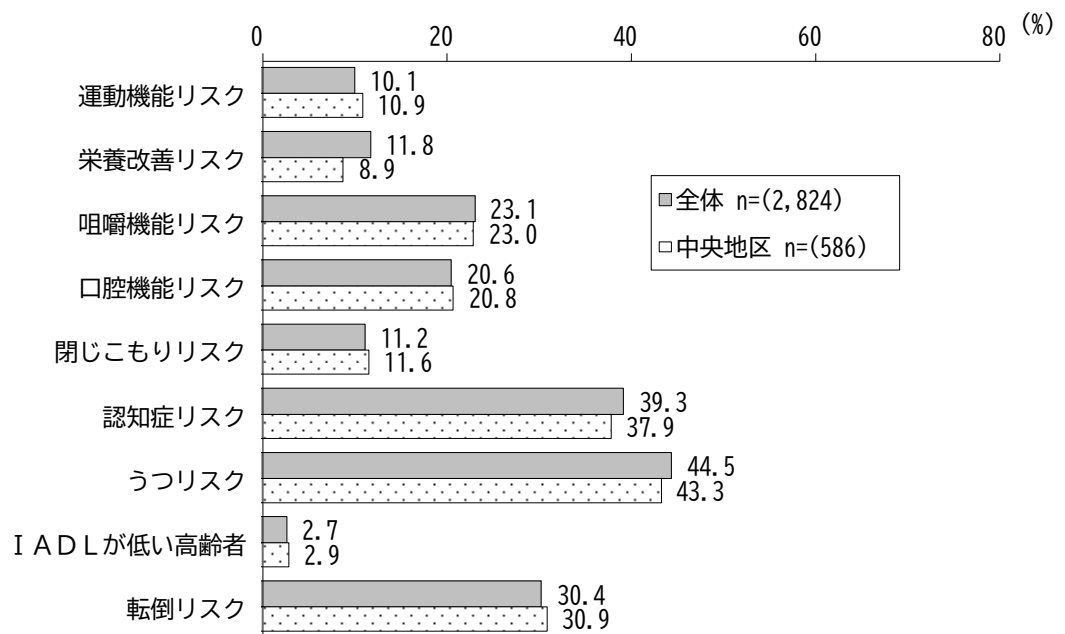
③中央地区

中央地区のリスク項目該当者は77.1%となっており、全体と比較して0.8ポイント下回っている。リスク項目別に出現率をみると、「運動機能リスク」「口腔機能リスク」「閉じこもりリスク」「IADLが低い高齢者」「転倒リスク」の5項目で全体の出現率を上回っている。

図表4-15-11 リスク項目該当率（中央地区）



図表4-15-12 リスク項目別該当比較（中央地区）

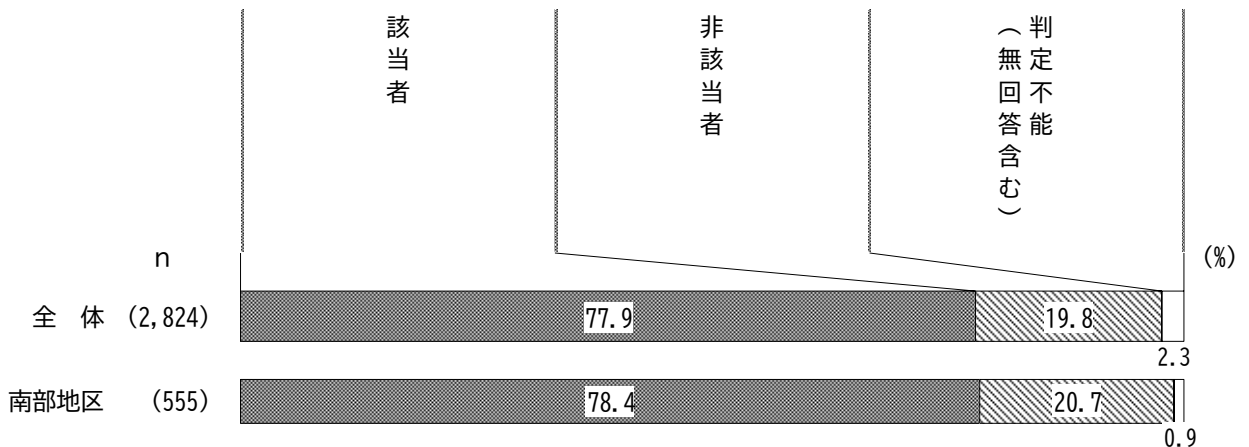


④南部地区

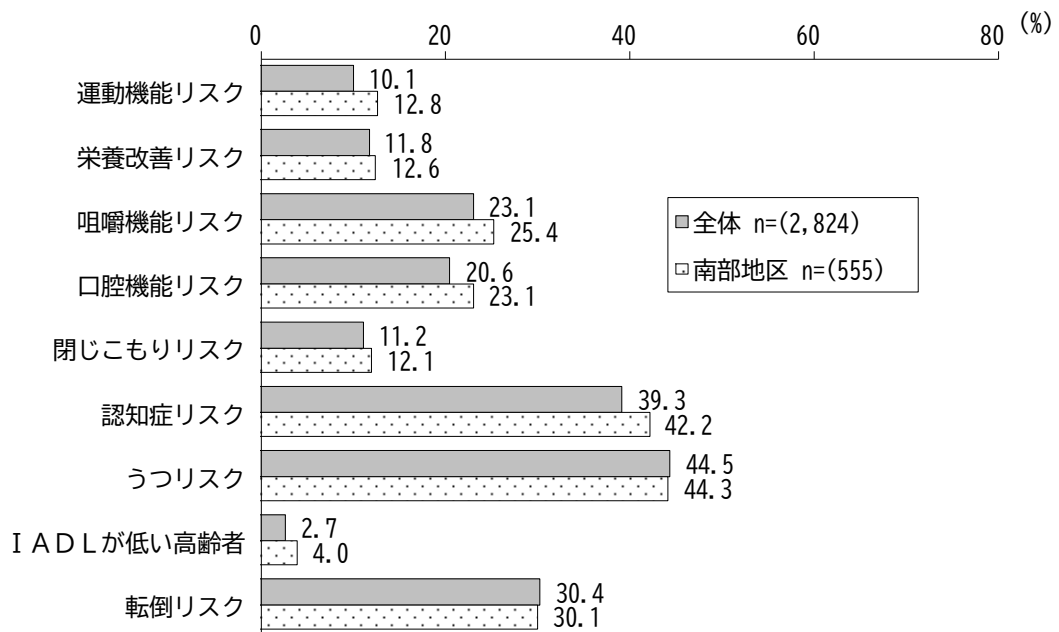
南部地区のリスク項目該当者は78.4%となっており、全体と比較して0.5ポイント上回っている。

リスク項目別に出現率をみると、「運動機能リスク」「栄養改善リスク」「咀嚼機能リスク」「口腔機能リスク」「閉じこもりリスク」「認知症リスク」「IADLが低い高齢者」の7項目で全体の出現率を上回っている。

図表4-15-13 リスク項目該当率（南部地区）



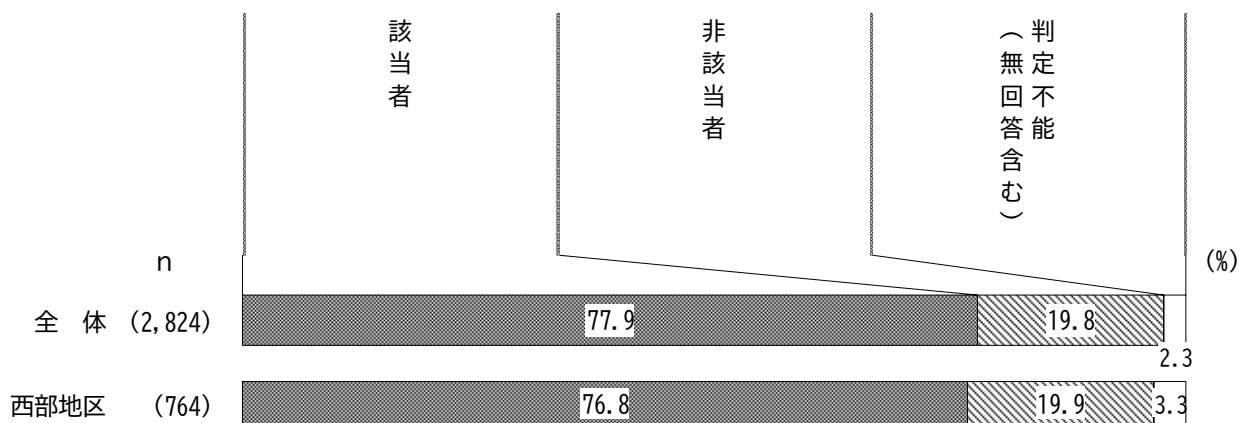
図表4-15-14 リスク項目別該当比較（南部地区）



⑤西部地区

西部地区のリスク項目該当者は76.8%となっており、全体と比較して1.1ポイント下回っている。リスク項目別に出現率をみると、「栄養改善リスク」「うつリスク」「IADLが低い高齢者」の3項目で全体の出現率を上回っている。

図表4-15-15 リスク項目該当率（西部地区）



図表4-15-16 リスク項目別該当比較（西部地区）

